青森市埋蔵文化財調査報告書 第17集

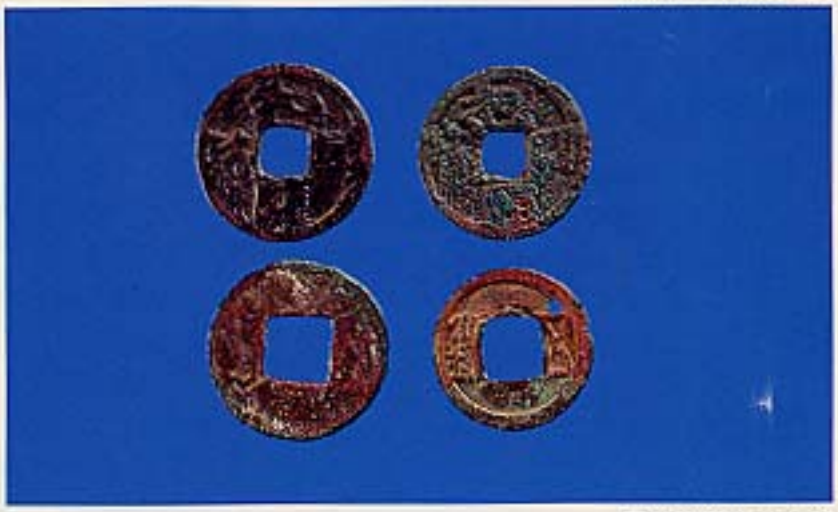
埋蔵文化財出土遺物
調査報告書

——市内出土の古銭——

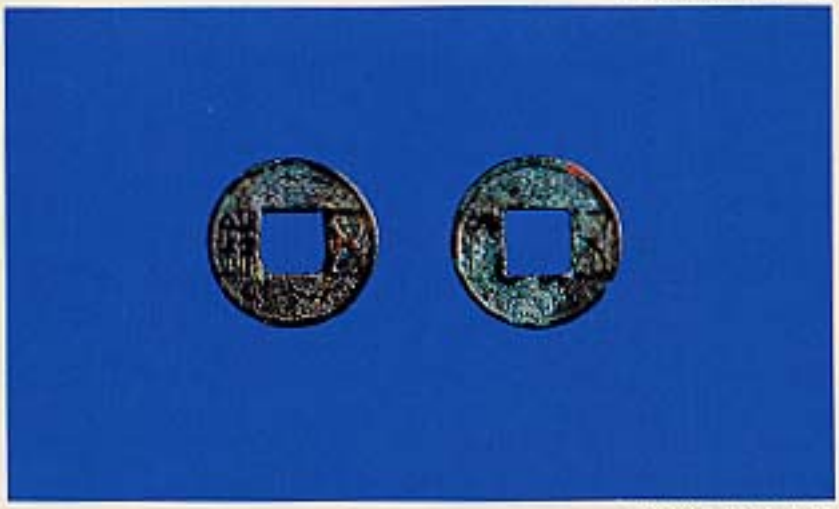
平成３年度

青森市教育委員会

新城地区出土古銭



員内地区出土古銭



原別地区出土古銭

序

現在、青森市内には確認されているだけでも、約200箇所もの遺跡が所在しております。

私たちは、この遺跡から遠い祖先が築きあげた多くの貴重な知恵を学びとることができ、郷土の歴史の流れを読みとることができます。

当委員会では、これまで幾つかの遺跡の発掘調査を実施してまいりました。

その結果、発掘調査の成果を通して当市の歴史は、少しずつではありますが、解き明かされてきております。

このように、歴史を解明するうえで遺跡の発掘調査が果す重要性は、言うまでもないことでありますが、もう一つ見逃すことのできない歴史解明の重要な鍵として、偶然によって発見された歴史的文物の存在を挙げることができると思います。

偶然の発見による遺物が思いもよらぬ歴史的大発見へと進展した事例が、これまで幾度か報道機関によって大きく取り上げられてきましたことは周知のとおりであります。

平成3年度は、当委員会にとりまして、まさにこの偶然がとりもってくれた古銭のあたり年であったと表現しても過言ではありませんでした。

春には、市内新城地区において宅地造成現場の工事中に多量の古銭が発見されたとの連絡を受け、秋には、奥内地区において以前水田工事中に発見された多量の古銭の寄贈を受け、さらに冬には、原別地区において、やはり以前自宅の敷地内整地中に発見された多量の古銭を実見できる機会に恵まれ、当委員会としましては、1年間に総計2万枚をこえる古銭と対面することができたという次第であります。

これら3箇所で発見された古銭は、いずれも多量かつ偶然に発見されたものではありますが、これらの古銭が当市の歴史、とりわけ中世における貨幣流通史を研究するうえで極めて貴重かつ意義深い資料となり得たことは、申し上げるまでもないことと存じます。

本書は、こうした多量の古銭についてまとめたものでありますが、ここに本書を刊行することができましたことは、ひとえに発見者、所有者並びに斯学研究者をはじめとする関係各位の御理解と御好意並びに御指導の賜ものによるものと、ここに深く感謝の意を表する次第であります。

最後となりましたが、本書が研究者はもとより市民各位にとりましていささかでも青森市の歴史を紐解く鍵として役立つことができますよう念じております。

平成4年3月

青森市教育委員会

教育長　花　田　陽　悟

例　　言

1、　本書は、青森市内４箇所の地区から出土した古銭について、その整理作業結果をまとめた報告書である。

1、　本書の内容は、対象が古銭という比較的特異な埋蔵文化財であること、出土した古銭が多種多量であること、これまで市内における古銭に関する集成した文献がなかったことなどの諸点を考慮し、できるだけ多くの資料を掲載することを第一義として記述している。

1、　本書の構成は、次のとおり出土地区ごとに章単位に分けて記述している。

新城地区……第Ⅰ章
奥内地区……第Ⅱ章
東部地区（原別・野内）……第Ⅲ章

1、　本書の第Ⅲ章に掲載した東部地区２地点から出土した古銭については、以前、実見し整理をされたことのある青森市文化財審議会委員葛西励氏より玉稿を賜ったので原文のまま掲載した。なお、第Ⅲ章中の地図及び写真は当委員会で作成したものである。

1、　本書の執筆・編集は、青森市教育委員会が行い、執筆者については、第Ⅲ章以外は各々文末に付している。

1、　本書に掲載した図版の縮尺は、各図版ごとに表示しているが、それのないものは任意の縮尺である。

1、　本書に掲載した古銭の読み方・初鋳年代等については、1972年日本銀行調査局編『図録日本の貨幣』、1973年市立函館博物館『函館志海苔古銭』、1958年中橋掬泉『新撰古銭大鑑』を参考とした。

1、本書に掲載した古銭並び図版等の資料について、その保管は次のとおりである。

新城地区出土古銭・関係資料……青森市教育委員会
奥内地区　〃　〃　……　〃
東部原別地区出土古銭……小笠原昌衛氏宅（市内原別）
東部野内地区　〃　……山口貞蔵氏宅　（市内野内）

1、　本書をまとめるにあたり、次の機関・各位に御協力・御指導を賜った。ここに深く感謝の意を表する次第である。（敬称略・順不同）

青森県教育庁文化課・青森県埋蔵文化財調査センター・青森県立郷土館・市立函館博物館・八戸市教育委貞会・弘前市教育委員会・浪岡町歴史民俗資料館・尾上町中央公民館・田舎館村歴史民俗資料館・株式会社大坂組

小笠原昌衛・葛西　励・木村浩一・工藤清泰・佐藤　肇・佐藤秀男・武田嘉彦・田原良信・千葉浩・千代　肇・中村千代栄・村越　潔・山口貞蔵

目　　次

巻頭写真（カラー）
序
例言
目次
はじめに
第Ⅰ章　新城地区出土古銭 ……1
第１節　出土から整理に至る経緯……1
第２節　出土地点と周辺の遺跡……2
第３節　出土古銭と伴出遺物……5
第４節　小結……14
写真図版 ……18
第Ⅱ章　奥内地区出土古銭 ……22
第１節　出土から整理に至る経緯……22
第２節　出土地点と周辺の遺跡……23
第３節　出土古銭と伴出遺物……23
第４節　小結……34
写真図版 ……39
第Ⅲ章　青森市東部地域出土の古銭について ……43
はじめに ……43
原別古銭 ……43
野内古銭 ……48
まとめ ……48
写真図版 ……57
第Ⅳ章　青森県内の古銭 ……61
第１節　県内出土古銭の概要……61
第２節　小結……69
まとめ ……73

はじめに

平成３年度、青森市教育委員会では、２万枚をこす多量の古銭について観察・分類の整理作業を実施した。これら多量の古銭は、市内３箇所の地区において、いずれも工事中などの際、偶然に発見されたものである。当委員会では、これらの古銭が、当市の歴史を知るうえで極めて貴重な文化財資料となり得ることから、広く公開・活用を図るため、古銭の整理作業を行い、その結果をまとめ報告書として刊行することとした。

整理作業及び報告書作成までの事業は、以下のとおりである。

事業実施要項

1、事業実施期間　　平成４年１月 27 日から同年３月 31 日まで

2、事業主体者　　青森市教育委員会

3、事業担当者　　社会教育課埋蔵文化財係

4、事業実施予算　　市費

5、事業実施体制　　青森市教育委員会

教育長　　花田　陽悟

理事・教育次長　　阿部祐之助

社会教育課長　　寺沢松三郎

同課長補佐　　遠藤　正夫

同課　主事　　武田　　均・上野　隆博

調査補助員　　永井　　治・金山　晃道

整理作業員　　吉田　禮子・斉藤　春

6、報告書刊行部数　　300 部

7、出土遺物の措置　　本書に掲載した３地区のうち、新城・奥内両地区の古銭は、青森市埋蔵文化財展示室（青森市教育研修センター内3階）で、原別地区の古銭の一部は、青森市文化センターで各々公開・展示する予定である。

（遠藤正夫）

第Ⅰ章　新城地区出土古銭

第１節　出土から整理に至る経緯

平成3年5月15日夕方、市内新城字平岡の地区で宅地造成工事を進めていた株式会社大坂組の現場担当者から、青森市教育委員会に工事中の現場から多量の古銭が発見されたとの連絡が入った。市教育委員会では、翌16日に担当職員を現地に派遣することとし、その日は、できるだけ現地を古銭が出土した状況のままにしておいてもらうよう依頼した。5月16日に社会教育課埋蔵文化財担当職員が現地に赴き、佐藤肇氏ほか数名の発見当事者から発見当時の状況の説明を受けた。説明によると、りんご園であった土地を宅地造成するため、重機で地表面下約30cmの探さまで削平中に、容器らしい物に入っていた古銭が重機の爪で削られ、古銭が削土とともに周囲に散乱し、古銭の発見となったとのことであった。幸いにも、この容器は、その大半が削土中に混入し、探し当てることはできなかったものの、その底と思われる一部が土中に残存していたので、古銭の埋蔵地点を特定することができた。

その日は、周囲に散乱していた無数の古銭を拾い集めることとし、翌17日に埋蔵地点の周辺を簡易な調査を実施したい旨を相手方に伝え、大坂組からは、それに対する快諾を得るとともに、発見された古銭に関し、その処置を市教育委員会に一任する旨の申し出もいただいた。

早速17日、担当職員が現地で関連する遺構及び遺物の確認作業を行ったが、遺構に関してはまったく検出することができず、また、他に埋蔵された古銭も発見されなかった。

Fig 1　出土地点と古銭

この多量の古銭に関しては、埋蔵地点の土地所有者であった中村千代栄氏と発見者の大坂組の御理解と御好意により、古銭を青森市教育委員会が取り扱うこととした。そこで市教育委員会では、平成3年5月18日付けで、この古銭を遺失物法の規定により青森警察署に遺物（埋蔵文化財）発見届を提出した。それに対し、平成3年6月24日付けで青森県教育委員会からこの発見された埋蔵物を文化財として認定した通知があった。

以上の経緯を経て、この古銭が極めて学術的にも貴重な資料であることから、広く埋蔵文化財の啓蒙・活用に供することが最良策であると考え、年度途中であったが12月に予算を計上し整理作業を実施し、報告書を刊行することとした次第である。（遠藤正夫）

第2節　出土地点と周辺の遺跡

今回出土した古銭は、青森平野の西方、八甲田山系を分水嶺とする沖館川と新城川に挟まれた標高約20mの河岸段丘上から出土した。

出土地点周辺の歴史時代の遺跡を見ると、出土地点北側には多数の遺跡が確認されているものの、発掘調査が行われていないため、全容は明かにされていない。

出土地点南西側、三内地区は、「永禄日記」（元和9年・1623年）、「栖家の山」（寛永8年・1796年）といった古文献に記載されている地区である。これらの文献には、円筒土器・土偶等の出土の記載がされているが、歴史時代の遺物には触れていない。しかし、三内地区は縄文時代の大集落跡であるとともに、平安時代の大集落跡でもあることが昭和48年からの青森県教育委員会による近野遺跡・三内遺跡等の発掘調査によって確認されている。

次に周辺の城館跡を見ると、北から、油川城跡（奥内地区出土古銭第8図参照）・新城跡・三内遺跡（三内館遺跡）・細越舘遺跡等が所在している。

油川城跡は、平野に突出した低丘陵地の突端を利用して構築された4郭からなる城である。

北畠氏関係の奥瀬善九郎の居城であり、天正13年（1585年）3月、大浦為信による外ヶ浜攻略の際、戦わずして落城したと言われている。[註1] また、城跡付近からは、擦文土器や永樂通寶を下限銭貨とする958枚の古銭が発見されている。

新城跡は、油川城跡と類似した地形を利用して構築された3郭からなる城である。

由来は明らかではないが、元来、蝦夷館である場所を十三の安東氏が拠点とし、その後、北畠氏関係の新城源次郎が拠点とした所であると言われている。[註2]

三内館遺跡は、昭和51年に発掘調査された際に、空堀の一部が精査された。しかし、館と調査された遺構とは同時代であるとは確定できないものの、何らかの関係があるのではないかと考えられている。また、館の北側には昭和45年に須恵器窯跡が確認されている。形状は五所川原市の前田野目古窯跡群と同じ半地下式無階無段登窯であると報告されている。[註3]

第1図　出土地点と周辺の歴史時代の遺跡

第１表　周辺の歴史時代の遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	遺跡番号	所　在　地	種類	時　　代	文　献　等
1	西高校遺跡	01062	新城字平岡266－20	包蔵地	弥生・歴史	
2	三内沢部（1）遺跡	01064	三内字沢部307・455	集落跡	縄文早期～晩期・歴史	『三内沢部発掘調査報告書』
3	近野遺跡	01065	安田字近野、三内丸山	集落跡	縄文前期～晩期・歴史	『近野道跡発掘調査報告書』
4	細越館遺跡	01066	細越字栄山	城　館	中世	『青森県の中世城舘』『日本城郭大系2』
5	新城平岡（2）遺跡	01069	新城字平岡	包蔵地	縄文後期・歴史	
6	高間（3）遺跡	01072	石江字高間	包蔵地	縄文後期・歴史	
7	高間（4）遺跡	01073	石江字高間	散布地	縄文前・後期・歴史	
8	高間（5）遺跡	01074	新城字平岡	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
9	高間（6）遺跡	01075	石江字高間	包蔵地	縄文・歴史	
10	西バイパス（1）遺跡	01077	新城字平岡	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
11	西バイパス（2）遺跡	01078	新城字平岡	包蔵地	縄文早・前・後期、歴史	
12	西バイパス（3）遺跡	01079	新城字平岡	包蔵地	歴史	
13	西バイパス（4）遺跡	01080	新城字平岡	包蔵地	歴史	
14	西バイパス（5）遺跡	01081	新城字平岡	包蔵地	歴史	
15	岡町（2）遺跡	01082	岡町字天田内	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
16	岡町（4）遺跡	01084	岡町字宮本	包蔵地	縄文後期・歴史	
17	岡町（5）遺跡	01085	羽白字野木和・富田	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
18	岡町（6）遺跡	01086	羽白字野木和・富田	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
19	岡町（7）遺跡	01087	羽白字野木和	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
20	岡町（8）遺跡	01088	羽白字野木和	包蔵地	縄文後期・歴史	
21	岡町（9）遺跡	01089	羽白字宮本	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
22	野木和（3）遺跡	01091	羽白字野木和	包蔵地	縄文後期・歴史	
23	小三内遺跡	01017	三内字丸山	集落跡	縄文前・中・晩期・歴史	『日本考古学年報8』
24	三内遺跡	01019	三内字丸山325・345他	城　館	旧・縄文早期～後期・歴史	『北奥古代文化』4号
25	三内丸山（1）遺跡	01020	三内字丸山284～287	集落跡	縄文中期・歴史	『三内丸山1遺跡発掘調査報告書』
26	天田内遺跡	01024	新城字天田内、岡町字宮本	包蔵地	縄文中・晩期・歴史	『東北新幹線関係遺跡分布調査』
27	新城山田	01166	新城字山田662－3	散布地	縄文晩期・歴史	『遺址』創刊号
28	新城跡	01167	新城字平岡	城　館	中世	『青森県の中世城館』『日本城郭大系2』

青森県で最古の土師器が出土した細越館遺跡から入内断層に沿って、南方約2．3kmの地点に朝日山遺跡（第１図には記載なし）が所在している。昭和57年・平成２・３年と発掘調査が行われており、平安時代後期を主体とする集落跡であることが確認されている。平成3年度の調査では、掘立柱建物跡の母屋の北東隅の柱穴に地鎮のためと考えられる永樂通寶を含む2枚の古銭が埋納されていた。(註4) 平成４年度も調査予定である。

前述したこれらの遺跡を第１表にまとめておく。

第3節　出土古銭と伴出遺物

出土状況

本古銭は、リンゴ園であった土地を宅地造成のために、重機により地面を削平している際に、地表下約30cmのところより曲げ物に入って出土したものである。しかし、現地調査に赴いたときは、散乱している古銭とともに、曲げ物の残片が残っているだけであった。　地主の話によると、リンゴ園の前は畑地であり、耕作時に若干の陶磁器類が出土したということである。しかし、出土地点からは柱穴・土壙等の遺構は検出されなかった。

出土古銭

古銭の総数は8,182枚である。しかし、重機による削平のため曲げ物が破壊され、古銭が散乱している状況であったため、この8,182枚は表面採集できた枚数であり、実際の枚数は若干増えるものと思われる。古銭の状態は全般に粗悪なものが多く、全面に緑青が浮いており、摩滅・破銭が多いことから選別には手間取り、4割近く判別することができなかった。

8,182枚の古銭は、九六勘定を用いると貫目にして8貫500文である。15世紀末の米一石の価格は、京都・奈良では一石当たり600文から1貫が相場であり、東西の物価の差は当然あるが、一番低い600文で計算しても約13石分である。(註5)

古銭は、10数枚の緡状のものがわずかに発見できただけで、ほとんどが個別の状態であり、一緡の枚数は把握することができなかった。しかし、出土状況及び曲げ物についていた圧痕から推察すると、緡状のものは少なく、大部分は個別の状態であったと考えられる。

緡は、2本の紐を撚り、ひとえ結び（奥内地区参考図参照）により止めを形成するものが主である。また、止めの残部から推察すると、一度止めた後、紐の残部に続けて緡を形成していたと思われるものがあった。材料は、イネ科植物またはイラクサ類の植物であると思われる。

銭種は、唐の開元通寶を上限に、安南の洪徳通寶（初鋳1470年）までの47種（無文銭は除く）であり、本邦銭は含まれていない。下限の初鋳年のみで他の一括出土の例と比較すると、県内では一番新しいものである。

鋳造国別比率は、鋳名が判明したもので、唐8.02%、前蜀0.03%、後周0.03%、宋44.95%、南宋0.40%、金0.17%、元0.03%、明46.01%、李0.20%、琉球0.03%、安南0.13%であった。

宋銭と明銭で90%以上を占めているが、一括出土の場合、宋銭より明銭の比率が高い例は県内では少なく、西目屋村砂子瀬から出土した古銭が宋58%、明33%という比率であり、唯一近い例である。しかし、判読不能銭としたものの中には、宋銭がかなりの比率で含まれている可能性もある。

次に各々の枚数を見ると、洪武通寶が1,330枚（うち破銭630枚）と群を抜いており、次いで開元通寶235枚、祥符元寶172枚、祥符通寶158枚、元豊通寶146枚という状態であり、無文銭は1,851枚と総数の20％を越える量であった。ただし、精銭と模鋳銭の区別までは、時間の都合上、選別まではできなかったが、郭抜け・鋳崩れ等の古銭が数多く見られることから、模鋳銭は相当数混入していると考えられる。しかし、本邦模鋳銭の1種である島銭・洪武銭に見られる加治木銭は含まれていなかった。また、枚数的には少ないものの、中国銭以外の朝鮮通寶（李）6枚・大世通寶（琉球）1枚・光順通寶・洪徳通寶（安南）各2枚の出土があった。大世通寶・光順通寶は、県内では初めての出土と思われる。

古銭を観察すると、前述のとおり、全般的に薄手で脆く、粗悪なものである。さらに銭径の差の著しいもの、銭文が不鮮明なものが目立つ。この状態は、鋳写鐚銭に見受けられる状態であり、本古銭の大部分は、鋳写鐚銭が主体でないかとも思われる。

背文の観察では、開元銭に鋳造地を表す「宣」が、洪武銭に同じく鋳造地を表す「浙・北平」や「一錢」と記されているものがある。また、南宋銭では淳熙元寶以後、背に鋳造年次の文字を入れるようになるが、ここでは半数以上が記されていないことからも模鋳銭の比率の高さをうかがうことができる。

明らかな加工銭と判断できるものもあり、内郭加工としては、十字に傷をつけているもの、円穿にしているもの等、外輪加工としては、外輪を研摩し小径にしているもの、外輪の対面に抉りを入れているもの等見受けられた。また、古銭の摩滅が激しいことは前述したが、意図的に表面を摩滅させているものも相当数あると思われる。

以下、種別・枚数を第2表に、拓影に使用した古銭の観察表を第3表にまとめておく。

伴出遺物

陶磁器類

古銭の表面採集の際、数片の陶磁器類を採集できたが、すべて時期を確定するまでには至らなかった。

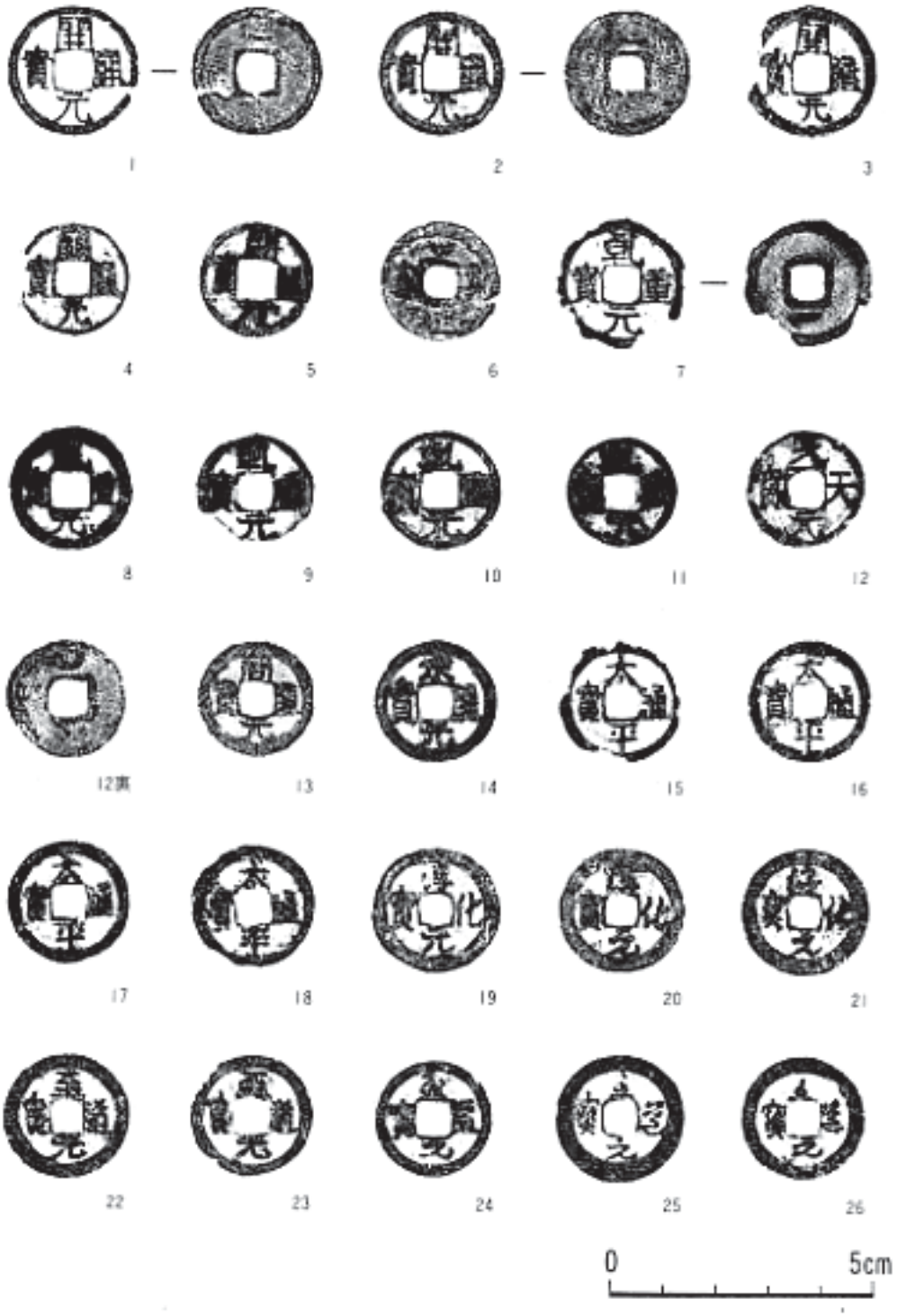
曲　げ　物

残片だけであるために形態の詳細は不明であるが、ヒバ製の曲げ物で、厚さ2㎜、残片の湾曲率から推定30㎝前後であると思われる。曲げ物に入って出土した例としては、平賀町館山・蓬田村蓬田山等が挙げられる。ただし、この容器では8,000枚以上の古銭の重量に耐えれるとは考えにくく、先に曲げ物を埋めた後、古銭を納めたものと推察される。

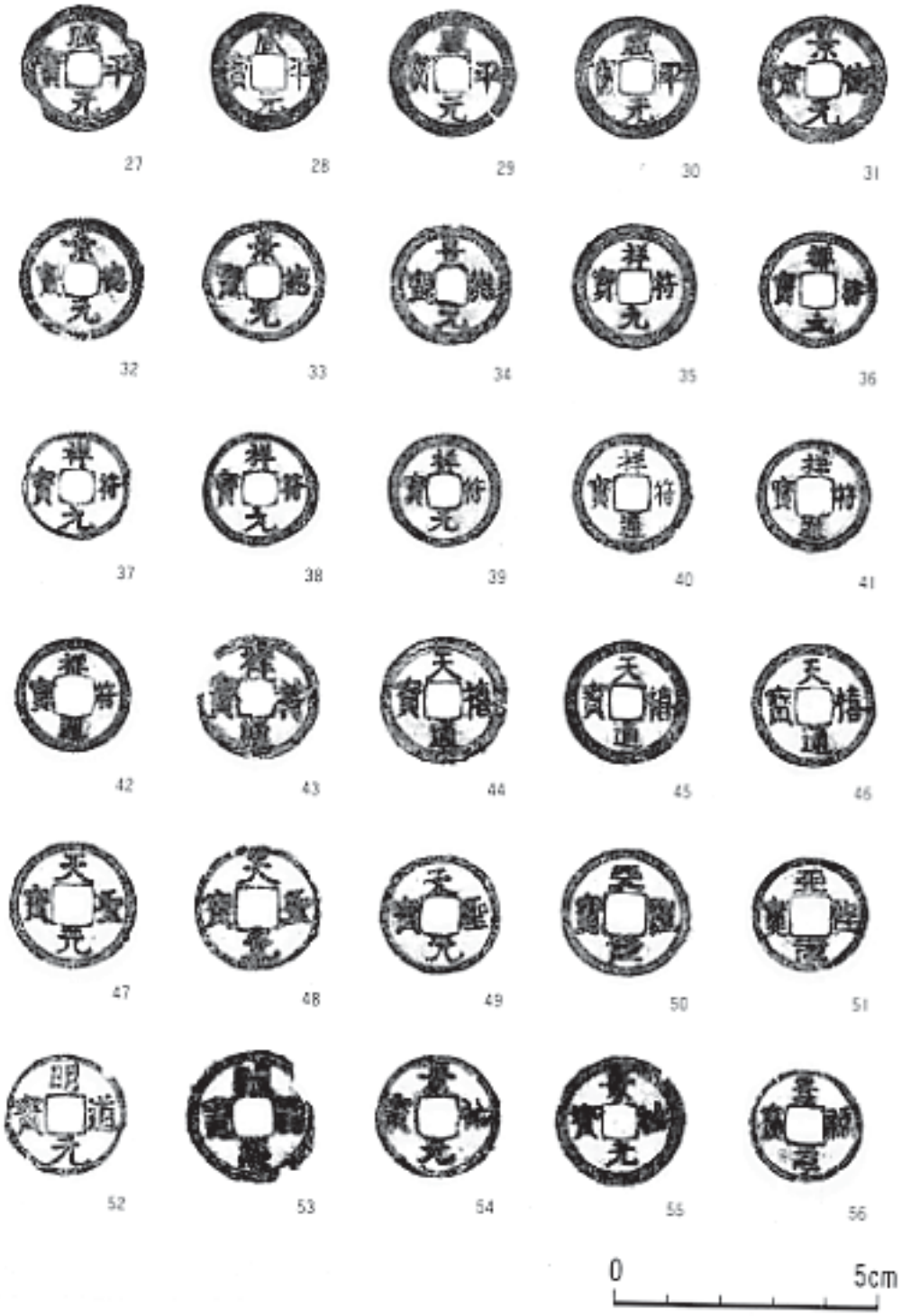
第２表　新城地区出土古銭一覧

銭名		初鋳年	国名	枚数	銘名		初鋳年	国名	枚数
開元通寶	かいげんつうほう	AD621年	唐	235枚	元祐通賓	げんゆうつうほう	1086年	宋	106枚
軋元重寶	けんげんじゅうほう	760年	唐	8枚	紹聖元寶	しょうせいげんほう	1094年	宋	46枚
光天元寶	こうてんげんほう	918年	前蜀	1枚	元符通寶	げんふつうほう	1098年	宋	38枚
周通元寶	しゅうつうげんほう	955年	後周	1枚	聖宋元寶	せいそうげんほう	1101年	宋	43枚
宋通元寶	そうつうげんほう	960年	宋	1枚	大觀通寶	たいかんつうほう	1107年	宋	12枚
太平通寶	たいへいつうほう	976年	宋	15枚	政和通寶	せいわつうほう	1111年	宋	49枚
淳化元寶	じゅんかげんほう	990年	宋	5枚	宣和通寶	せんなつうはう	1119年	宋	6枚
至道元寶	しどうげんほう	995年	宋	37枚	紹興元寶	しょうこうげんほう	1131年	南宋	1枚
咸平元寶	かんへいげんほう	998年	宋	29枚	正隆元寶	せいりゅうげんほう	1158年	金	5枚
景德元寶	けいとくげんほう	1004年	宋	21校	淳熙元寶	じゅんきげんほう	1190年	南宋	1枚
祥符元寶	しょうふげんほう	1008年	宋	172枚	紹熙元寶	しょうきげんほう	1190年	南宋	4枚
祥符通寶	しょうふつうほう	1008年	宋	158枚	嘉定通寶	かていつうほう	1208年	南宋	2枚
天禧通寶	てんきつうほう	1017年	宋	108枚	嘉熙通寶	かきつうほう	1237年	南宋	2枚
天聖元寶	てんせいげんほう	1023年	宋	92枚	景定元寶	けいていげんほう	1260年	南宋	1枚
明道元寶	めいどうげんほう	1032年	宋	2枚	咸淳元寶	かんじゅんげんほう	1265年	商宋	1枚
景祐元寶	けいゆうげんほう	1034年	宋	23枚	至大通寶	しだいつうほう	1310年	元	1枚
皇宋通寶	こうそうつうほう	1037年	宋	90枚	洪武通寶	こうぶつうほう	1368年	明	1330枚
至和元寶	しわげんほう	1054年	宋	11枚	永樂通寶	えいらくつうほう	1408年	明	64枚
至和通寶	しわつうほう	1054年	宋	1枚	朝鮮通寶	ちょうせんつうほう	1423年	李	6枚
嘉祐元寶	かゆうげんほう	1056年	宋	23枚	大世通寶	たいせつうほう	1452年	琉球	1枚
嘉祐通寶	かゆうつうほう	1056年	宋	28枚	光順通寶	こうじゅんつうほう	1460年	安南	6枚
治平元寶	じへいげんほう	1064年	宋	19枚	洪德通寶	こうとくつうほう	1470年	安南	2枚
治平通寶	じへいつうほう	1064年	宋	8枚	無文銭				1851枚
熙寧元寶	きねいげんほう	1068年	宋	73枚	判読不能				3301枚
元豊通寶	げんほうつうほう	1078年	宋	146枚	総数	8182枚	47種類		

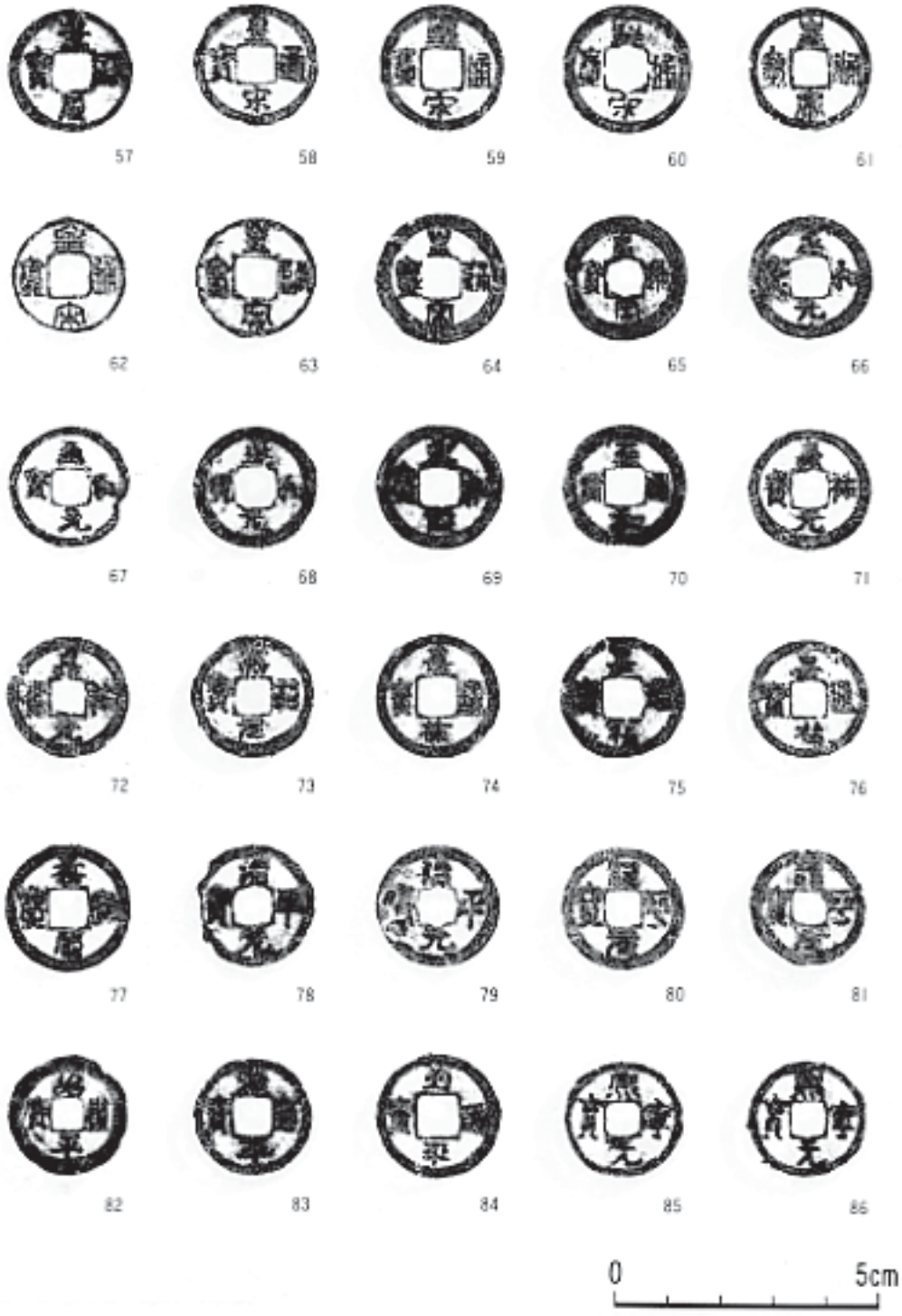
Fig 2　曲げ物


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
12裏
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
0
5cm

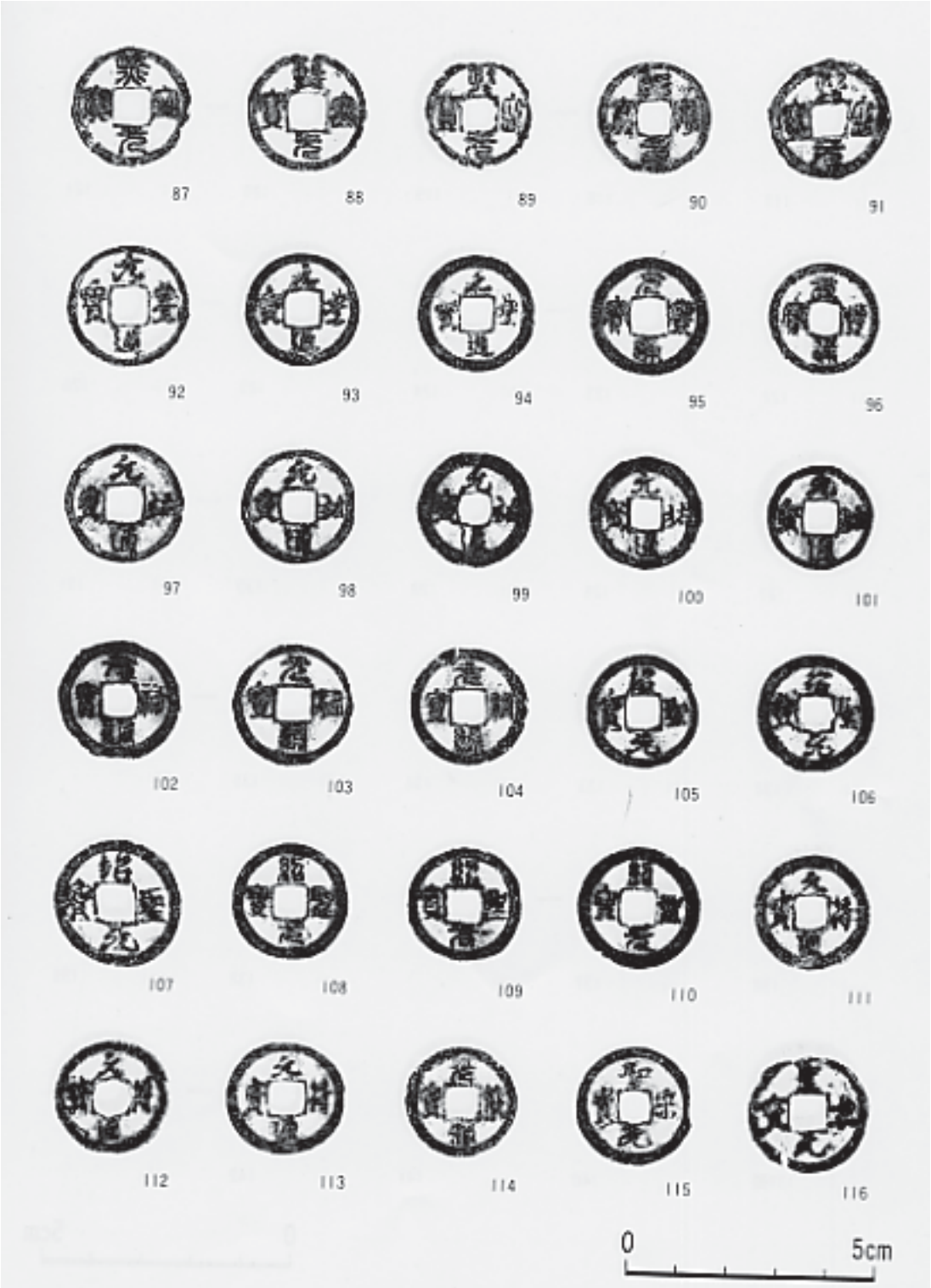
第2図　古銭拓影図（1）


27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
0
5cm

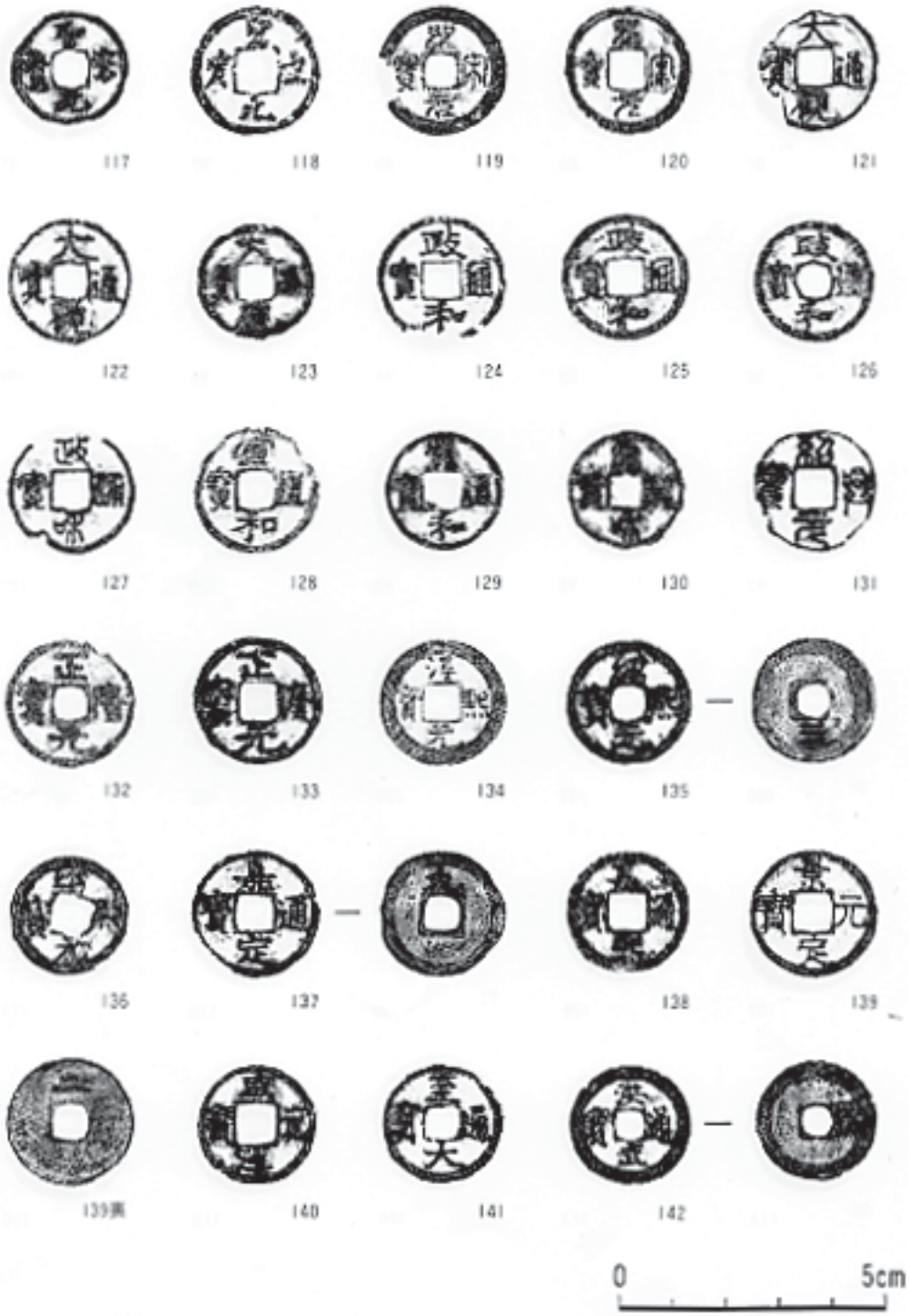
第3図　古銭拓影図 (2)


57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
0
5cm

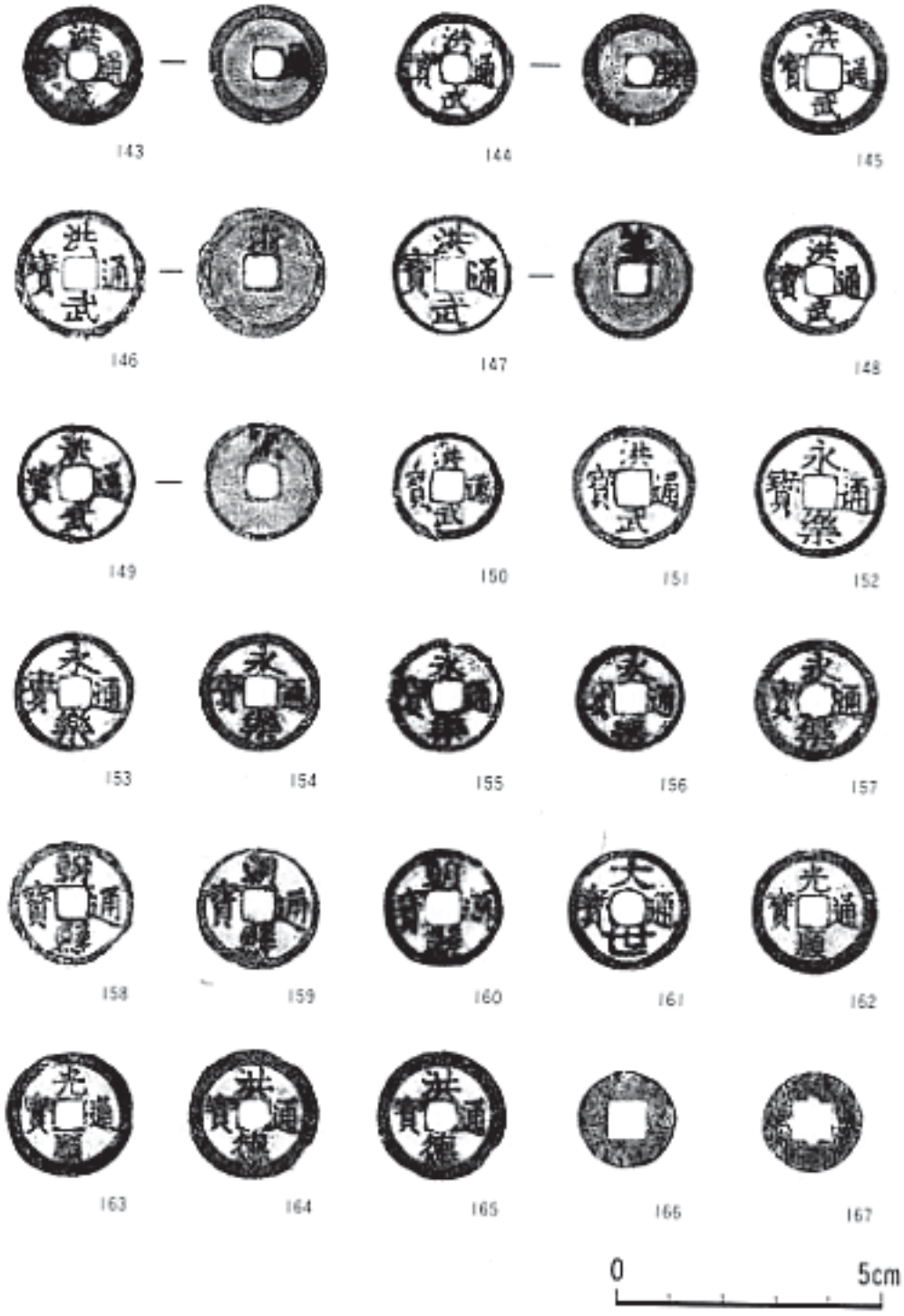
第４図　古銭拓影図（3）


87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
0
5cm

第5図　古銭拓影図（4）


117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
139裏
140
141
142
0
5cm

第6図　古銭拓影図(5)


143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
0
5cm

第７図　古銭拓影図（6）

第4節　小　　結

今回出土した古銭は、沖館川と新城川に挟まれた段丘上からの出土である。県内の出土例を見ると、河川流域・海浜・城館跡・神社仏閣付近からの出土例が多い。そういう点では、本古銭も、二つの河川、油川城跡・新城跡といった城館付近の出土であり、共通点があると言える。

しかし、平賀町館山出土古銭のように文献資料と考古資料の一致した例[註6]もあるが、油川城跡・新城跡と結び付けることのできる文献資料はなく、また、出土地点付近には関連する遺構が検出されず、時期を特定できる陶磁器類の出土もなかった。さらに、唯一の伴出遺物である曲げ物も残片のみである。このような状況であるため、古銭の埋蔵目的に関しては、現在のところ不明である。備蓄銭と言うこともできるが、尻八館遺跡では、99枚の古銭が土壙から出土し[註7]、また、朝日山遺跡では、地鎮のためと思われる古銭が柱穴から出土していることから、奉納的要素を持った埋納銭という考えもできる。逆に何もないということに意味があるのかもしれない。

古銭の埋納時期は、陶磁器類の伴出遺物・文献等の資料がないため、下限銭貨から推定しなくてはならない。下限銭貨は洪徳通寶であることから、それ以後の埋蔵となる。

朝鮮銭は15世紀中葉から、琉球銭は15世紀後半から室町幕府との外交に伴って搬入されたと見なされており[註8]、また、倭寇によって、もたらされたとも考えられる[註9]。これらから本古銭の埋納時期は、15世紀末から16世紀前半と推察される。

当時、日本の流通貨幣量としては、出土量から考え、永樂通寶が洪武通寶より多いと考えられており（中国では洪武通寶の鋳造量がはるかに多い）、県内に当てはめてみても同じことが言える。しかし、本古銭では、洪武銭の枚数は総数の16%を占めているが、同じ明銭である永樂銭が0.78%（64枚）である。東日本では明銭が流通貨幣の主体をなしており、特に永樂銭が好まれて使われ、地方によっては流通貨幣を永樂銭だけに限定したことがあった。このことから、本古銭は永樂銭だけ選んで使用されたという可能性がある。また、明では16世紀ごろから私鋳銭が盛んに作られるようになり、室町幕府では1500年を最初に、何度か撰銭令を発し、流通を規制したことがある[註10]。主に、特定貨幣の使用禁止、精銭・悪銭の混用率の規則等の内容である。この制令が外ヶ浜まで及んだか定かではないが、本古銭の相当数は、無文銭も含め、粗悪なため貨幣として用いることができなかったものと考えることもできる。また、前述したとおり、永樂銭にも言えることであるが、洪武銭の粗悪さ・破銭等が目立ち、破銭に関してはすべて灰白色を呈している。この破銭の成分分析は未調査であるが、精銭と模鋳銭とのある程度の区別ができるのではないかと考えられる。

（上野隆博）

第3表　新城地区古銭観察表（1）

（）は現存重量

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
開元通寶								
1	2．51	0．73	0．20	0．13	(2．9)	真	甲文	
2	2．41	0．63	0．24	0．12	3．2	〃	〃	
3	2．54	0．72	0．24	0．11	(2．3)	〃		
4	2．17	0．60	0．13	0．09	(1．5)	〃		
5	2．20	0．67	0．19	0．09	1．6	〃		郭抜け
6	2．30	0．62	0．25	0．10	2．5	〃	「宣」	
軋元重寶								
7	2．46	0．67	0．24	0．12	(2．4)	真	甲文	
8	2．36	0．66	0．30	0．12	2．5	〃		
9	2．25	0．66	0．25	0．07	(1．5)	〃		
10	2．32	0．66	0．22	0．11	2．5	〃		
11	2．10	0．66	0．14	0．07	1．6	〃		郭抜け
光天元寶								
12	2．25	0．68	0．23	0．11	3．1	真	甲文	外輪加工
周通元寶								
13	2．29	0．57	0．30	0．11	2．3	真		
宋通元寶								
14	2．38	0．59	0．30	0．10	2．2	真		
太平通寶								
15	2．42	0．60	0．21	0．13	(2．2)	真		
16	2．36	0．61	0．28	0．11	2．5	〃		
17	2．37	0．60	0．26	0．13	3．0	〃		
18	2．38	0．62	0．23	0．13	(3．5)	〃		内郭不良
淳化元寶								
19	2．38	0．52	0．28	0．13	3．0	真		
20	2．39	0．54	0．34	0．12	2．9	行		
21	2．40	0．59	0．35	0．09	2．5	草		
至道元寶								
22	2．32	0．54	0．32	0．13	3．2	真		
23	2．19	0．59	0．28	0．11	2．6	〃		内郭加工
24	2．26	0．59	0．24	0．11	3．0	行		
25	2．48	0．60	0．34	0．12	(3．4)	〃		
26	2．37	0．59	0．30	0．12	2．7	草		郭抜け
咸平元寶								
27	2．42	0．54	0．32	0．10	1．9	真		
28	2．28	0．57	0．36	0．10	2．7	〃		外輪加工
29	2．46	0．61	0．31	0．12	3．3	〃		
30	2．40	0．59	0．32	0．12	3．0	〃		
景徳元寶								
31	2．48	0，57	0．34	0．11	3．2	真		
32	2．40	0．59	0．32	0．12	3．0	〃		
33	2．41	0．53	0．26	0．12	3．2	〃		

拓影図・写真図版の番号と観察表の番号は同一

註1□　『津軽諸城の研究』沼舘　愛三　1985）

註2□　註1に同じ

註3□　『三内遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会　1978）

註4□　『第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料』1991）

註5□　『図録日本の貨幣』第巻（日本銀行調査局編　1972）

註6□　『平賀町館山出土古銭』平賀町教育委員会　1968）

註7□　『尻八館発掘調査報告書』青森県立郷土館　1981）

註8□　註5に同じ

註9□　千代　肇氏の御教授による

註10□　註5に同じ

新城地区古銭観察表（2）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
34	2．35	0．49	0．32	0．12	3．2	真		
祥符元寳								
35	2．42	0．56	0．32	0．12	3．1	真		
36	2．28	0．55	0．23	0．12	2．4	〃		
37	2．11	0．54	0．15	0．13	1．7	〃		外輪加工
38	2．23	0．54	0．30	0．11	2．0	〃		〃
39	2．20	0．55	0．27	0．12	2．3	〃		
祥符通寳								
40	2．32	0．54	0．27	0．13	2．5	真		
41	2．15	0．54	0．25	0．15	2．7	〃		
42	2．22	0．62	0．23	0．14	2．7	〃		
43	2．42	0．52	0．26	0．14	(2．8)	〃		内郭不良
天禧通寳								
44	2．43	0．63	0．29	0．11	2．6	真		
45	2．39	0．56	0．30	0．12	3．0	〃		
46	2．41	0．63	0．27	0．13	2．5	〃		
天聖元寳								
47	2．32	0．65	0．24	0．09	(1．8)	真		
48	2．42	0．62	0．20	0．12	2．8	〃		
49	2．30	0．60	0．21	0．12	2．6	〃		
50	2．46	0．69	0．26	0．11	2．8	篆		
51	2．22	0．64	0．22	0．08	1．7	〃		
明道元寳								
52	2．34	0．64	0．12	0．12	2．4	真		
53	2．56	0．69	0．26	0．12	(2．7)	篆		鋳造不良
景祐元寳								
54	2．38	0．63	0．22	0．12	2．8	真		
55	2．52	0．54	0．33	0．13	3．0	〃		
56	2．23	0．62	0．19	0．12	2．6	篆		
57	2．41	0．64	0．29	0．12	2．7	〃		
皇宋通寳								
58	2．33	0．63	0．26	0．11	2．5	真		
59	2．46	0．72	0．23	0．12	2．8	〃		
60	2．45	0．88	0．23	0．12	2．2	〃		内郭加工
61	2．36	0．63	0．19	0．10	2．7	篆		
62	2．22	0．68	0．13	0．11	2．0	〃		外輪加工
63	2．35	0．70	0．16	0．12	2．9	〃		
64	2．50	0．70	0．36	0．13	3．5	〃		
65	2．40	0．68	0．32	0．11	2．6	〃		外輪加工
至和元寳								
66	2．36	0．71	0．28	0．10	2．2	真		
67	2．32	0．64	0．21	0．13	2．8	〃		
68	2．39	0．75	0．28	0．11	2．4	〃		内郭加工

新城地区古銭観察表（3）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
69	2．41	0．71	0．26	0．10	2．6	篆		
至和通寳								
70	2．36	0．63	0．29	0．10	2．2	真		
嘉祐元寳								
71	2．24	0．62	0．32	0．10	2．5	真		
72	2．34	0．52	0．32	0．12	3．1	〃		内郭加工
73	2．34	0．61	0．34	0．14	2．9	篆		
嘉祐通寳								
74	2．37	0．67	0．24	0．09	2．5	真		
75	2．39	0．69	0．22	0．11	2．5	〃		
76	2．28	0．61	0．23	0．10	2．3	〃		
77	2．32	0．70	0．30	0．11	3．0	篆		
治平元寳								
78	2．37	0．67	0．20	0．11	(2．2)	真		内郭加工
79	2．37	0．68	0．27	0．14	(3．2)	〃		〃
80	2．36	0．60	0．28	0．13	2．7	篆		
81	2．24	0．51	0．24	0．12	2．6	〃		
治平通寳								
82	2．30	0．55	0．33	0．09	2．1	真		
83	2．26	0．68	0．24	0．10	2．4	〃		
84	2．39	0．74	0．24	0．11	2．6	〃		
熙寧元寳								
85	2．26	0．59	0．19	0．13	2．5	真		
86	2．26	0．62	0．23	0．13	2．4	〃		
87	2．40	0．70	0．24	0．13	2．5	篆		
88	2．39	0．70	0．20	0．12	2．8	〃		
89	2．18	0．62	0．19	0．13	2．3	〃		外輪加工
90	2．32	0．64	0．22	0．09	2．1	〃		
91	2．48	0．63	0．28	0．16	3．3	〃		鋳造不良
元豊通寳								
92	2．46	0．69	0．22	0．12	1．9	行		
93	2．21	0．65	0．22	0．08	1．6	〃		
94	2．39	0．61	0．29	0．14	2．9	〃		
95	2．40	0．71	0．30	0．12	2．6	篆		
96	2．24	0．64	0．23	0．13	2．7	〃		内郭不良
元祐通賛								
97	2．43	0．71	0．18	0．12	2．7	真		
98	2．34	0．60	0．20	0．12	2．6	〃		
99	2．37	0．56	0．32	0．11	2．4	〃		
100	2．28	0．57	0．28	0．10	2．1	〃		
101	2．13	0．64	0．19	0．07	1．3	〃		
102	2．48	0．63	0．27	0．14	3．1	篆		
103	2．47	0．62	0．27	0．11	2．6	〃		

新城地区古銭観察表（4）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
104	2．38	0．65	0．24	0．11	2．1	篆		
紹聖元寳								
105	2．34	0．60	0．27	0．12	3．0	真		
106	2．37	0．59	0．26	0．13	2．8	〃		内郭加工
107	2．69	0．72	0．28	0．13	2．7	〃		鋳造不良
108	2．37	0．62	0．27	0．12	2．7	篆		
109	2．32	0．61	0．23	0．11	2．5	〃		
110	2．48	0．67	0．29	0．13	2．9	〃		
元符通寳								
111	2．37	0．63	0．28	0．13	2．8	真		
112	2．31	0．69	0．23	0．12	2．1	〃		内郭加工
113	2．47	0．67	0．29	0．14	3．1	〃		鋳造不良
114	2．24	0．60	0．22	0．10	1．9	篆		
聖宋元寳								
115	2．40	0．62	0．27	0．11	2．4	真		
116	2．39	0．68	0．27	0．14	2．8	〃		
117	2．22	0．65	0．21	0．09	1．7	〃		
118	2．47	0．75	0．20	0．14	2．6	〃		外輪加工
119	2．46	0．55	0．33	0．12	(2．5)	篆		
120	2．45	0．68	0．18	0．14	3．5	〃		
大觀通寳								
121	2．39	0．62	0．13	0．13	(1．9)	真		
122	2．41	0．60	0．13	0．13	2．6	〃		
123	2．23	0．64	0．07	0．11	1．9	〃		
政和通寳								
124	2．44	0．63	0．18	0．14	(2．5)	真		
125	2．41	0．64	0．21	0．13	2．8	〃		
126	2．32	0．63	0．23	0．14	2．8	〃		鋳造不良
127	2．40	0．69	0．11	0．13	(2．2)	篆		
宣和通寳								
128	2．39	0．70	0．20	0．12	(2．2)	真		
129	2．29	0．66	0．18	0．10	2．1	〃		内郭不良
130	2．25	0．54	0．17	0．09	2．2	篆		〃
紹興元寳								
131	2．32	0．66	0．04	0．11	2．5	篆		外輪加工
正隆元寳								
132	2．46	0．58	0．18	0．14	2．9	真		
133	2．26	0．58	0．18	0．14	2．9	〃		
淳熙元寳								
134	2．42	0．64	0．29	0．12	2．7	真		
紹熙元寳								
135	2．39	0．61	0．21	0．14	3．0	真	「三」	内郭加工
136	2．24	0．79	0．25	0．12	2．5	〃		内郭不良

新城地区古銭観察表（5）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
嘉定通寳								
137	2．43	0．63	0．17	0．14	2．8	真	「九」	
嘉熙通寳								
138	2．38	0．62	0．26	0．14	2．9	真		
景定元寳								
139	2．43	0．68	0．22	0．10	2．7	真	「二」	
咸淳元寳								
140	2．37	0．70	0．20	0．08	1．9	真		
至大通寳								
141	2．32	0．54	0．25	0．21	4．6	真		内郭不良
洪武通寳								
142	2．26	0．54	0．26	0．12	2．8	真	「一錢」	内郭加工
143	2．27	0．53	0．30	0．13	3．0	〃	〃	〃
144	2．15	0．49	0．24	0．20	3．8	〃	〃	〃
145	2．39	0．51	0．28	0．13	2．9	〃		
146	2．51	0．57	0．23	0．14	3．2	〃	「浙」	
147	2．20	0．53	0．17	0．13	2．7	〃	「北平」	
148	2．12	0．52	0．21	0．13	2．6	〃		
149	2．30	0．54	0．18	0．12	2．5	〃	「北平」	内郭不良
150	2．12	0．54	0．22	0．09	2．0	〃		
151	2．38	0．57	0．24	0．14	2．9	〃		
永樂通寳								
152	2．50	0．55	0．24	0．12	2．4	真		
153	2．27	0．53	0．20	0．12	2．2	〃		内郭不良
154	2．30	0．52	0．23	0．09	1．8	〃		
155	2．18	0．53	0．19	0．10	1．7	〃		
156	2．06	0．56	0．19	0．09	1．2	〃		
157	2．33	0．64	0．25	0．10	1．9	〃		内郭加工
朝鮮通寳								
158	2．40	0．50	0．23	0．15	3．4	真		
159	2．38	0．54	0．27	0．20	4．5	〃		
160	2．28	0．60	0．23	0．11	2．2	〃		
大世通寳								
161	2．34	0．55	0．25	0．18	4．3	真		
光順通寳								
162	2．40	0．49	0．32	0．14	3．3	真		
163	2．42	0．50	0．32	0．16	4．1	〃		
洪徳通寳								
164	2．45	0．45	0．28	0．17	4．1	真		
165	2．49	0．53	0．30	0．12	3．0	〃		
無文銭								
166	1．83	0．69		0．07	0．7			
167	1．90	0．73		0．06	0．8			内郭加工

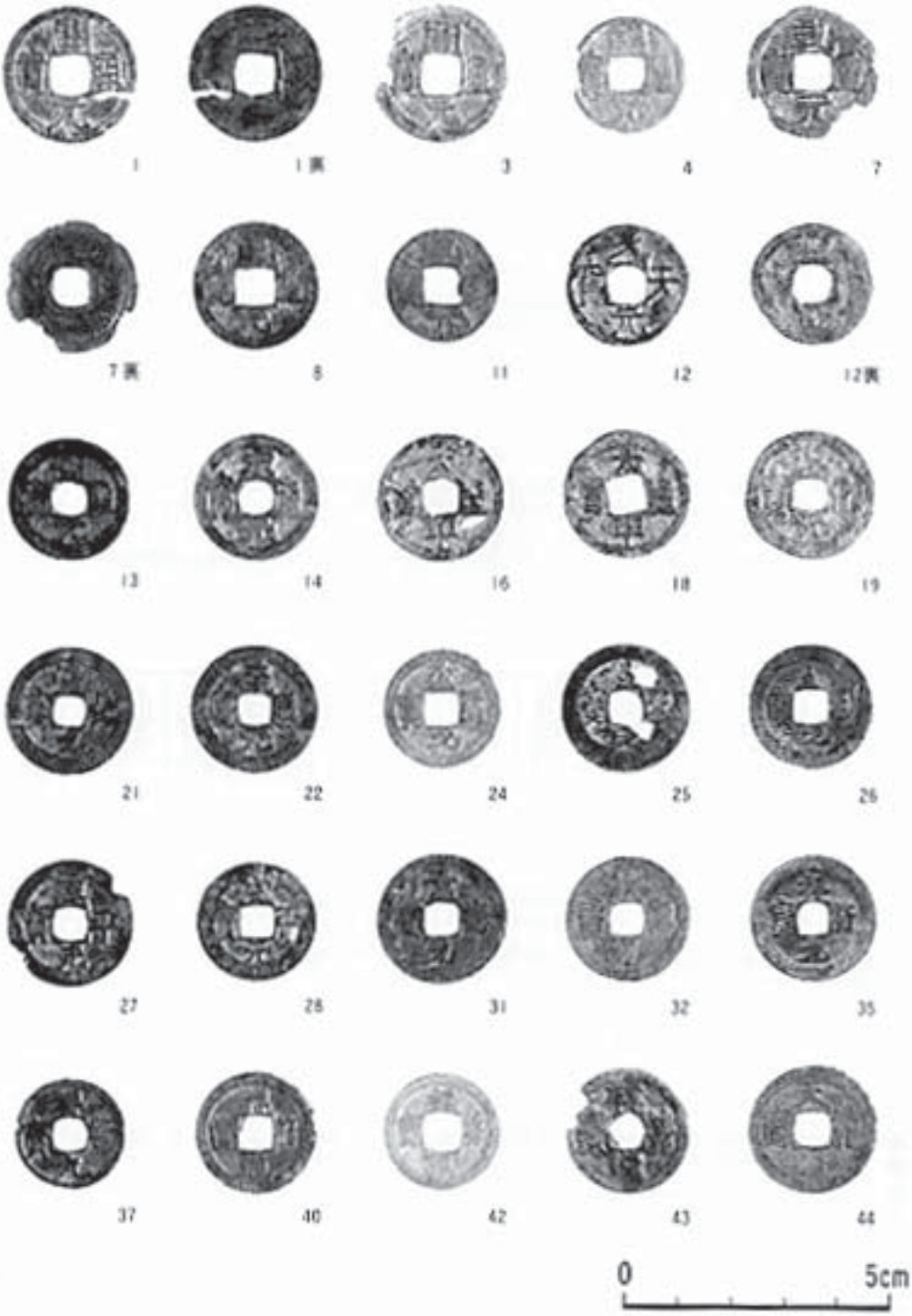

1
1裏
3
4
7
7裏
8
11
12
12裏
13
14
16
18
19
21
22
24
25
26
27
28
31
32
35
37
40
42
43
44
0
5cm

Fig 3 古　銭(1)

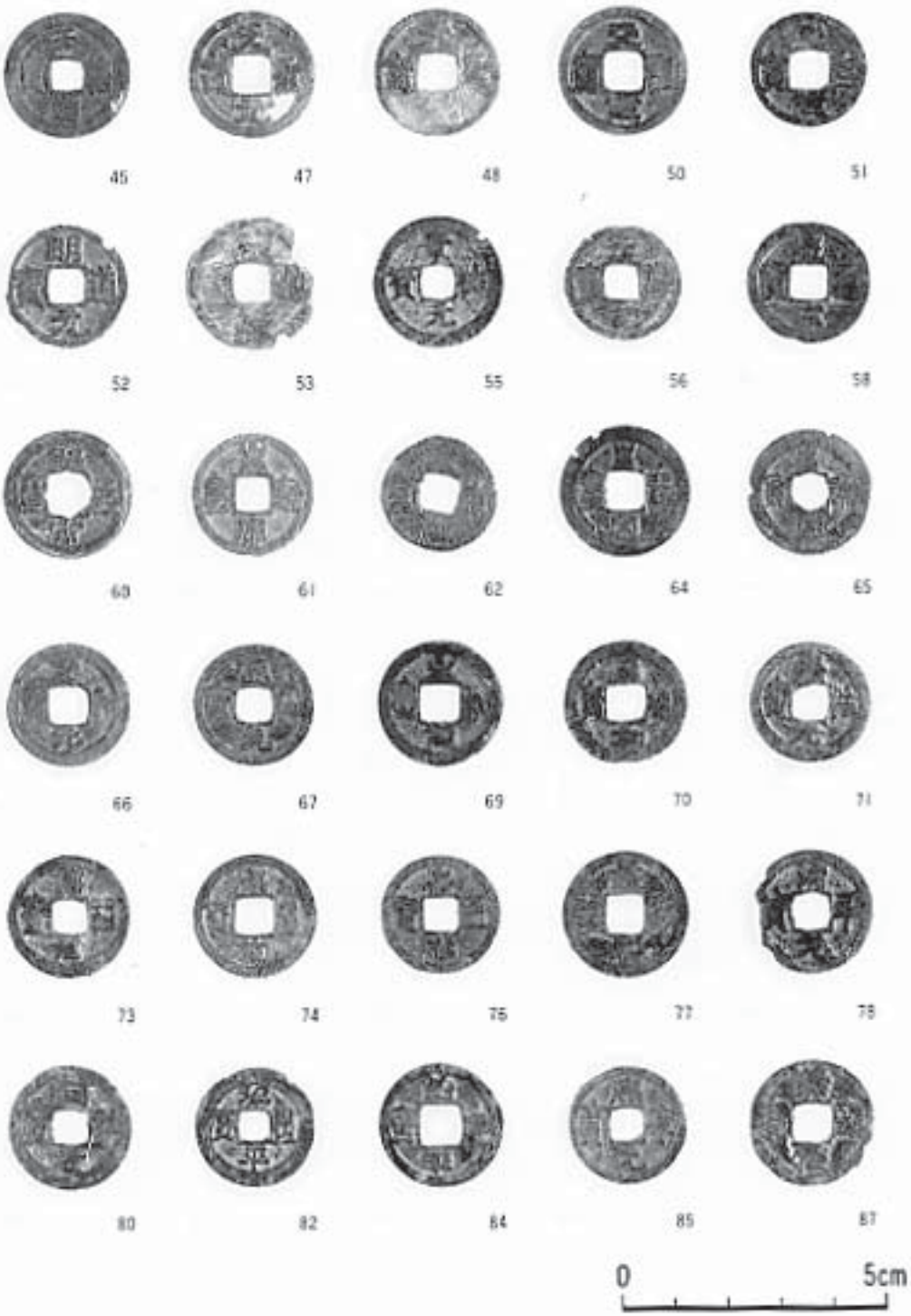

45
47
48
50
51
52
53
55
56
58
60
61
62
64
65
66
67
69
70
71
73
74
76
77
78
80
82
84
85
87
0
5cm

Fig 4 古　銭(2)

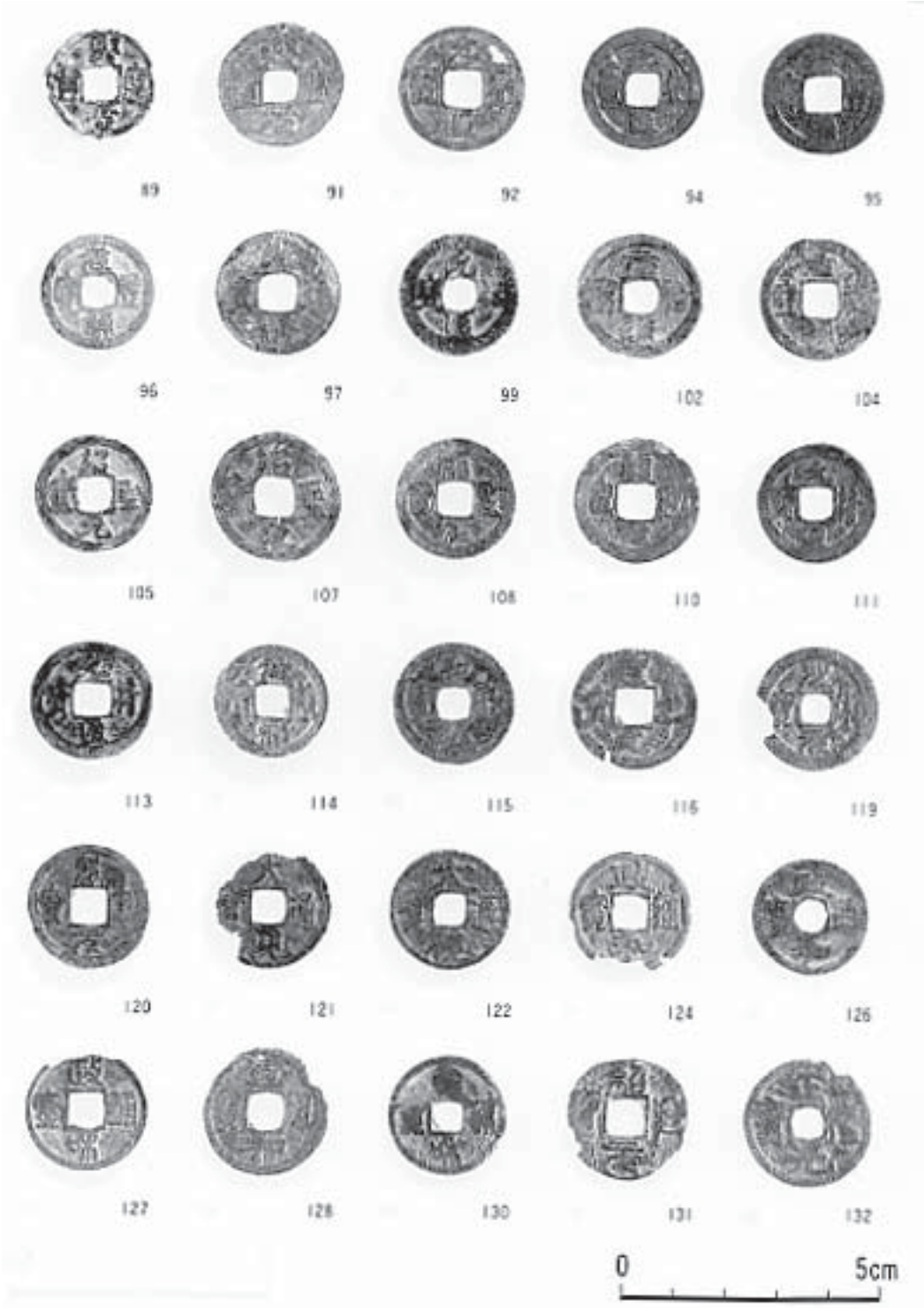

89
91
92
94
95
96
97
99
102
104
105
107
108
110
111
113
114
115
116
119
120
121
122
124
126
127
128
130
131
132
0
5cm

Fig 5 古　銭(3)

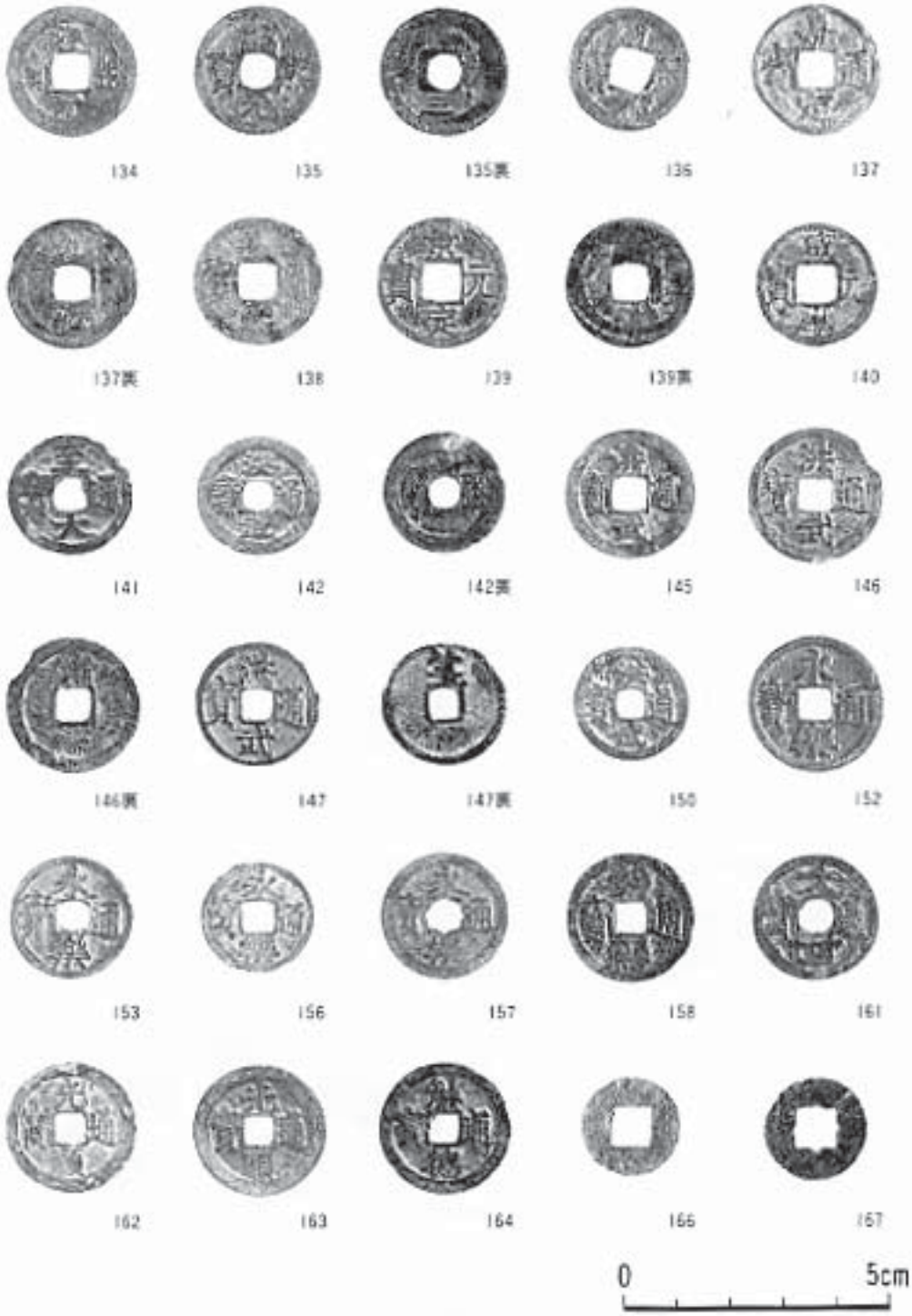

134
135
135裏
136
137
137裏
138
139
139裏
140
141
142
142裏
145
146
146裏
147
147裏
150
152
153
156
157
158
161
162
163
164
166
167
0
5cm

Fig 6 古　銭(4)

第Ⅱ章　奥内地区出土古銭

第１節　出土から整理に至る経緯

青森市教育委員会では、平成２年度から市役所１階の市民サロンで「埋蔵文化財パネル展」を11月の１週日の期間に開催してきている。

今年度も、11月の１過日の期間、この催しを開き第Ⅰ章で記述した新城地区から出土した古銭の一部を展示したのであるが、この開催中に、展示していた古銭を見学していた方から知人に古銭を保管している人がいるので会ってみてはとの紹介があった。

そこで、社会教育課では、職員がその紹介者と共に古銭の所蔵者を早速たずねることとした。所蔵者である佐藤秀男氏は、古銭が貴重な資料で活用できるものであれば、これらの古銭を青森市教育委員会に寄贈してもかまわないとの御意向であった。そこで、教育委員会としては、御好意を汲み寄贈を受けることとした。

佐藤氏によると、この多量の古銭は、かなり以前、油川地区から陸奥湾に沿って細長く延び

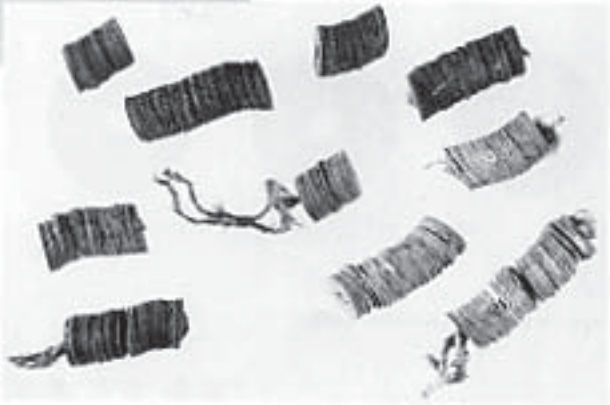


Fig 7　出土地点と古銭

る水田地帯の一角で、当時水田造成工事中に水田面下約1mの探さから偶然発見されたもので、幸いにも氏が文化財に造詣が深かったこともあって、散乱した古銭を拾い集め、以降散逸することなく今日まで大事に保管されてきたとのことであった。そして、この発見した場所については、かなり以前のことであり、周囲の状況も現在と大分変化していることもあって、特定していただくことはできなかったが、概略的には、現在の奥内駅の西側に広がる水田地帯の一角であることには間違いないとのことであった。

以上の経緯を経て青森市教育委員会では、寄贈者の意向に背かぬよう、この古銭が広く公開・活用に供することができるよう、新城地区出土の古銭とともに整理作業を実施し、報告書を刊行することとした次第である。（遠藤正夫）

第2節　出土地点と周辺の遺跡

今回古銭が出土した奥内地区は、津軽半島の南東部、青森市の中心部から陸奥湾に沿って約10km北上した平野部に所在している。東は、陸奥湾に接し、西は、中山山脈に接している。

古銭が出土した地点は、中山山脈から陸奥湾に東流する奥内川中流域の左岸に位置し、奥内集落から西に約1kmのところにある三社宮付近である。付近一帯は、水田地帯で標高2～5mである。

青森市には、平成3年度現在で196箇所の遺跡が登録されているが、奥内地区を含む津軽半島の東側は、そのほぼ半分を占めている。遺跡は、中山山脈が平野部へ移行してゆく低丘陵上に多く点在している。古銭出土地点の周辺には、県内でも著名な尻八館遺跡（昭和52年から昭和54年にかけて、県立郷土館が発掘調査を実施し、貴重な遺物等を発見している。古銭では、和同開珎が出土している。出土遺物等から存続期は、14世紀から15世紀と考えられている。）、内真部館（館主、築造年代等不明）前田蝦夷館（館主、築造年代等不明）等の中世城館遺跡や、歴史時代の遺跡が数多く所在している。第4表に掲載した遺跡は、歴史時代の遺跡を中心に表記したものである。

第3節　出土古銭と伴出遺物

古　　銭

古銭の出土状態は、土木作業中に偶然発見されたため、確かではないが発見者によると、重機で削平中に地表面より約1m下から出土し、紐に通され、しかも甕に入っていたそうである。

保存状態は、比較的良好で、ほとんど銭名を判読することができた。

出上した古銭は、総数10,432枚。銭種数は、57種類。鋳造国は、中国と日本で、上限が五銖(BC118年)、下限が至大通寳（AD1310年）である。

第8図　出土地点と周辺の歴史時代の遺跡

第４表　周辺の歴史時代の遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	遺跡番号	所　在　地	種類	時　　代	文　　献　　等
1	尻八館遺跡	01026	後潟字後潟山・六枚橋字六枚橋山	城　館	中世	『尻八館調査報告書』
2	大科支線口遺跡	01029	内真部字山下	包蔵地	縄文前期・歴史	
3	山城遺跡	01030	後潟字後潟山	散布地	縄文後期・歴史	『東北新幹線関係遺跡分布調査』
4	不浪知遺跡	01032	六枚橋字不浪知	散布地	歴史・中世	『東北新幹線関係遺跡分布調査』
5	油川城跡	01036	西田沢字浜田	城　館	縄文前期・中世	『青森県の中世城館』
6	西田沢（1）遺跡	01037	飛鳥字塩越	集落跡	歴史	『東北新幹線関係遺跡分布調査』
7	大堤遺跡	01038	西田沢字山辺	包蔵地	縄文早・前期・歴史	『東北新幹線関係遺跡分布調査』
8	内真郡（1）遺跡	01040	清水字生田	包蔵地・製鉄跡	縄文前・後期・歴史	『東北新幹線関係遺跡分布調査』
9	内真部（2）遺跡	01130	前田字湯ノ沢	包蔵地	縄文前期・歴史	『土師式土器集成』4号
10	内真部（3）遺跡	01131	清水字成見	包蔵地	歴史	『土師式土器集成』4号
11	内真部（4）遺跡	01132	清水字生田	包蔵地	歴史	『土師式土器集成』4号
12	内真部館遺跡	01159	左堰字野田	城　館	中世	『青森県の中世城館』『日本城郭大系2』
13	内真部（5）遺跡	01133	内真部字下山	包蔵地	歴史	『土師式土器集成』4号
14	内真部（6）遺跡	01134	内真部字下山	包蔵地	縄文・歴史	『土師式土器集成』4号
15	内真部（7）遺跡	01135	内真部字下山	包蔵地	歴史	『土師式土器集成』4号
16	瀬戸子（1）遺跡	01117	瀬戸子字磯田	包蔵地	縄文後期・歴史	
17	瀬戸子（5）遺跡	01121	瀬戸子字神田・磯田	包蔵地	縄文後期・歴史	
18	前田（1）遺跡	01122	奥内字宮田	包蔵地	縄文・歴史	
19	前田（2）遺跡	01123	奥内字宮田	包蔵地	縄文後期・歴史	
20	前田（3）遺跡	01124	奥内字宮田	包蔵地	歴史	
21	前田（4）遺跡	01125	奥内字宮田	包蔵地	縄文後期・歴史	
22	前田（5）遺跡	01126	奥内字宮田	包蔵地	歴史	
23	前田（6）遺跡	01127	奥内字平塚	包蔵地	縄文前期・歴史	
24	前田（7）遺跡	01128	前田字中野	包蔵地	歴史	
25	前田蝦夷館遺跡	01129	前田字中野・奥内字平塚	城　館	中世	『青森県の中世城館』
26	西田沢（2）遺跡	01100	西田沢字山辺	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
27	西田沢（3）遺跡	01101	西田沢字山辺	包蔵地	歴史	
28	西田沢（5）遺跡	01103	西田沢字山辺	包蔵地	縄文後期・歴史	
29	夏井田（1）遺跡	01104	西田沢字沖津・山辺	包蔵地	縄文前期・歴史	
30	夏井田（2）遺跡	01105	西田沢字山辺	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
31	夏井田（4）遺跡	01107	西田沢字沖津	包蔵地	縄文前・後期・歴史	
32	夏井田（5）遺跡	01108	西田沢字沖津	包蔵地	縄文前期・歴史	
33	夏井田（8）遺跡	01111	西田沢字沖津・飛鳥字塩越	包蔵地	縄文前期・歴史	
34	夏井田（9）遺跡	01112	西田沢字沖津・飛鳥字塩越	包蔵地	縄文・歴史	
35	飛鳥（2）遺跡	01114	飛鳥字塩越・岸田	包蔵地	縄文前・中・後期・歴史	
36	飛鳥（3）遺跡	01115	飛鳥字塩越・山田	包蔵地	近世	
37	飛鳥（4）遺跡	01116	飛鳥字山田	包蔵地	縄文後期・歴史	
38	小橋（1）遺跡	01136	左堰字大科	包蔵地	縄文前期・匿史	
39	小橋（2）遺跡	01137	左堰字大科	包蔵地	縄文前期・歴史	

No.	遺　跡　名	遺跡番号	所　在　地	種類	時　　代	文　　献　　等
40	小橋（3）遺跡	01138	左堰字大科	包蔵地	歴史	
41	小橋（4）遺跡	01139	六枚橋字山越	包蔵地	縄文前期・歴史	
42	小橋（5）遺跡	01140	小橋字福田	包蔵地	縄文・歴史	
43	小橋（6）遺跡	01141	六枚橋字山越	包蔵地	歴史	
44	後潟（2）遺跡	01142	六枚橋字六枚橋山	包蔵地	歴史	
45	後潟（3）遺跡	01143	六枚橋字六枚橋山	包蔵地	歴史	
46	後潟（11）遺跡	01155	六枚橋字六枚橋山	包蔵地	歴史	
47	後潟（13）遺跡	01157	六枚橋字六枚橋山	包蔵地	歴史	
48	山辺遺跡	01039	飛鳥字塩越・岸田	包蔵地	歴史	『東北新幹線関係遺跡分布調査』

中国銭は、漢、唐、前蜀、後周、南唐、宋、南宋、金、元の時代のものがみられ、鋳造国別出土率を見ると宋銭が約90％を占めている。

本邦銭は、皇朝12銭のうちの和同開珎と神功開寶各1枚、2種類が出土した。

和同開珎は、和銅元年（AD708年）から天平宝字4年（AD760年）の52年間にわたって鋳造され、公鋳銭としては、日本で最初の貨幣といわれている。神功開寶は、天平神護元年（AD765年）から延暦15年（AD769年）の31年間にわたって鋳造され、皇朝12銭のうち3番目になる。この2種類は、本県での出土例が少なく、和同開珎は、尾上町猿賀地区（1枚）、青森市尻八館遺跡（1枚）についで3例目である。神功開寶は、現在知見の限りでは、はじめての出土例である。

伴出遺物

陶磁器片が数点出土したが、形状・時期・産地等は不明である。

古銭を通してあった紐が残存しており、止めが確認できたので、模式図にあらわして見た。

参考拭1は、0段の撚縄を、ひとえ結びによって結節を作り出している。参考図2は、1段の撚紐を、ひとえ結びによって結節を作り出し、一方の撚りを解いて2本に戻し、その2本をさらにひとえ結びにしている。

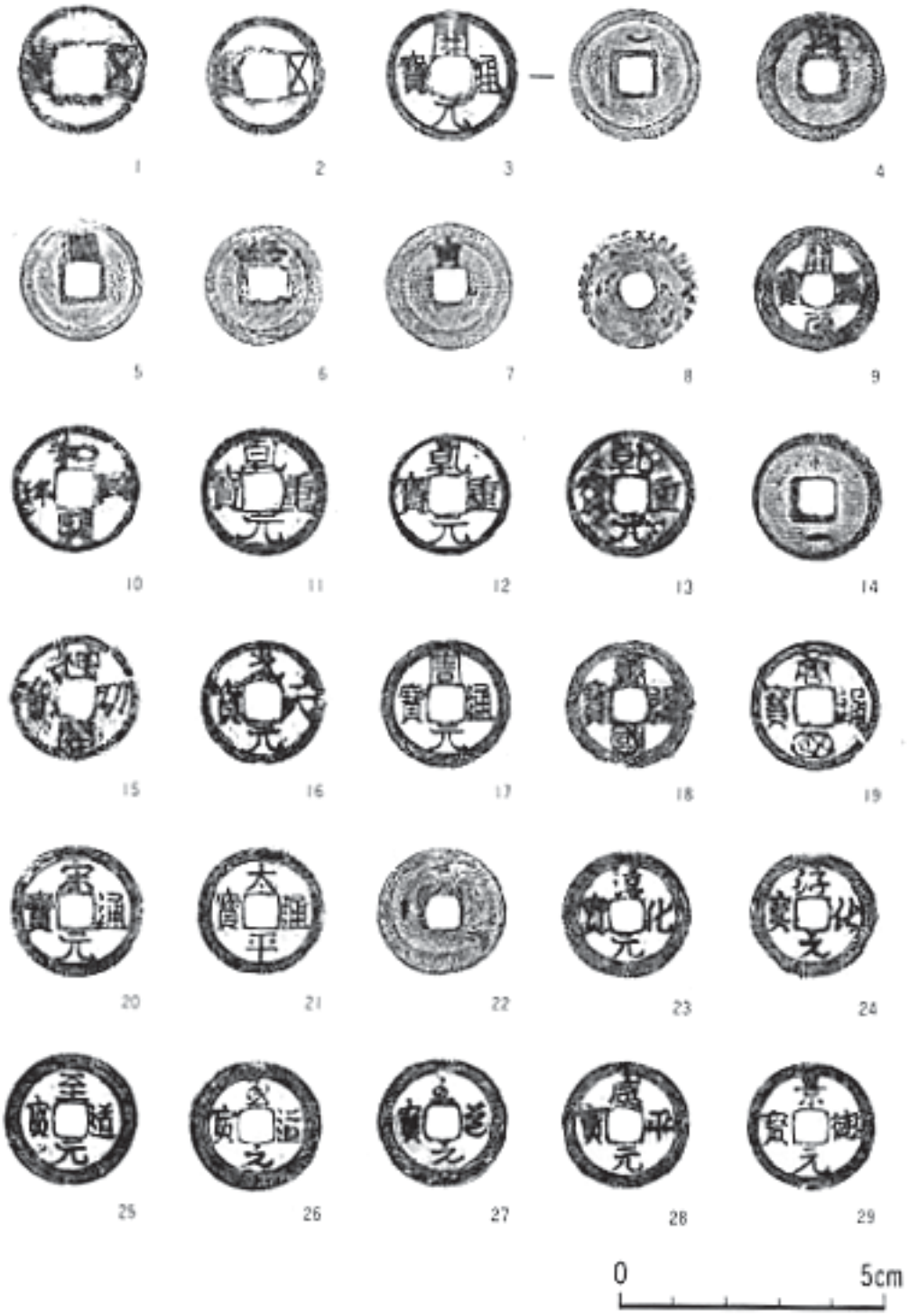
この紐は、イネ科の植物か、イラクサ類のいずれかと思われる。

参　考　図

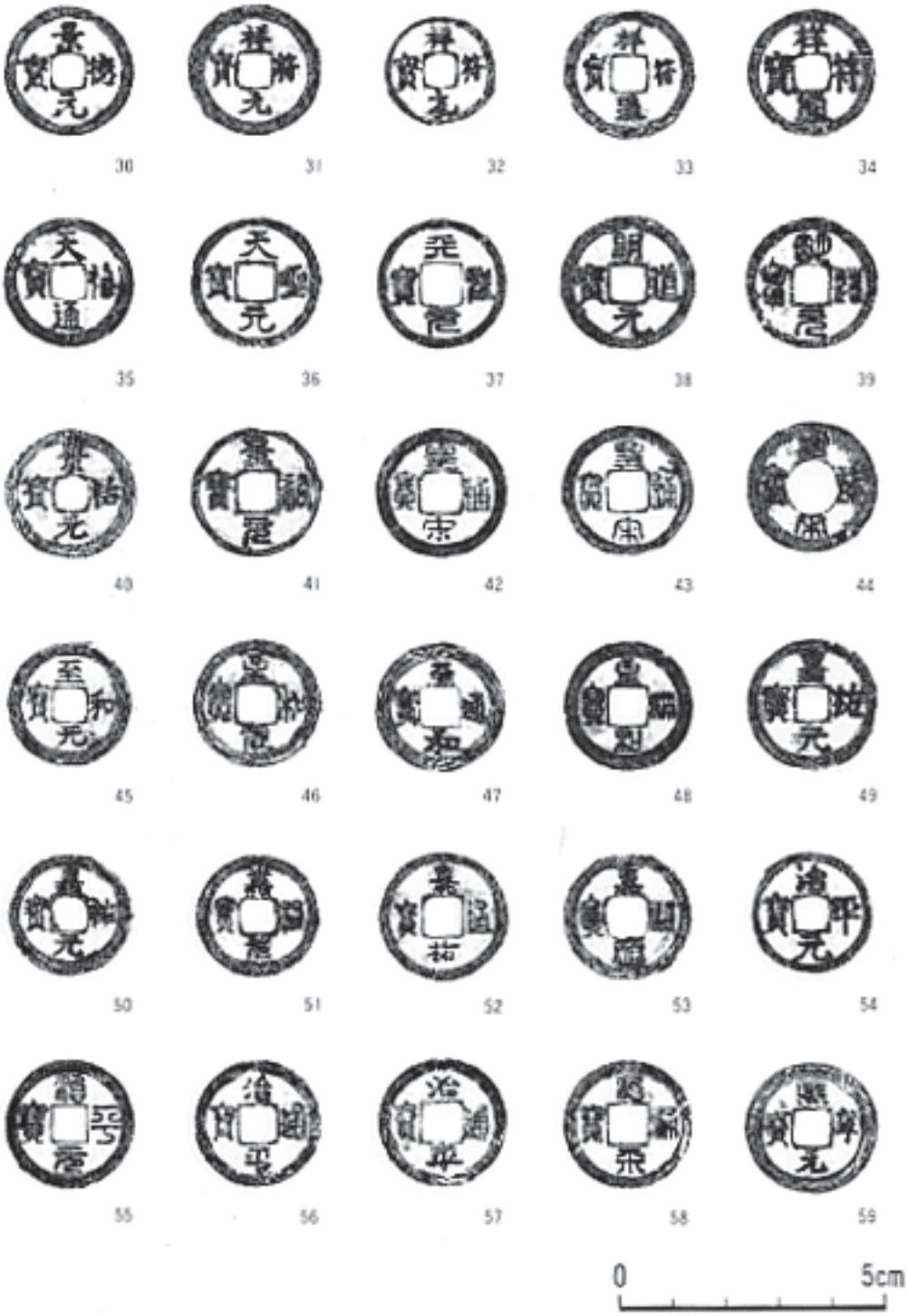
1．ひとえ結び　　2．ひとえ結び＋ひとえ結び

第５表　奥内地区出土古銭一覧

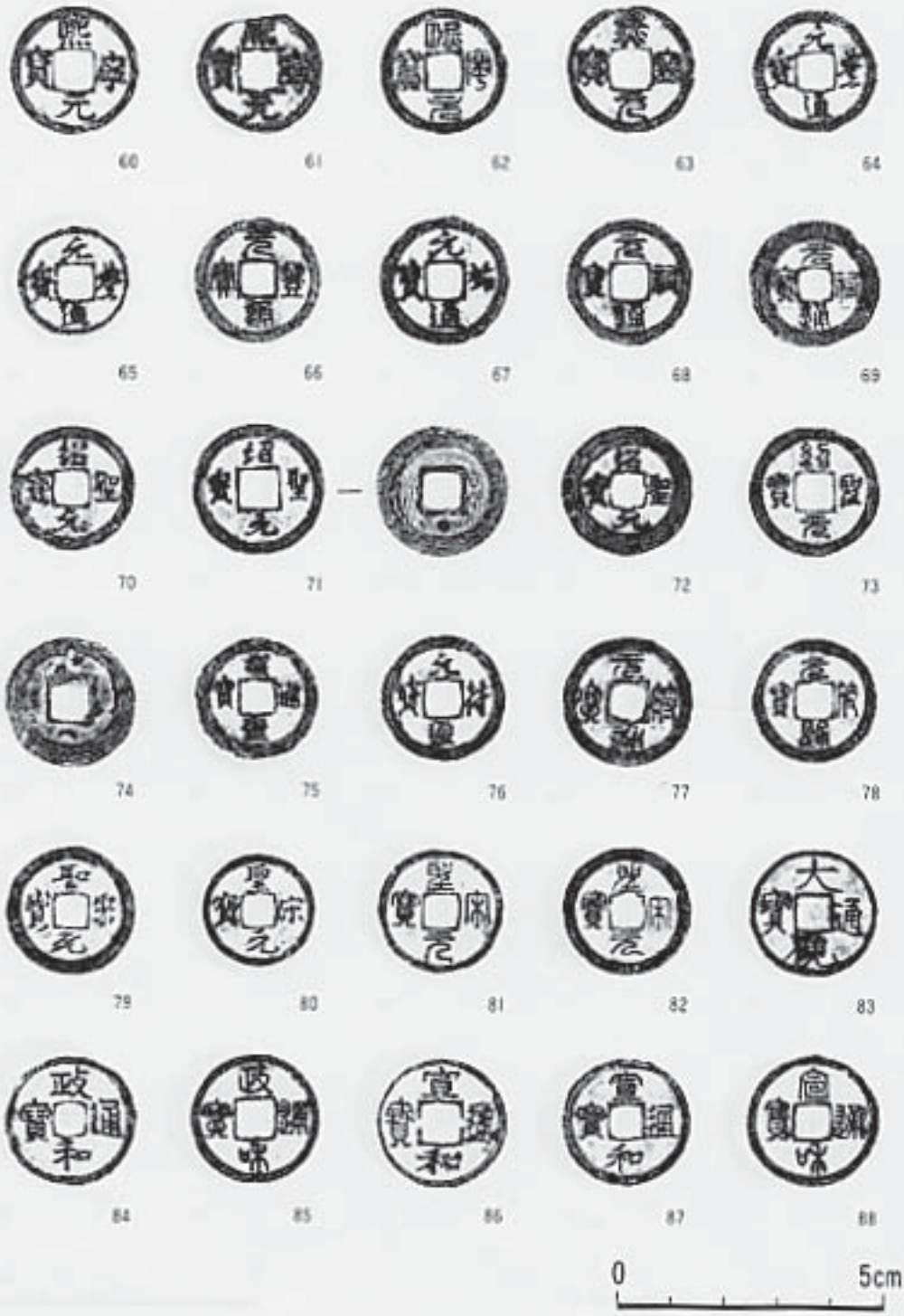
銭	名	初鋳年　国名	枚数	銭	名	初鋳年　国名	枚数
五　　銖	ごしゅ	BC118年□ 前漢	2枚	紹聖元寳	しょうせいげんほう	1094年　宋	376枚
開元通寳	かいげんつうほう	AD621年□ 唐	939枚	紹聖通寳	しょうせいつうほう	1094年　宋	1枚
和同開珎	わどうかいちん	708年□ 飛鳥	1枚	元符通寳	げんふつうほう	1098年　宋	134枚
軋元重寳	けんげんじゅうほう	760年□ □ □ 唐	54枚	聖宋元寳	せいそうげんほう	1101年　宋	425枚
神功開寳	じんこうかいほう	765年□ 奈良	1枚	大觀通寳	たいかんつうほう	1107年　宋	128枚
光天元寳	こうてんげんほう	918年□ 前蜀	1枚	政和通寳	せいわつうほう	1111年　宋	415枚
周通元寳	しゅうつうげんほう	955年□ 後周	5枚	宣和通寳	せんなつうほう	1119年　宋	43枚
唐國通寳	とうごくつうほう	959年□ 南唐	5枚	建炎通寳	けんえんつうほう	1127年南宋	2枚
宋通元寳	そうつうげんほう	960年　宋	38枚	紹興元寳	しょうこうげんほう	1131年南宋	3枚
太平通寳	たいへいつうほう	976年　宋	117枚	正隆正寳	せいりゅうげんほう	1158年　金	16枚
淳化元寳	じゅんかげんほう	990年　宋	88枚	淳熙元寳	じゅんきげんほう	1174年南宋	56枚
至道元寳	しどうげんほう	995年　宋	210枚	大定通寳	たいていつうほう	1178年　金	2枚
咸平元寳	かんへいげんほう	998年　宋	177枚	紹熙元寳	しょうきげんほう	1190年南宋	14枚
景德元寳	けいとくげんほう	1004年　宋	147枚	慶元通寳	けいげんつうほう	1195年南宋	14枚
祥符元寳	しょうふげんほう	1008年　宋	291枚	嘉泰通寳	かたいつうほう	1201年南宋	15枚
祥符通寳	しょうふつうほう	1008年　宋	118枚	開禧通寳	かいきつうほう	1205年南宋	10枚
天禧通寳	てんきつうほう	1017年　宋	237枚	嘉定通寳	かていつうほう	1208年南宋	58枚
天聖元寳	てんせいげんほう	1023年　宋	558枚	大宋元寳	たいそうげんほう	1225年南宋	1枚
明道元寳	めいどうげんほう	1032年　宋	44枚	紹定通寳	しょうていつうほう	1228年南宋	16枚
景祐元寳	けいゆうげんほう	1034年　宋	191枚	瑞平元寳	たいへんげんほう	1234年南宋	1枚
皇宋通寳	こうそうつうほう	1037年　宋	1369枚	嘉熙通寳	かきつうほう	1237年南宋	5枚
至和元寳	しわげんほう	1054年　宋	114枚	淳祐元寳	じゅんゆうげんほう	1241年南宋	9枚
至和通寳	しわつうほう	1054年　宋	12枚	皇宋元寳	こうそうげんほう	1253年南宋	4枚
嘉祐元寳	かゆうげんほう	1056年　宋	143枚	開慶通寳	かいけいつうほう	1259年南宋	9枚
嘉祐通寳	かゆうつうほう	1056年　宋	188枚	景定元寳	けいていげんほう	1260年南宋	15枚
治平元寳	じへいげんほう	1064年　宋	180枚	咸淳元寳	かんじゅんげんほう	1265年南宋	17枚
治平通寳	じへいつうほう	1064年　宋	44枚	至大通寳	しだいつうほう	1310年　元	2枚
熙寧元寳	きねいげんほう	1068年　宋	1034枚	無□ 文□ 銭			1枚
元豊通寳	げんほうつうほう	1078年　宋	1274枚	判読不能			117枚
元祐通寳	げんゆうつうはう	1086年　宋	941枚	総　数	10432枚	57種類	


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
5cm

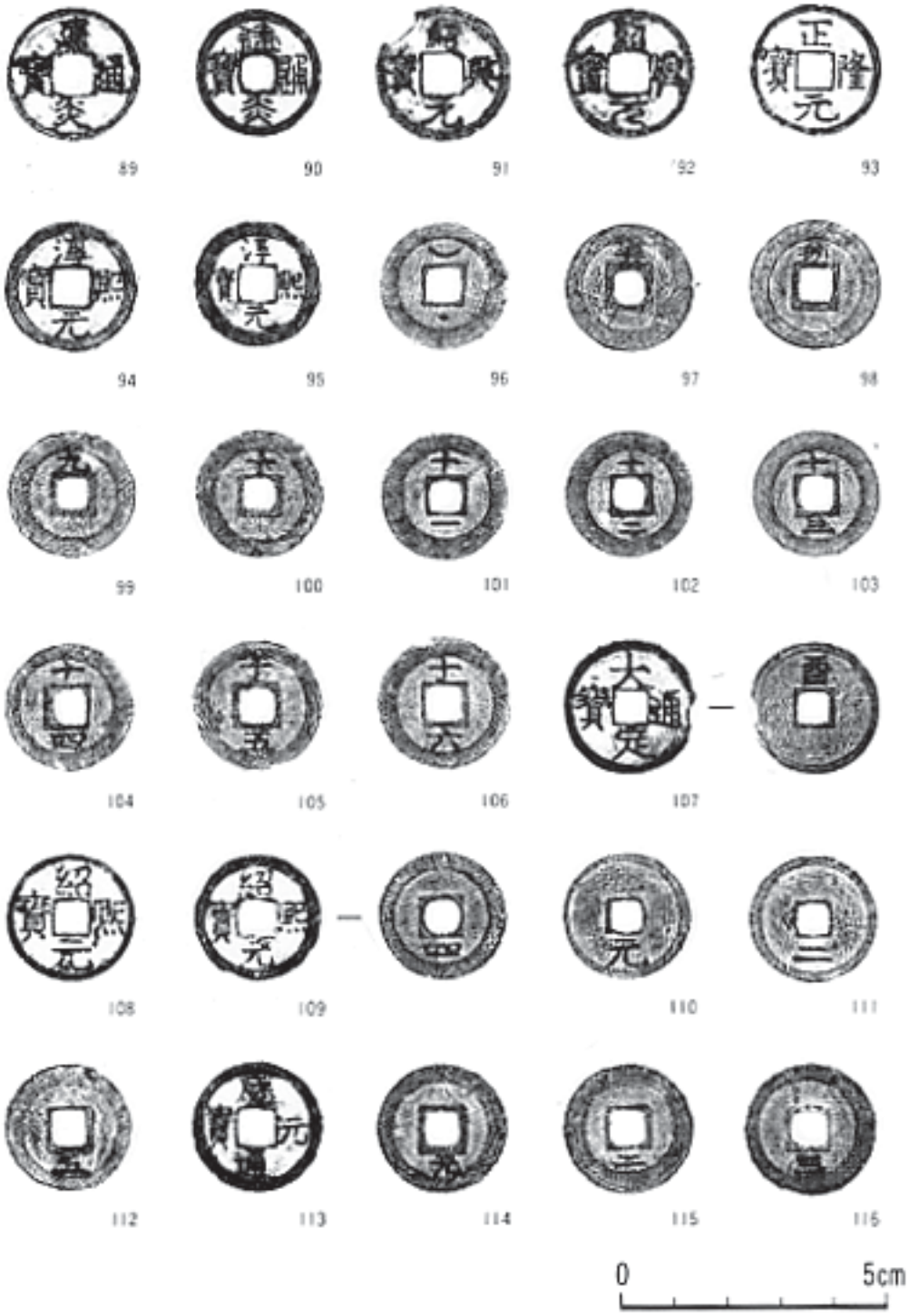
第９図　古銭拓影図（１）


30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
0
5cm

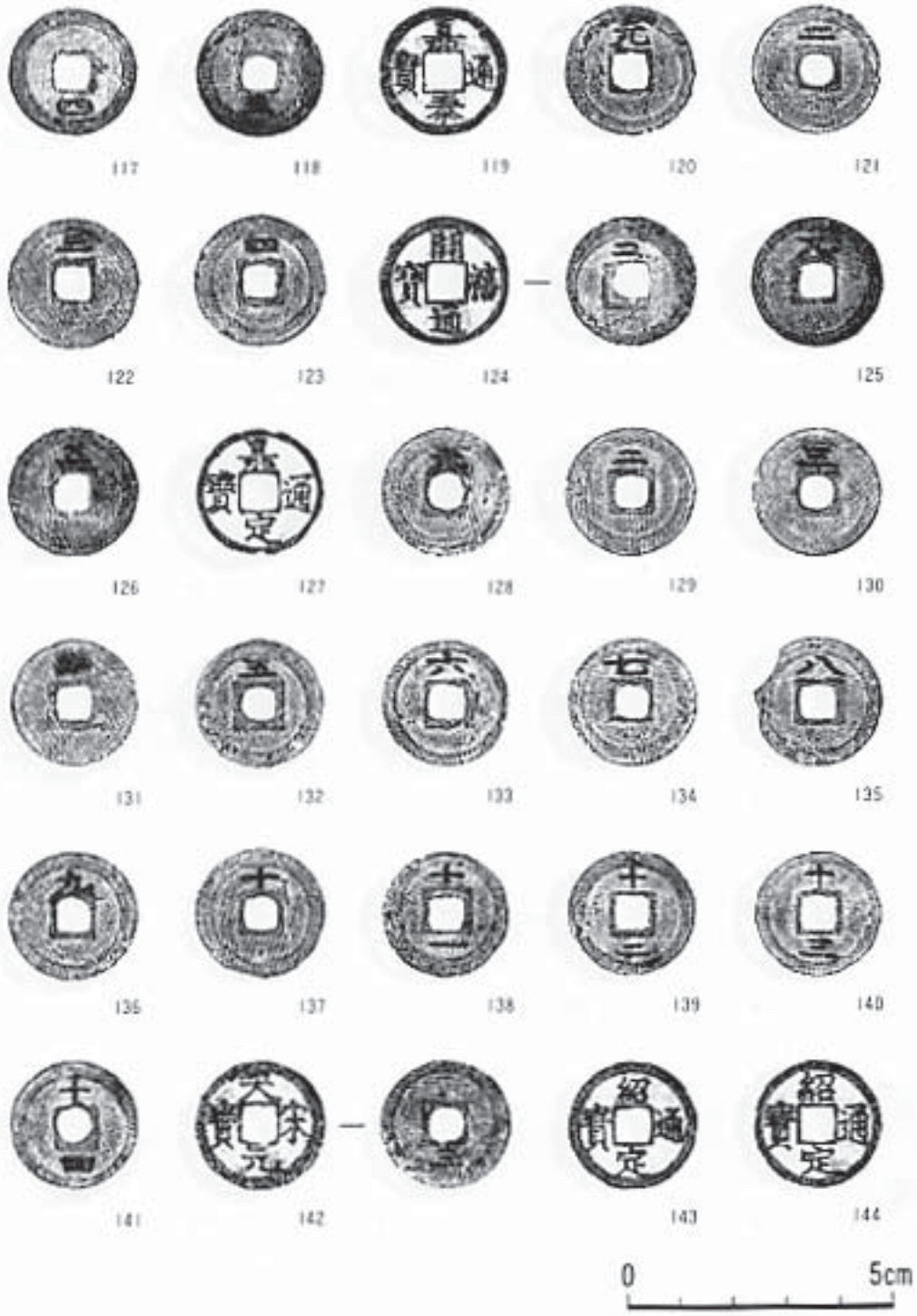
第10図　古銭拓影図（2）


60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
0
5cm

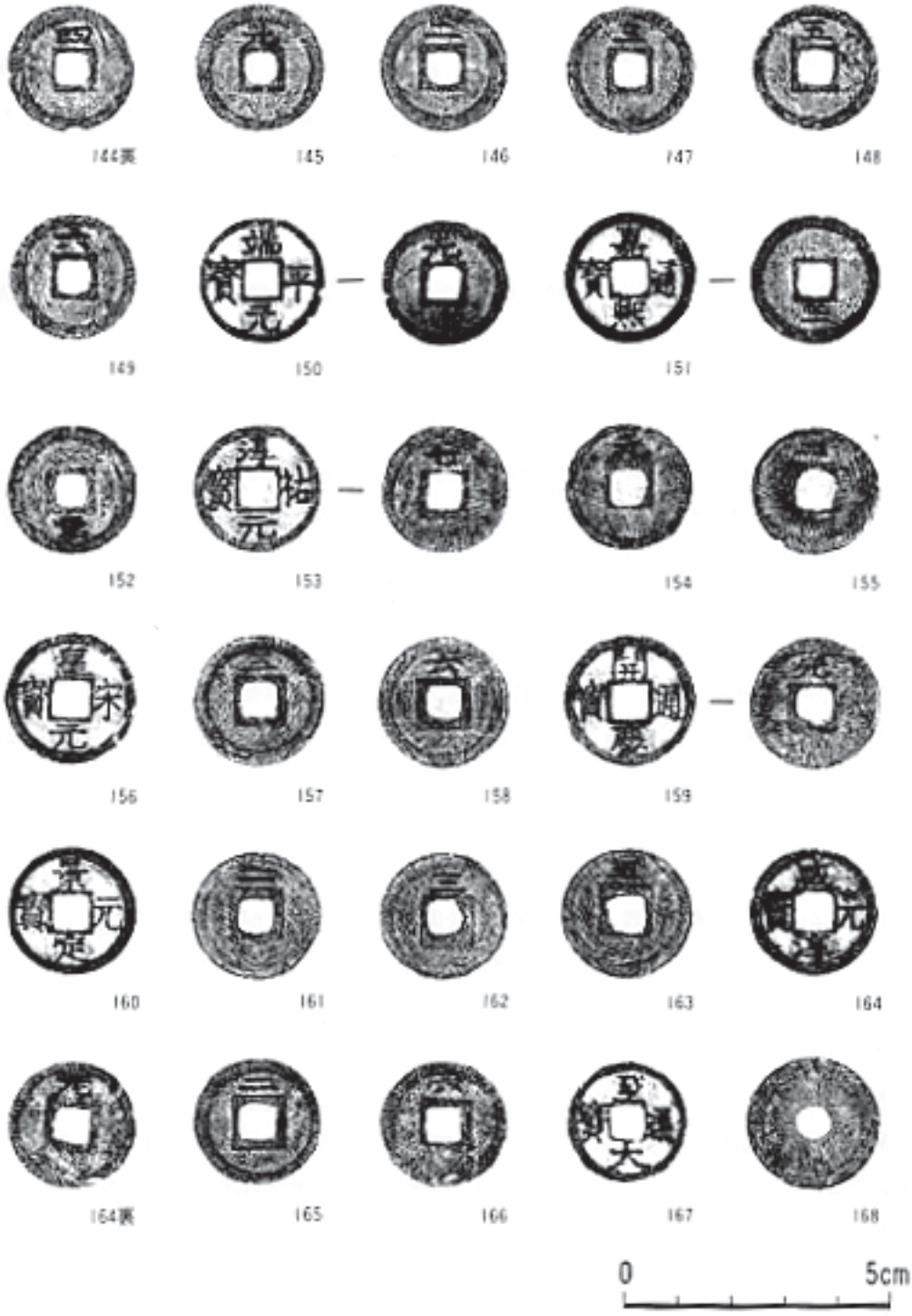
第11図　古銭拓影図（3）


89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
0
5cm

第12図　古銭拓影図 (4)


117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
0
5cm

第13図　古銭拓影図 (5)


144裏
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
164裏
165
166
167
168
0
5cm

第14図　古銭拓影図 (6)

第4節　小　　結

今回の出土古銭は、すべて銅銭と思われる。緑青が強く付着していたのを除けば、保存状態は、良好である。第5表に示したように10,432枚中判読不能銭が、僅か117枚と保存のよさをうかがわせる。出土古銭に僅か1枚だけ無文銭を確認した。鋳込も良好でただ銭名が無いだけで（故意に削り取った痕跡は、認められない）ある。無文銭が、流通貨銭として使用されたかについては、定かでない。

古銭10,432枚の鋳造国別出土率は、漢0.02％、唐9.63％、前蜀0.01％、後周0.05％、南唐0.05％、宋87.62％、南宋2.41％、金0.17％、元0.02％、日本0.02％となり、宋銭が約90％を占めている。この比率は、同じく至大通寶を上限とする弘前市乳井・尾上町猿賀の出土古銭にもあてはまる。宋銭は、平安時代中期ごろから鎌倉時代にかけて、わが国に流入してくる渡来銭の主流をなす貨銭で、室町時代には、明銭が主体になって流入している。緡状になっていたブロックを無作為に選びだして、鋳造国別出土率（第6表）をだしてみた。この比率をみると、総数の鋳造国別出土率に、ほぼ一致する。これは、ある特定の銭種を意図的には、あつめていないということで、本古銭に関しては、撰銭が行われていないということを示している。

古銭の埋蔵年代は、決め手となる文献がなく、また伴出遺物が微量なので確定できないが、下限貸銭が至大通寶であること、室町時代に流入してくる明銭が含まれていないこと、さらに15世紀（この頃顕著になるだけで、それ以前から行われていたと思われる）の後半から盛んになる撰銭が行われていないこと等から、14世紀の中頃から15世紀にかけてと推定される。

総数10,432枚という数は、埋蔵推定年代当時の貸銭単位に照らしてみると、約10貫に相当する。鎌倉時代の中頃から室町時代にかけては、97文（97枚）で100文とし1000文で1貫になる。

10世紀から中世を通じて銭1貫は、米1石を購入できた。したがって地域差によって、多少変動があったとしても本古銭は、当時、米約10石分に相当したことになる。

出土古銭のほとんどは、中国渡来銭であるが、皇朝12銭と称されている和同開珎、神功開寶の本邦銭が含まれていた。

和同開珎は、52年の長きにわたって流通し鋳造量も多く、奈良時代を代表する貸銭である。

神功開寶は、皇朝12銭中3番目の鋳造で、和同開珎、万年通寶（天平宝字4年AD760年）と共に奈良時代に、3銭種混用された貨銭である。和同開珎、神功開寶とも、中国銭に比べると摩滅が目立つ。公鋳銭か私鋳銭かは不明である。

埋蔵推定年代当時の津軽地方は、「津軽の大乱」とよばれる内乱時期にあたり、出土古銭の埋蔵目的に、なんらかの関係があるのではないだろうか。

（永井　治）

第6表　緡別鋳造国比率

	漢	唐	前蜀	後周	南唐	宋	南宋	金	元	日本	不明
1		10. 63% (5)				89. 36% (42)					
2		11. 11% (4)				88. 89% (32)					
3		18. 18% (8)				79. 54% (35)	2. 27% (1)				
4		5. 77% (3)				86. 54% (45)	5. 77% (3)			1. 92% (1)	
5		4. 88% (2)				87. 80% (36)	2. 43% (1)				4. 88% (2)
6	1. 82% (1)	3. 64% (2)				83. 64% (47)	7. 27% (4)	1. 82% (1)			
7		9. 09% (2)				81. 82% (18)	9. 09% (2)				
8		9. 76% (4)				90. 24% (37)					
9		11. 62% (5)				86. 05% (37)	2. 33% (1)				
10		12. 50% (6)				85. 42% (41)	2. 08% (1)				

（　）は枚数

第７表　奥内地区古銭観察表（1）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
五　　銖								
1	2．47	0．87	0．17	0．12	2．8			
2	2．25	0．85	0．20	0．06	1．2			
開元通寶								
3	2．51	0．69	0．24	0．12	3．2	真	甲文	
4	2．49	0．63	0．26	0．13	3．4	〃	「典」	
5	2．34	0．65	0．17	0．12	3．2	〃	「潤」	
6	2．33	0．60	0．21	0．11	2．4	〃	「益」	
7	2．42	0．63	0．28	0．10	2．7	〃	「京」	
8	2．28	0．64	0．20	0．14	2．7	〃		外輪加工
9	2．40	0．56	0．33	0．12	3．3	篆		
和同開珎								
10	2．46	0．66	0．20	0．12	3．3	真		
軋元重寶								
11	2．46	0．63	0．27	0．12	3．2	真		
12	2．33	0．67	0．16	0．13	3．0	〃		
13	2．42	0．63	0．20	0．10	2．7	〃		小孔有
14	2．48	0．62	0．18	0．15	3．2	〃	甲文	
神功開寶								
15	2．40	0．62	0．21	0．11	2．8	真		
光天元寶								
16	2．36	0．65	0．20	0．10	2．5	真		
周通元寶								
17	2．45	0．63	0．27	0．13	2．8	真		
唐國通寶								
18	2．45	0．60	0．31	0．10	3．0	篆		
19	2．48	0．61	0．23	0．10	3．2	〃		
宋通元寶								
2付	2．52	0．59	0．26	0．13	3．4	真		
太平通寶								
21	2．45	0．61	0．27	0．12	3．1	真		
22	2．41	0．55	0．28	0．13	3．5	〃	甲文	
淳化元寶								
23	2．48	0．58	0．32	0．11	3．5	真		
24	2．41	0．55	0．28	0．13	3．5	草		
至道元寶								
25	2．48	0．60	0．32	0．10	3．3	真		
26	2．49	0．62	0．36	0．14	3．5	行		
27	2．48	0．60	0．30	0．14	4．2	草		
咸平通寶								
28	2．44	0．59	0．30	0．11	3．3	真		
景德元寶								
29	2．46	0．58	0．27	0．10	3．0	真		

拓影図・写真図版の番号と観察表の番号は同一

奥内地区古銭観察表（2）

	直経（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
30	2．45	0．59	0．26	0．12	3．0	真		鋳造不良
祥符元寶								
31	2．52	0．62	0．31	0．10	2．7	真		
32	2．08	0．59	0．22	0．10	2．0	〃		外輪加工
祥符通寶								
33	2．54	0．63	0．30	0．12	3．3	真		
34	2．43	0．61	0．24	0．11	3．2	〃		
天禧通寶								
35	2．45	0．60	0．24	0．11	3．0	真		
天聖元寶								
36	2．48	0．62	0．22	0．12	3．5	真		
37	2．46	0．69	0．20	0．12	3．3	篆		
明道元寶								
38	2．56	0．60	0．29	0．12	4．0	真		
39	2．50	0．66	0．27	0．10	2．8	篆		
景祐元寶								
40	2．50	0．60	0．28	0．10	3．2	真		
41	2．50	0．66	0．27	0．10	2．8	篆		
皇宋通寶								
42	2．48	0．72	0．28	0．10	2．9	真		
43	2．48	0．71	0．28	0．13	3．5	篆		
44	2．48	0．79	0．33	0．09	2．9	〃		内部加工ニ
至和元寶								
45	2．38	0．60	0．29	0．12	3．4	真		
46	2．46	0．70	0．27	0．14	3．7	篆		
至和通寶								
47	2．45	0．70	0．33	0．10	3．2	真		
48	2．48	0．70	0．33	0．10	2．9	篆		
嘉祐元寶								
49	2．53	0．60	0．30	0．11	3．2	真		
50	2．34	0．60	0．25	0．10	2．8	〃		内部不良
51	2．34	0．60	0．26	0．13	3．6	篆		
嘉祐通寶								
52	2．46	0．70	0．22	0．14	3．2	真		
53	2．47	0．70	0．28	0．12	3．5	篆		
治平元寶								
54	2．30	0．61	0．20	0．14	3．5	真		
55	2．46	0．64	0．26	0．12	3．5	篆		
治平通寶								
56	2．42	0．66	0．30	0．12	3．3	真		
57	2．45	0．69	0．30	0．10	2．6	〃		小孔有
58	2．45	0．70	0．25	0．12	3．8	篆		
熙寧元寶								

奥内地区古銭観察表（3）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
59	2．48	0．64	0．30	0．11	3．1	真		
60	2．43	0．71	0．19	0．10	3．0	〃		
61	2．41	0．66	0．16	0．16	3．3	〃		外輪加工
62	2．40	0．71	0．20	0．14	4．3	篆		
63	2．45	0．71	0．23	0．10	3．0	〃		
元豊通寳								
64	2．40	0．66	0．26	0．15	3．7	行		
65	2．13	0．64	0．14	0．12	1．9	〃		
66	2．42	0．59	0．25	0．12	3．4	篆		外輪加工
元祐通寳								
67	2．47	0．63	0．27	0．11	3．2	真		
68	2．40	0．67	0．25	0．12	3．3	篆		
69	2．49	0．59	0．37	0．11	3．3	〃		外輪幅広
紹聖元寳								
70	2．39	0．63	0．28	0．15	4．0	真		
71	2．49	0．69	0．25	0．12	3．3	〃	星文	
72	2．46	0．57	0．38	0．09	3．0	〃		内部加工
73	2．46	0．64	0．25	0．11	3．4	篆		小孔有
74	2．51	0．70	0．26	0．15	3．8	〃	星・月文	
紹聖通寳								
75	2．31	0．57	0．24	0．14	3．4	真		
元符通寳								
76	2．43	0．64	0．25	0．14	3．8	真		
77	2．49	0．69	0．28	0．11	3．4	篆		
78	2．38	0．64	0．27	0．13	3．4	〃		
聖宋元寳								
79	2．46	0．57	0．27	0．11	3．7	真		内部不良
80	2．13	0．60	0．18	0．08	1．8	〃		
81	2．35	0．59	0．19	0．11	3．0	篆		
82	2．45	0．64	0．27	0．11	3．5			内部加工
大觀通寳								
83	2．44	0．58	0．14	0．15	3．3	真		
政和通寳								
84	2．47	0．59	0．16	0．14	3．1	真		
85	2．45	0．68	0．20	0．11	2．8	篆		
宣和通寳								
86	2．44	0．70	0．18	0．15	3．7	真		内部加工
87	2．44	0．58	0．22	0．13	3．3	〃		
88	2．50	0．59	0．20	0．15	3．4	篆		
建炎通寳								
89	2．55	0．70	0．16	0．10	2．7	真		
90	2．39	0．59	0．20	0．16	3．6	篆		外輪加工

奥内地区古銭観察表（4）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
紹興元寳								
91	2．60	0．71	0．24	0．09	（2．7）	真		
92	2．47	0．73	0．18	0．08	1．8	篆		
正隆元寳								
93	2．46	0．60	0．18	0．14	3．2	真		
淳熙元寳								
94	2．49	0．64	0．25	0．13	3．5	真	「十五」	
95	2．38	0．63	0．30	0．13	3．1	〃	甲文	
96	2．40	0．63	0．30	0．12	2．9	〃	甲・星文	
97	2．42	0．64	0．29	0．12	2．6	〃	「渠」	
98	2．46	0．63	0．29	0．12	3．6	〃	「捌」	
分9	2．40	0．59	0．28	0．10	2．9	〃	「九」	
100	2．44	0．59	0．29	0．11	2．8	〃	「十」	
101	2、40	0．60	0．28	0．13	2．7	〃	「十一」	
102	2．40	0．61	0．30	0．10	2．6	〃	「十二」	
103	2．40	0．63	0．29	0．11	3．3	〃	「十三」	
104	2．42	0．65	0．22	0．13	3．5	〃	「十四」	
105	2．48	0．66	0．25	0．12	3．0	〃	「十五」	
106	2、51	0．64	0．26	0．14	3．6	〃	「十六」	
大定通寳								
107	2．51	0．61	0．18	0．12	3．1	真	「酉」	
紹熙元寳								
108	2．42	0．60	0．17	0．14	3．2	真	「二」	
109	2．42	0．64	0．28	0．13	3．0	〃	「四」	
110	2．40	0．60	0．15	0．13	3．2	〃	「元」	
111	2，41	0．59	0．14	0．13	3．3	〃	「二」	
112	2．40	0．67	0．22	0．12	2．8	〃	「五」	
慶元通寳								
113	2．44	0．68	0．21	0．12	3．6	真	「二」	
114	2．45	0．63	0．23	0．12	3．9	〃	「元」	
115	2．43	0．65	0．24	0．10	2．9	〃	「二」	
116	2．49	0．60	0．23	0．15	3．5	〃	「三」	
117	2．41	0．65	0．22	0．11	3．0	〃	「四」	
118	2．39	0．64	0．24	0．13	2．8		「五」	
嘉泰通寳								
119	2、47	0．65	0．23	0．12	3．3	真	不明	
120	2、46	0．70	0．22	0．09	2．9	〃	「元」	
121	2．44	0．62	0．20	0．12	3．4	〃	「二」	
122	2．49	0．65	0．24	0．12	3．6	〃	「三」	
123	2．50	0．62	0．22	0．13	3．4	〃	「四」	
開禧通寳								
124	2．48	0．63	0．25	0．10	2．6	真	「二」	
125	2．46	0．64	0．20	0．13	3．5	〃	「元」	

奥内地区古銭観察表（5）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
126	2．47	0．69	0．24	0．13	3．2	真	「三」	
嘉定通寶								
127	2．41	0．64	0．16	0．12	3．0	真	「六」	
128	2．43	0．63	0．19	0．12	3．3	〃	「元」	
129	2．45	0．61	0．17	0．10	3．1	〃	「二」	
130	2．44	0．61	0．14	0．12	3．0	〃	「三」	
131	2．41	0．64	0．14	0．10	2．6	〃	「四」	
132	2．45	0．62	0．21	0．13	3．3	〃	「五」	
133	2．40	0．65	0．17	0．11	2．6	〃	「六」	内部不良
134	2．43	0．62	0．18	0．10	2．7	〃	「七」	
135	2．46	0．65	0．18	0．11	(2．4)	〃	「八」	
136	2．45	0．65	0．18	0．11	2．7	〃	「九」	内部不良
137	2．47	0．63	0．20	0．12	2．7	〃	「十」	
138	2．49	0．61	0．19	0．13	3．6	〃	「十一」	
139	2．39	0．62	0．19	0．12	3．5	〃	「十二」	
140	2．39	0．65	0．17	0．11	3．1	〃	「十三」	
141	2．43	0．65	0．24	0．13	3．3	〃	「十四」	内部不良
大宋元寶								
142	2．45	0．60	0．21	0．12	3．4	真	「三」	
紹定通寶								
143	2．46	0．61	0．25	0．13	3．6	真	「元」	
144	2．43	0．62	0．18	0．12	2．5	〃	「四」	
145	2．43	0．59	0．23	0．12	3．7	真	「元」	
146	2．43	0．62	0．22	0．13	3．5	〃	「二」	
147	2．43	0．63	0．22	0．13	3．3	〃	「三」	
148	2．39	0．65	0．20	0．12	3．0	〃	「五」	
149	2．38	0．61	0．18	0．12	3．2	〃	「六」	
端平元寶								
150	2．36	0．59	0．15	0．16	3．8	真	「元」	
嘉熙通寶								
151	2．45	0．60	0．22	0．15	3．6	真	「三」	
152	2．41	0．59	0．21	0．13	3．3	〃	「元」	
淳祐元寶								
153	2．38	0．65	0．19	0．12	3．5	真	「七」	
154	2．45	0．60	0．22	0．15	2．9	〃	「元」	
155	2．43	0．64	0．18	0．13	2．6	〃	「二」	
皇宋元質								
156	2．49	0．68	0．22	0．10	2．8	真	「六」	
157	2．50	0．64	0．25	0．11	3．1	〃	「三」	
158	2．48	0．64	0．21	0．13	3．5	〃	「六」	
開慶通寶								
159	2．49	0．64	0．26	0．11	3．3	真	「元」	
景定元寶								

奥内地区古銭観察表（6）

	直径（cm）	穿径（cm）	外輪幅（cm）	外輪厚（cm）	重さ（g）	書体	背文	備　考
160	2．43	0．64	0．17	0．08	2．2	真	「二」	
161	2．41	0．60	0．20	0．11	2．9	〃	「二」	
162	2．40	0．63	0．18	0．12	3．0	〃	「三」	
163	2．45	0．71	0．17	0．12	3．1	〃	「五」	
咸淳元寶								
164	2．40	0．66	0．24	0．11	3．1	真	「元」	
165	2．42	0．67	0．21	0．11	2．5	〃	「二」	
166	2．40	0．66	0．23	0．12	3．2	〃	「六」	
至大通寶								
167	2．26	0．56	0．19	0．18	3．7	真		
無文銭								
168	2．50	0．63	0．24	0．08	2．3			

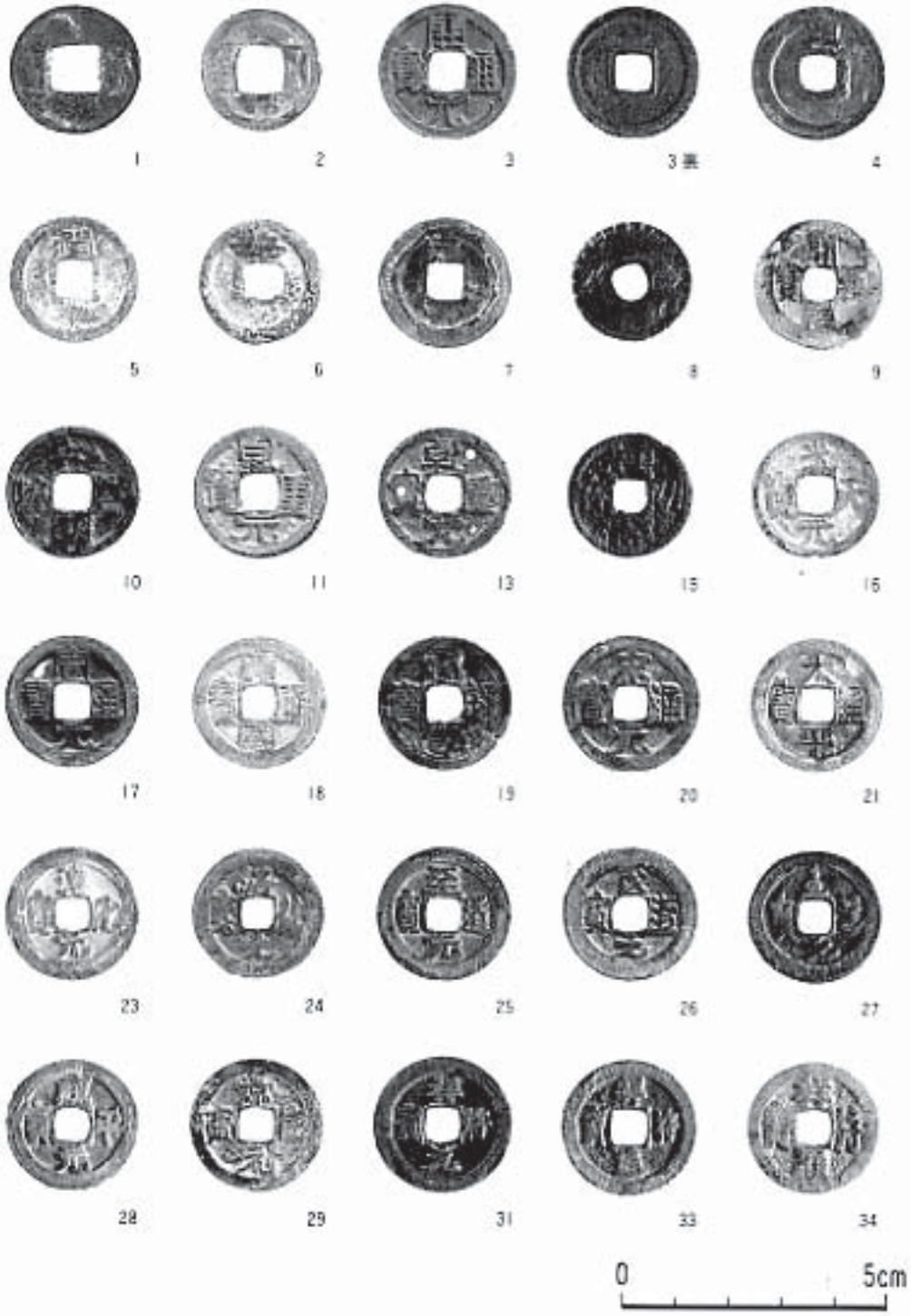

1
2
3
3裏
4
5
6
7
8
9
10
11
13
15
16
17
18
19
20
21
23
24
25
26
27
28
29
31
33
34
0
5cm

Fig 8 古　銭(1)

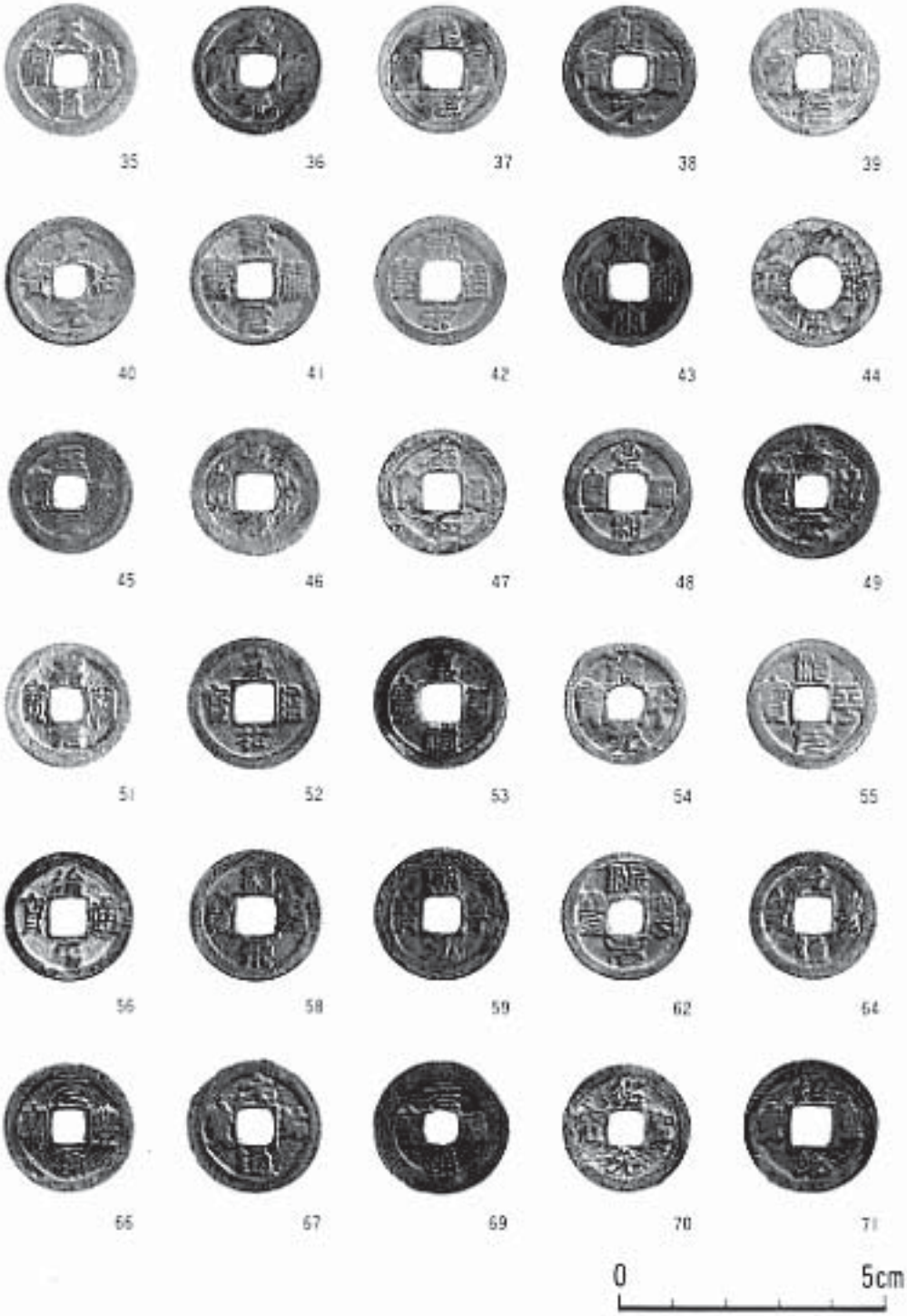

35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
51
52
53
54
55
56
58
59
62
64
66
67
69
70
71
0
5cm

Fig 9 古　銭 (2)

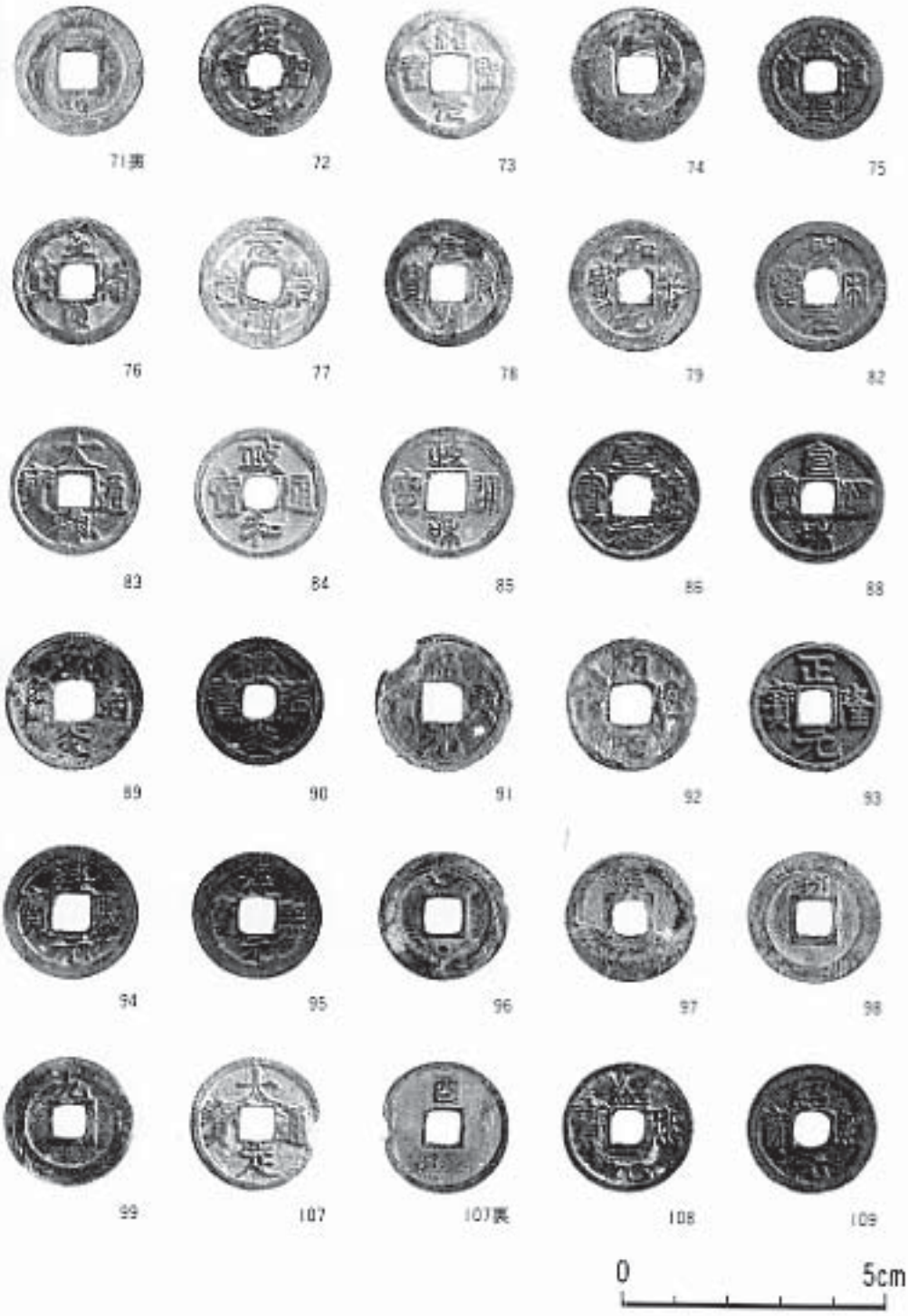

71表
72
73
74
75
76
77
78
79
82
83
84
85
86
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
107
107裏
108
109
0
5cm

Fig 10 古　銭 (3)

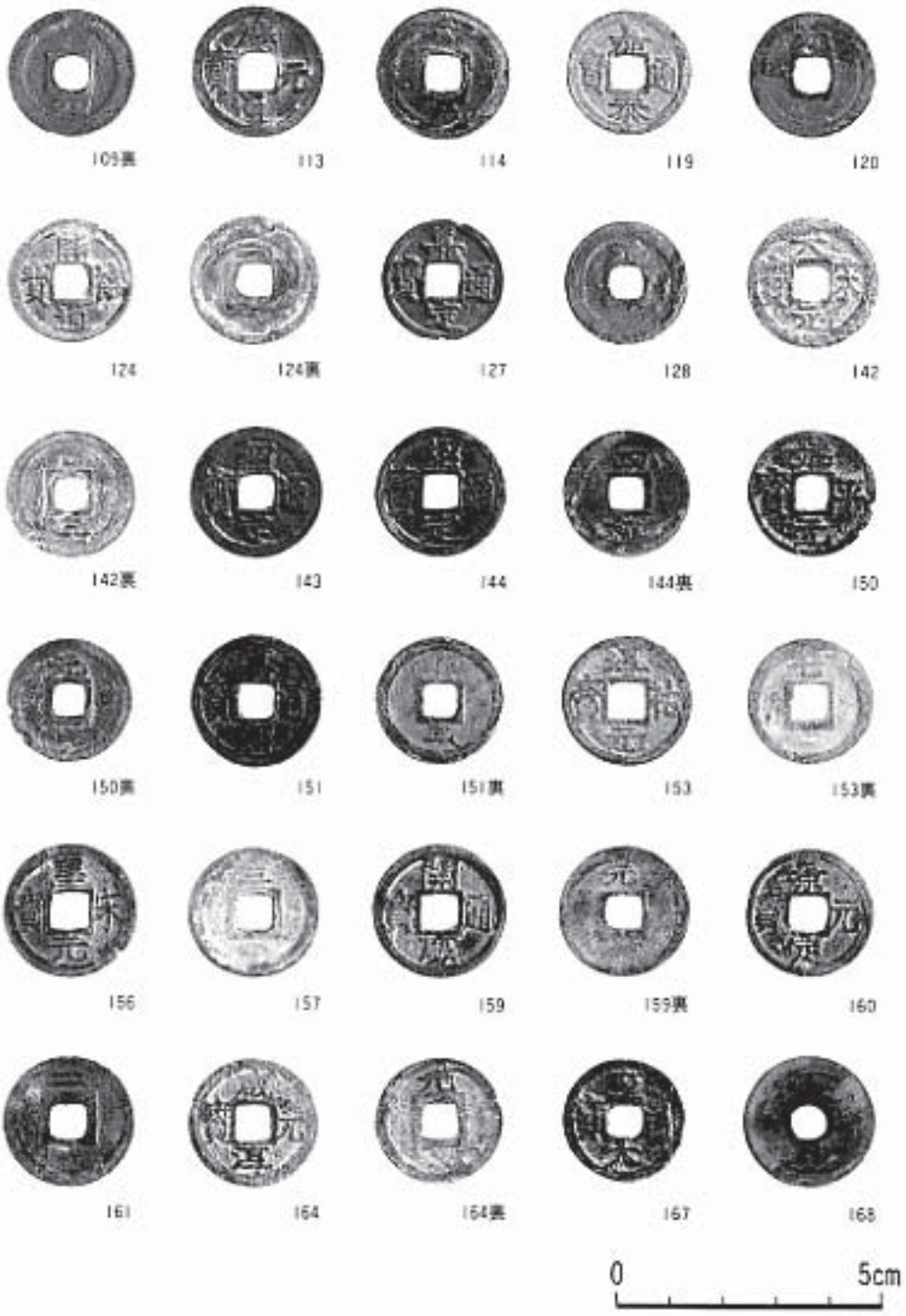

109裏
113
114
119
120
124
124裏
127
128
142
142裏
143
144
144裏
150
150裏
151
151裏
153
153裏
156
157
159
159裏
160
161
164
164裏
167
168
0
5cm

Fig 11 古　銭 (4)

第Ⅲ章　青森市東部地域出土の古銭について

青森市文化財審議会委員　葛西　　励

1、は　じ　め　に

1971(昭和46)年に青森市郊外の東部地域の二か所から備蓄銭と思われる古銭が出土していた。一か所は青森市大字原別字上海原35番地、もう一か所は青森市大字野内字菊川339番1号で、発見者はいずれも土地所有者で、偶然に発見したものである。仮に原別古銭・野内古銭として、その内容の概要を報告する。

なお、偶然による発見のため出土時の詳しい記録に欠けるが、いずれも一塊になって出土していること、原別古銭については縄状の紐と板切れが残っていたとのことである。容器については不明であるが、少なくとも甕などではないことは確実である。

本報告にあたって、資料の紹介を快諾していただいた古銭所有者の小笠原昌衛・山口貞蔵両氏と、分析に協力してくれた高橋潤、永井治両氏、青森山田高等学校考古学研究会に感謝の意を表します。

Fig12　原別地区出土地点近景

2、原　別　古　銭

1971年3月25日に出土し、1985年3月29日から同年6月29日まで青森山田高等学校考古学研究室で分類整理する。古銭出土後まもなく青森市文化センター内郷土資料室に展示のため約40枚（現存36枚）を寄贈する。また日本貨幣協会理事の河合寿三郎氏が約100枚を持ち出し（本人所蔵のものと交換）ているため、出土時の正確な枚数は不明である。今般、分類整理の対象と

第15図　出土地点と周辺の歴史時代の遺跡

第8表　周辺の歴史時代の遺跡一覧表

No.	遺　跡　名	遺跡番号	所　在　地	種類	時　　代	文　　献　　等
1	築木館岩瀬遺跡	01003	築木館字岩瀬47他	包蔵地	縄文前・後・晩期・歴史	
2	戸崎館遺跡	01022	戸崎字宮井	城　館	中世	『青森県の中世城館』
3	築木館遺跡	01041	滝沢字下川原	城　館	歴史・中世	『青森県の中世城館』
4	後菟遺跡	01047	後菟字外山・久堅	包蔵地	縄文・歴史	
5	駒込館遺跡	01048	駒込字桐ノ沢・月見野	城　館	歴史	『青森県の中世城館』
6	沢田遺跡	01051	八重田字浜野・露草	集落跡	歴史	『北奥古代文化』
7	赤坂遺跡	01053	戸山字赤坂	包蔵地	歴史	『浜館町誌』
8	蛍沢遺跡	01057	駒込字月見野349～363	集落跡	縄文早・前・後期・歴史	『蛍沢遺跡』
9	小柳遺跡	01059	小柳字唐橋	散布地	歴史	
10	露草遺跡	01061	八重田字露草	包蔵地	歴史	『北奥古代文化』
11	玉水遺跡	01189	宮田字玉水	散布地	歴史	
12	宮田館遺跡	01190	宮田字玉水	城　館	中世	
13	午蒡畑遺跡	01191	諏訪沢字山辺	包蔵地	縄文中期・弥生・歴史	

したのは1985年3月現在小笠原氏が所蔵していた4，556枚と郷土資料室に展示している36枚を含めた4，592枚である。ただし交換分は除外してある。限られた整理期間のため、主な作業は銭種分類とその出土数、そして拓影図の作成に止め、量目については次回以降にすることにした。

古銭が出土した場所の付近は古来から原別館跡と称されてきたところで、平安時代と推定される須恵器も表面採集されている。また青森湾へ注ぐ原別川の河口付近にあたる。

原別古銭の組成については、個体数による時代別比率は唐以前（0．06％）、唐代（9．06％）、唐以後（0．13％）、北宋（86．04％）、南宋（2．63％）、高麗（0．02％）、元（0．02％）、その他（1．74％）で、銭種56種による時代別比率は、唐以前（1．79％）、唐代（3．57％）、唐以後（8．93％）、北宋（53．57％）、南宋（30．36％）、高麗（1．79％）、元（1．79％）である。上限が「五銖」（24年）、下限が「至大通寶」（1310年）で、本邦銭は含まれていなかった。

第9表　青森市原別出土の古銭

銭種	初鋳年代	字体	読み方	枚数
1 五銖	西暦　24年		右読	3
2 開元通寶	唐代　621年	真書	対読	397
		精　銭		357
		銭文下に1点あるもの		14
		背に甲文のあるもの		30
		加工銭		6
2 開元通寶	南唐　960年	篆書	対読	1
3 軋元重寶	唐758年	真書	対読	18
		精　銭		16
		加工銭		1
		私鋳銭？		1
4 天漢元寶	前蜀915年	真書	順読	1
5 光天元寶	前蜀918年	真書	順読	1
6 軋徳元寶	前蜀919年	真書	順読	1
7 周元通寶	後周955年	真書	対読	1

8	唐国通寶	南唐	959年	篆書	対読	2		
9	宋通元寶	宋	960年	真書	順読	20		
10	太平通寶	宋	976年	真書	対読	36		
						精銭		35
						私鋳銭？		1
11	淳化元寶	宋	990年	真書	順読	10		
				行書	順読	11		
				草書	順読	10		
12	至道元賓	宋	995年	真書	順読	24		
				行書	順読	17		
				草書	順読	32		
						私鋳銭？		1
13	咸平元寶	宋	998年	真書	順読	59		
14	景德元寶	宋	1004年	真書	順読	94		
15	祥符元寶	宋	1008年	真書	順読	117		
16	祥符通寶	宋	1008年	真書	順読	73		
						精銭	大字	13
						小字		58
						加工銭		2
17	天禧通寶	宋	1017年	真書	順読	精銭		91
						加工銭		4
18	天聖元寶	宋	1023年	真書	順読	精銭		91
						加工銭		2
				篆書	順読	精銭		107
						加工銭		3
						私鋳銭？		5
19	明道元寶	宋	1032年	真書	順読	4		
				草書	順読	2		
				篆書	順読	15		
20	景祐元寶	宋	1034年	真書	順読	45		
				篆書	順読	22		
21	皇宋通寶	宋	1039年	真書	対読	精銭	A通	183
							B通	147
						加工銭	A通	20
							B通	8
				篆書	対読	精銭		268
						加工銭		20
						私鋳銭？		4
22	至和元寶	宋	1054年	真書	順読	精銭		20
						加工銭		1
				篆書	順読	精銭		14
						加工銭		4
23	至和通寶	宋	1054年	真書	対読	8		
				篆書	順読	4		
24	嘉祐元寶	宋	1056年	真書	順読	精銭		31
						加工銭		1
				□□□	篆書順読	精　銭		25
						加工銭		1
25	嘉祐通寶□	宋	1056年	真書	対読	精　銭		53
	□					加工銭	□	1
	□			篆書	対読	精　銭		51
	□					加工銭		3
26	治平元寶□	宋	1064年	真書	順読	精　銭		40
						加工銭□		5
				□□	篆書順読	精　銭	□	42
						加工銭	□	1
27	治平通寶	宋	1064年	真書	対読	5		
				篆書	対読	5		
28	熙寧元寶	宋	1068年	真書	順読	精　銭		250
						加工銭		3
				□	篆書順読	精　銭	A□□□	31
							B□□	76
							C□□	67
						加工銭□	A　□□	8
							B□□□	3
							C□□□	1
						私鋳銭？	□□	32
29	元豊通寶	宋	1078年	行書	順読	精　銭	□	299
		□	□			加工銭	□	7
		□	□	篆書	順読	精　銭	□	231
		□	□			加工銭	□	7
30	元祐通寶□	宋	1086年	行書	順読	精　銭	□	176
	□					加工銭	□　□	12
		□□		篆書	順読	精　銭	□	157
		□				加工銭	□	2
		□□□				私鋳銭？	行書	20
							篆書	31
31	紹聖元寶	宋	1094年	真書	順読	精　銭		72
						加工銭□		7
				篆書	順読	精　銭（内1ヶ背月甲）		67
						加工銭□		6
						私鋳銭？	真書	35
							篆書	24
32	海東通寶	高麗	1097年	真書	順読			1
33	元符通寶	宋	1098年	真書	順読	精　銭		19
						加工銭		3
		□□□□□		篆書		精　銭		10
						加工銭		2
						私鋳銭？	真書	6
							篆書	12
34	聖宋元寶	宋	1101年	真書	順読	精　銭		76
						加工銭		8

□　　篆書順読 精　銭　　70
加工銭　□　4
□ 私鋳銭？　真書　11
篆書　17

35 大観通寶　宋1107年　真書 対読 42
36 政和通寶　宋1111年　真書 対読□ 精□ □ 銭　79
□ 加工銭　5
篆書 対読 精　銭　78
□ 加工銭　3
私鋳銭？　真書　11
篆書　12
37 宣和通寶　宋1119年　真書 順読 10
篆書 順読 2
38 建炎通寶 南宋1127年　篆書 対読 1
39 紹興元寶 南宋1131年　真書 対読 1
40 正隆元寶　金1158年　真書 順読 6
41 淳熙元寶 南宋1174年　真書 順読 26□（背）　甲　9
染　□ □ 1□（七）
捌　3□（八）
九　2
十　3
十一　2
十二　2
十三　1
十四　1
不明　1
私鋳銭？　二　1
42 紹熙元寶 南宋1190年　真書 順読　7□（背）　二　1
三　4
四　2
43 慶元通寶 商宋1195年　真書 順読 15□（背）　元　3
二　3
三　2
四　1
五　1
六　5
44 嘉泰通寶 南宋1201年　真書 対読 7□（背）　二　2
三　2
四　3
45 開禧通寶 南宋1205年　真書 順読　6□（背）　元　2
二　1
三　3
46 嘉定通寶 南宋1208年　真書 対読 20□（背）　二　1
三　2
五　1
六　2
七　2
九　1
十　2
十一　2
十二　2
十三　3
十四　2
47 紹定通寶　南宋1228年　真書 対読 12(背)　元　5
三　2
四　3
五　1
六　1
48 端平元寶　南宋1234年　真書 順読 1(背)　元　1
49 嘉熙通寶　南宋1237年　真書 対読 1(背)　元　1
50 淳祐元寶　南宋1241年　真書 順読 6(背)　元　1
二　1
四　2
九　1
十　1
51 皇宋元寶　南宋1253年　真書 順読 3(背)　六　3
52 開慶通寶　南宋1259年　真書 対読 1
53 景定元寶　南宋1260年　真書 対読 1(背)　元　1
54 咸淳元寶　南宋1265年　真書 対読 7(背)　元　1
二　5
八　1
55 至大通寶　元1310年　真書 対読 1
不明、その他　80

3、野内古銭

原別古銭の発見よりおよそ1ヶ月早くに発見されていた。出土の正確な枚数は記録されていないが、およそ3,000枚～5,000枚とのことである。原別古銭の整理の傍ら、山口氏を訪問し、銭種のみを記録しておいた。各銭種の枚数については山口氏も記録しておらず、やがて山口氏の手から離れたものもあるために明らかにできないのが残念である。

銭種は46種で銭種による時代別比率は、唐（6.52%）、北宋（60.86%）、南宋（17.39%）、金（4.34%）、明（8.69%）、朝鮮（2.17%）で、上限が「開元通寶」(621年)、下限が「宣徳通寶」（1433年）で、本邦銭は含まれていなかったようである

第10表　野内出土の古銭

開元通寶（□ 621）	軋封泉寶（□ 666）	軋元重寶（□ 760）	宋通元寶（□ 960）
太平通寶（□ 976）	淳化元寶（□ 990）	至道元寶（□ 995）	咸平元寶（□ 998）
景徳元寶（1004）	祥符元寶（1008）	祥符通寶（1008）	天禧通寶（1017）
元聖元寶□（1023）	明道元寶（1032）	景祐元寶（1034）	皇宋通寶（1037）
至和元寶（1054）	至和通寶（1054）	嘉祐元寶（1056）	嘉祐通寶（1056）
治平元寶（1064）	治平通寶（1064）	熙寧元寶（1068）	元豊通寶（1078）
元祐通寶（1086）	紹聖元寶（1094）	元符通寶（1098）	聖宋元寶（1101）
大観通寶（1107）	政和通寶（1111）	宣和通寶（1119）	淳熙元寶（1174）
紹熙元寶（1190）	慶元通寶（1195）	嘉泰通寶（1201）	嘉定通寶（1208）
嘉熙通寶（1237）	淳祐元寶（1253）	皇宋元寶（1253）	正隆元寶（1158）
大定通寶（1178）	大中通寶（1361）	洪武通寶（1368）	永樂通寶（1408）
宣徳通寶（1433）	朝鮮通寶（1423）	□□□□□□□□□□□□	（　）は初鋳年

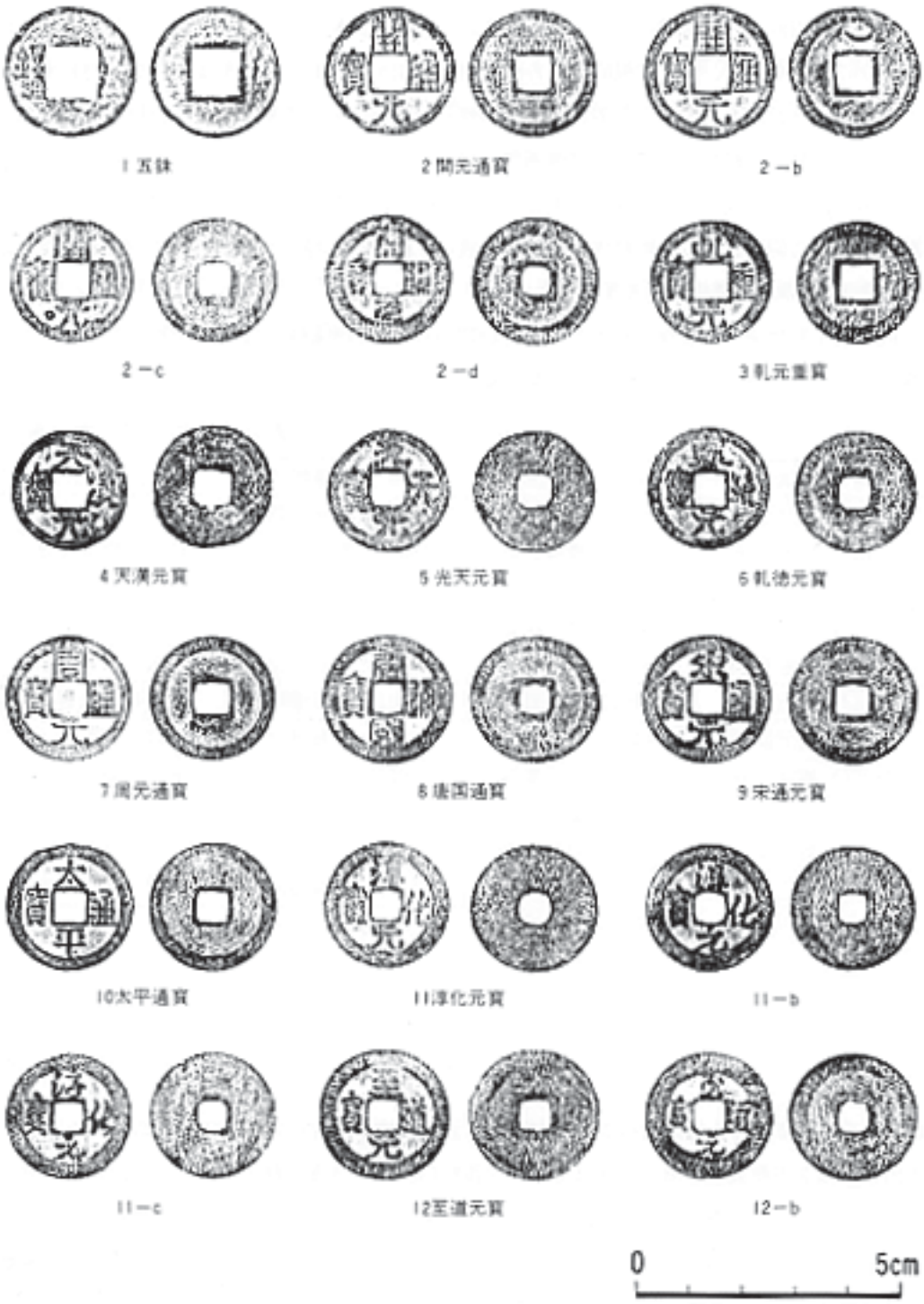
4、おわりに

原別古銭および野内古銭はいずれも海岸線近くに埋没されていた共通点がある。原別古銭は原別川の河口付近、野内古銭は貴船川の河口付近で、いずれも古くからの良港近くからの出土である。青森県内における古銭出土の分布をみれば、平賀町館山、尾上町猿賀、弘前市乳井、藤崎町のように内陸部の大河川の流域付近と、今般報告した原別、野内ほかに脇野沢村小沢のように海岸線付近の二通りが認められる。いずれも渡来銭で水運を背景としたものと思われるが、原別古銭、野内古銭など海岸線付近に埋没されているものの背景には、海運の発展に伴っ

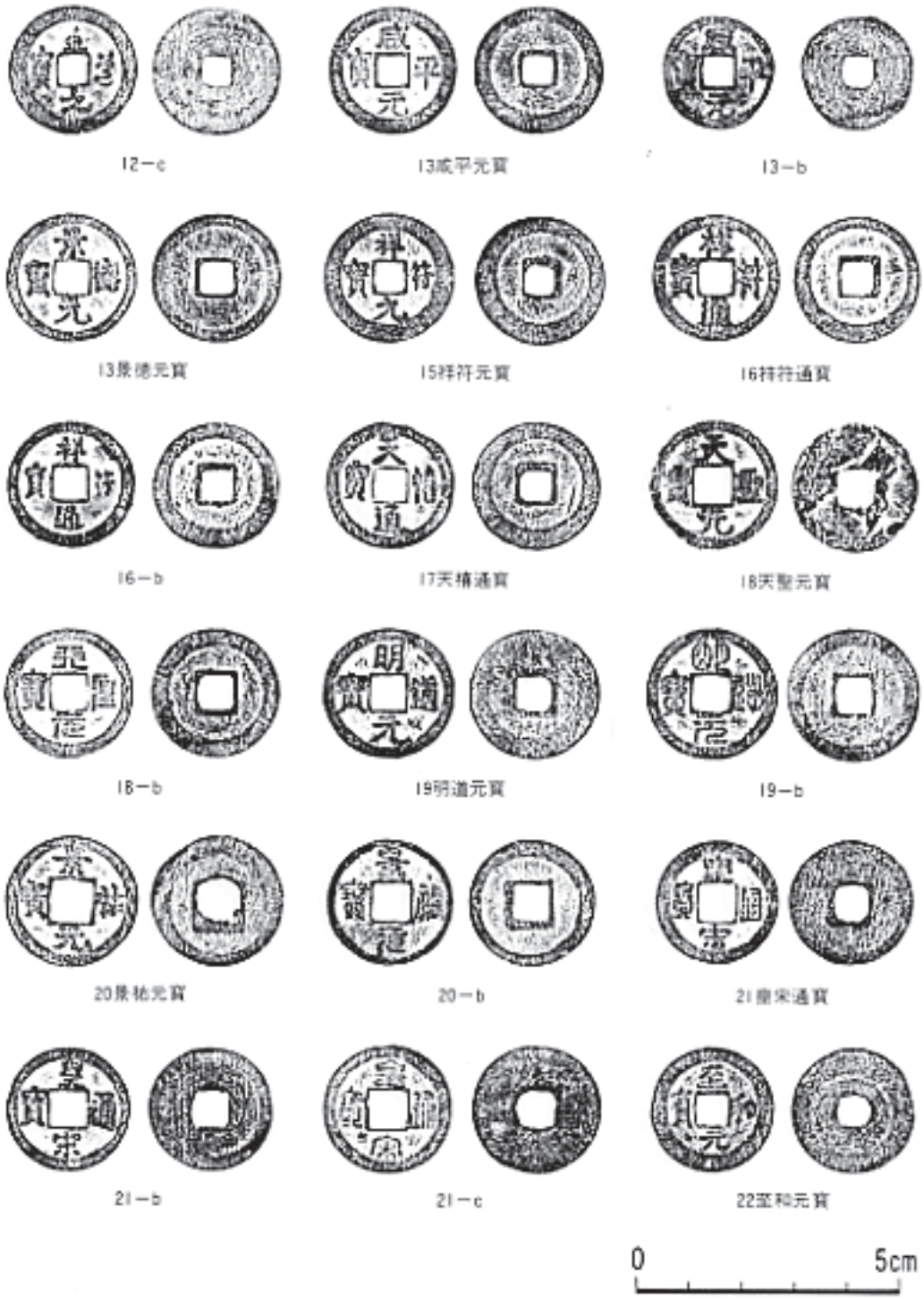
ての蓄財現象として把握される。

原別、野内両古銭の埋蔵時期についてはこれまで文献資料がなく、両古銭の下限の時期以降と言うことになるが、全国的視野から古銭の埋蔵時期を研究し、それを4期に分けた是光吉基の説によると、原別古銭が、下限が「至大通寶」であることから第2期で、14世紀後半ごろに比定され、野内古銭は、下限が「宣徳通寶」であることと「朝鮮通寶を含むことから、第3期1類で、15世紀後半から16世紀前半ごろまでの時期に位置付けられるようである。即ち、原別古銭は南北朝時代から室町時代に、野内古銭は室町時代に埋蔵されたもので、両者の間にはおよそ100年の前後関係が推考される。

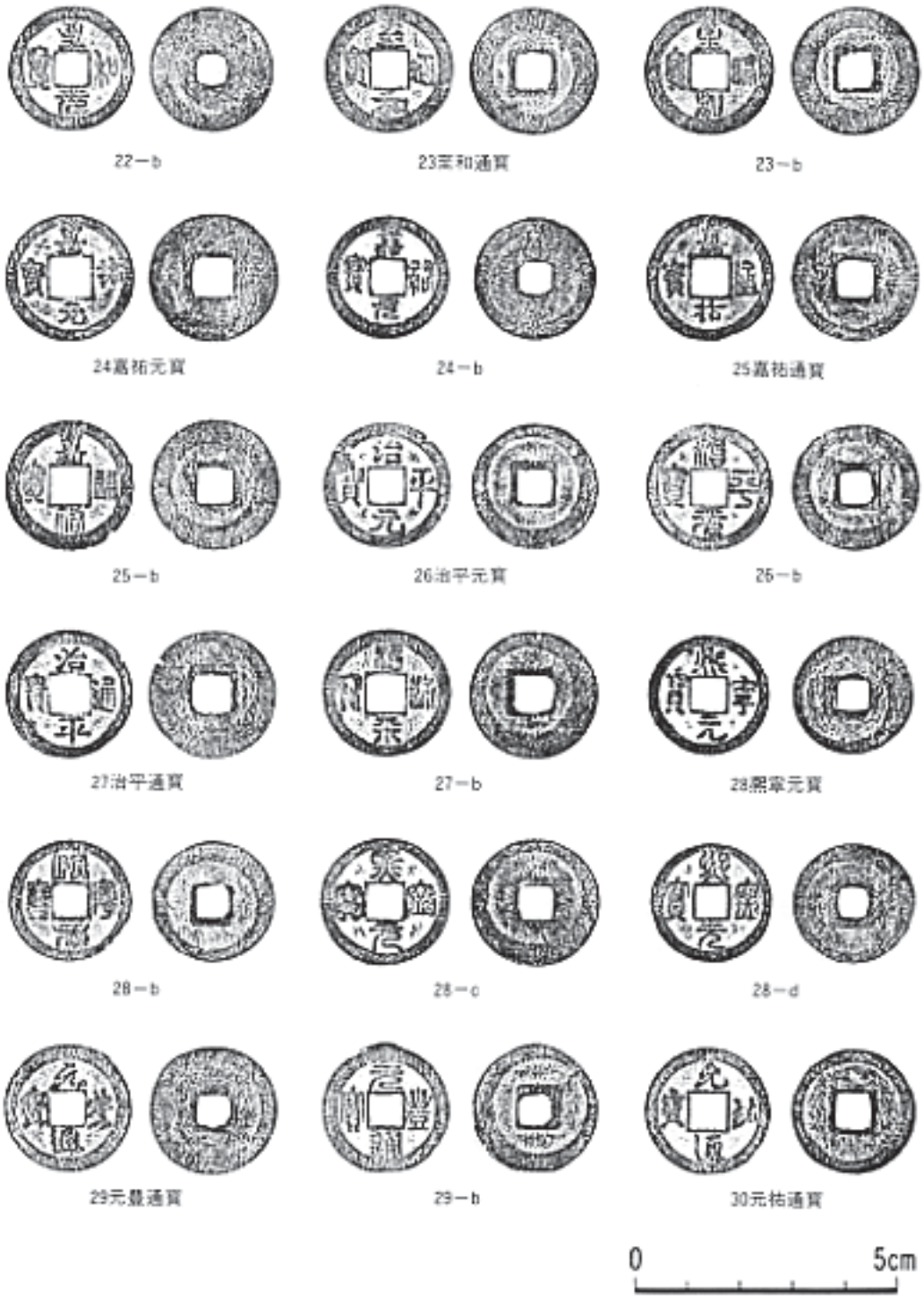
因に第1期は南宋の咸淳元寶までの銭貨が認められ、14世紀前半までの時期が想定され、青森県関係では平賀町館山の古銭がこの第1期に分類されている。



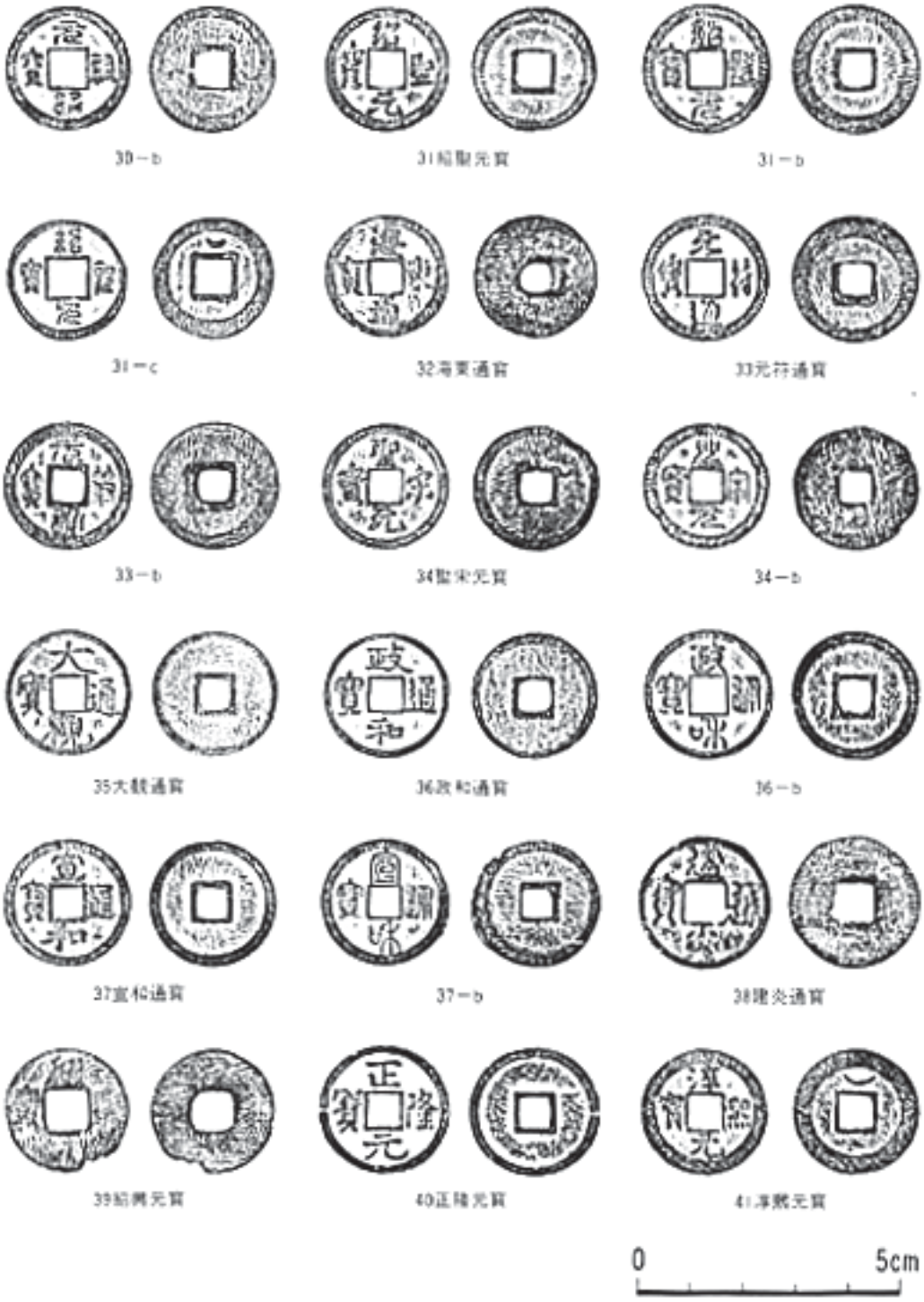
第16図　原別古銭拓影図（1）



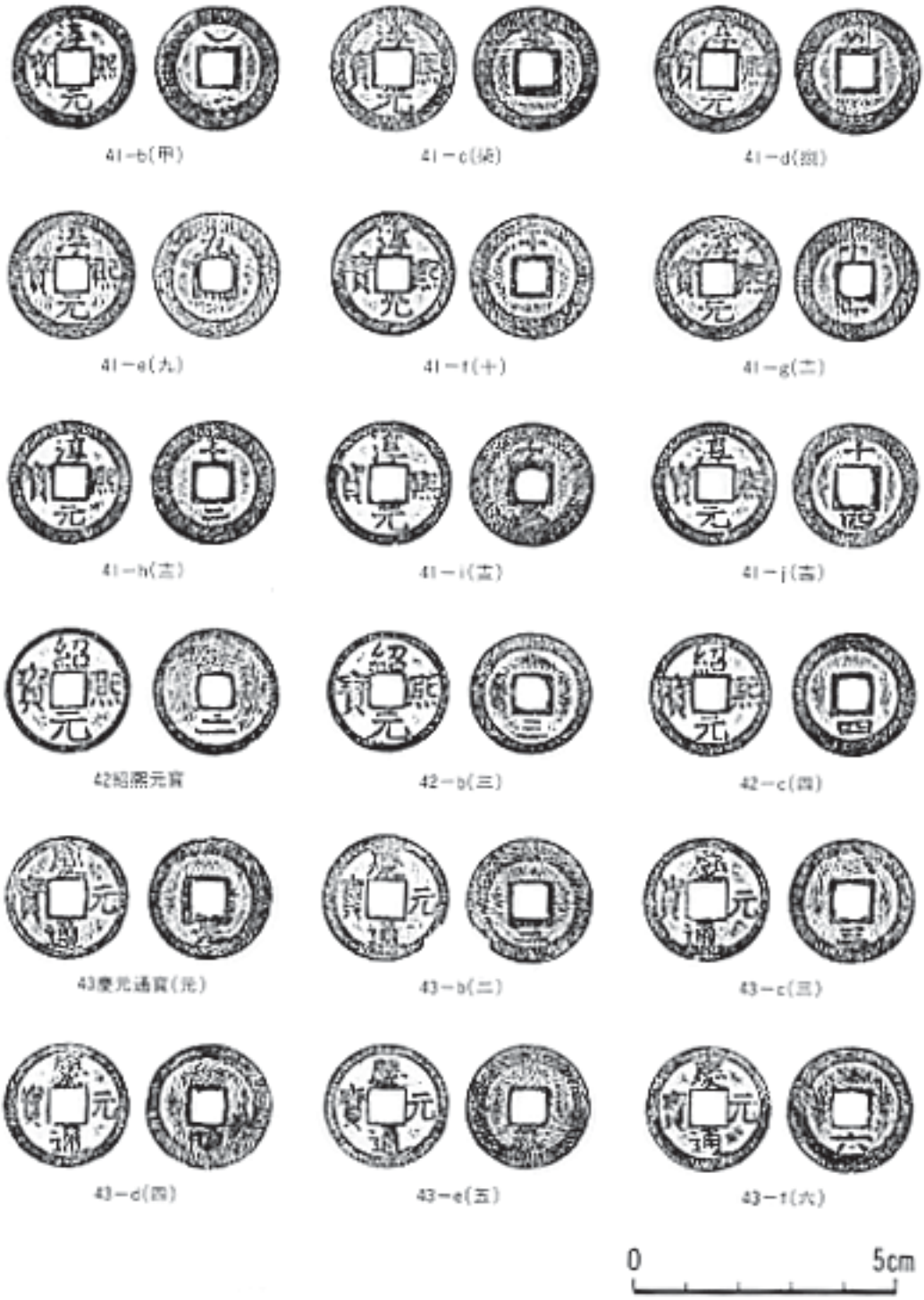
第17図　原別古銭拓影図（2）



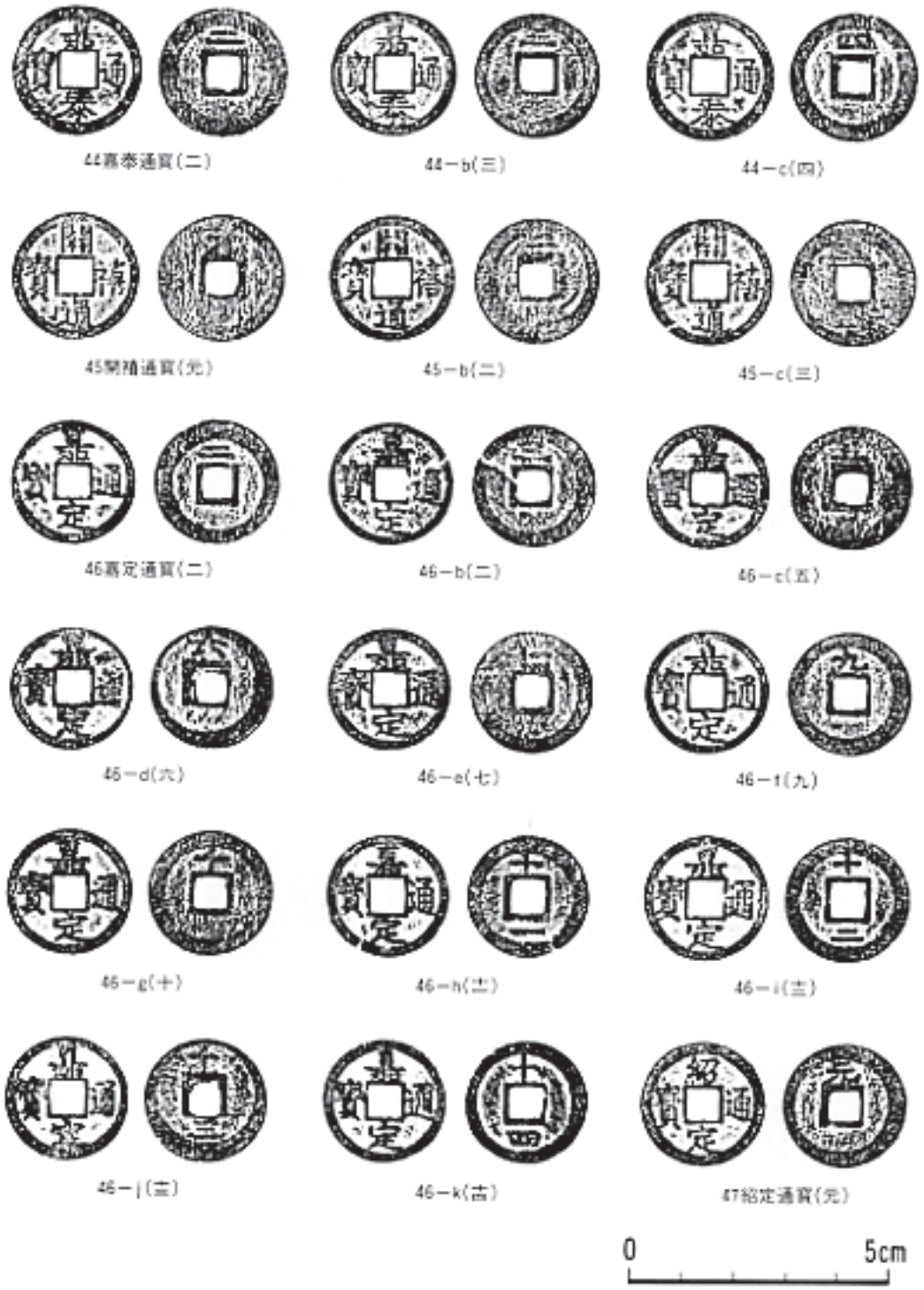
第18図　原別古銭拓影図（3）



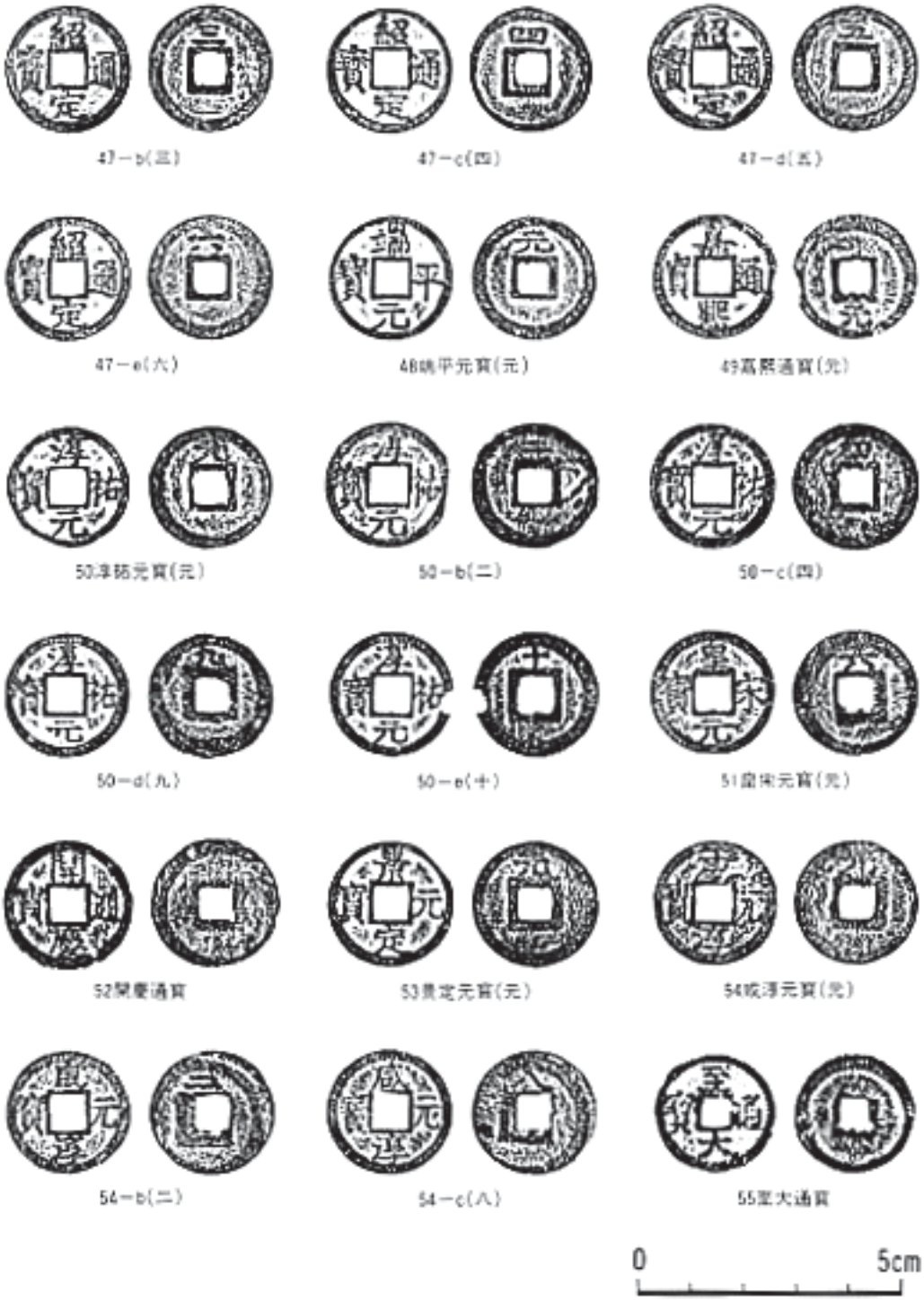
第19図　原別古銭拓影図（4）



第20図　原別古銭拓影図（5）



第21図　原別古銭拓影図 (6)



第22図　原別古銭拓影図（7）

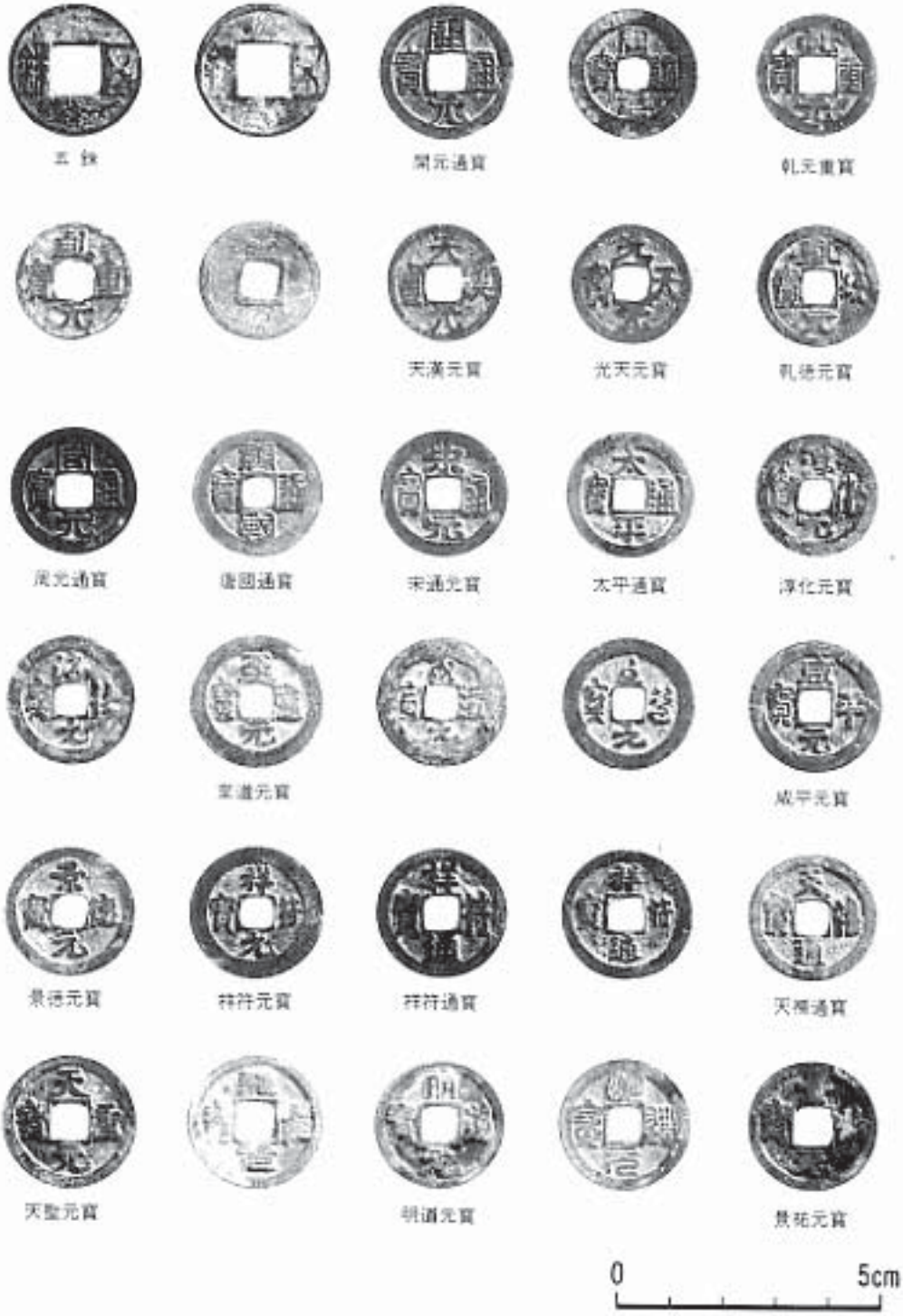

五銖
開元通寶
乾元重寶
天漢元寶
光天元寶
乾德元寶
開元通寶
唐國通寶
宋通元寶
太平通寶
淳化元寶
至道元寶
咸平元寶
景德元寶
祥符元寶
祥符通寶
天禧通寶
天聖元寶
明道元寶
景祐元寶
0
5cm

Fig. 13 原別古錢 (1)

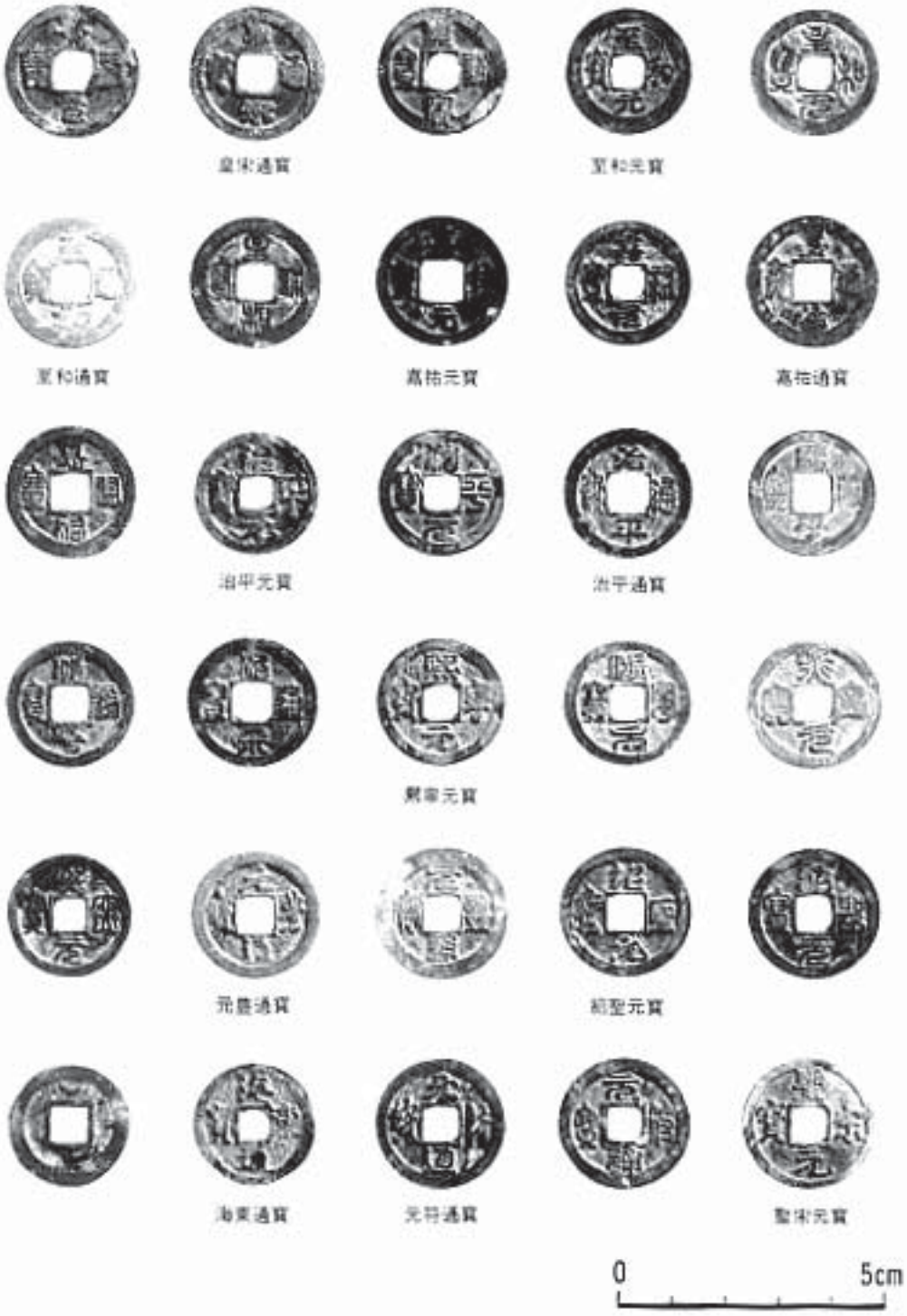

皇宋通寶
至和元寶
至和通寶
嘉祐元寶
嘉祐通寶
治平元寶
治平通寶
熙寧元寶
元豐通寶
紹聖元寶
海東通寶
元符通寶
聖宋元寶
0
5cm

Fig 14 原別古錢 (2)

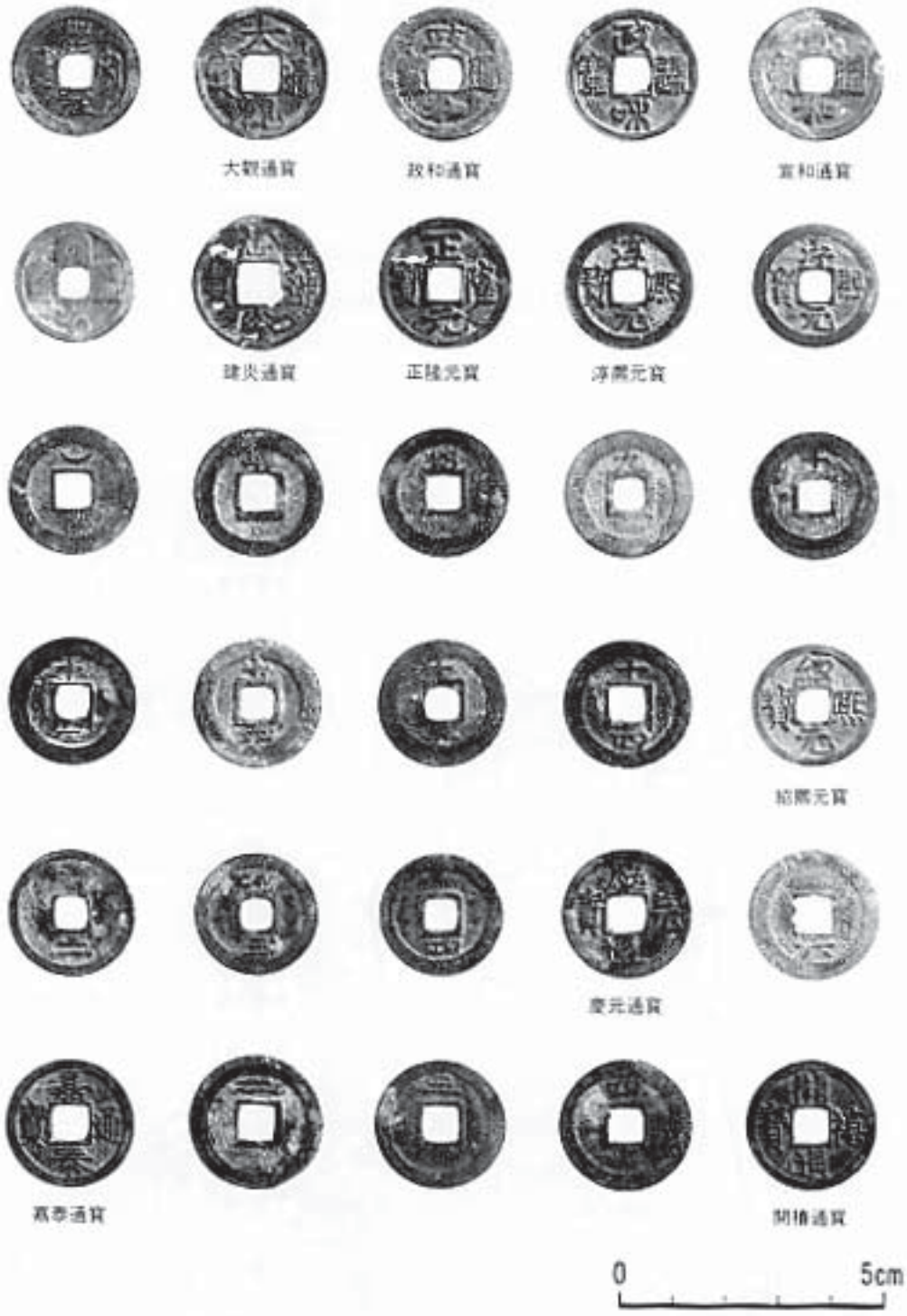


Fig 15 原別古銭 (3)

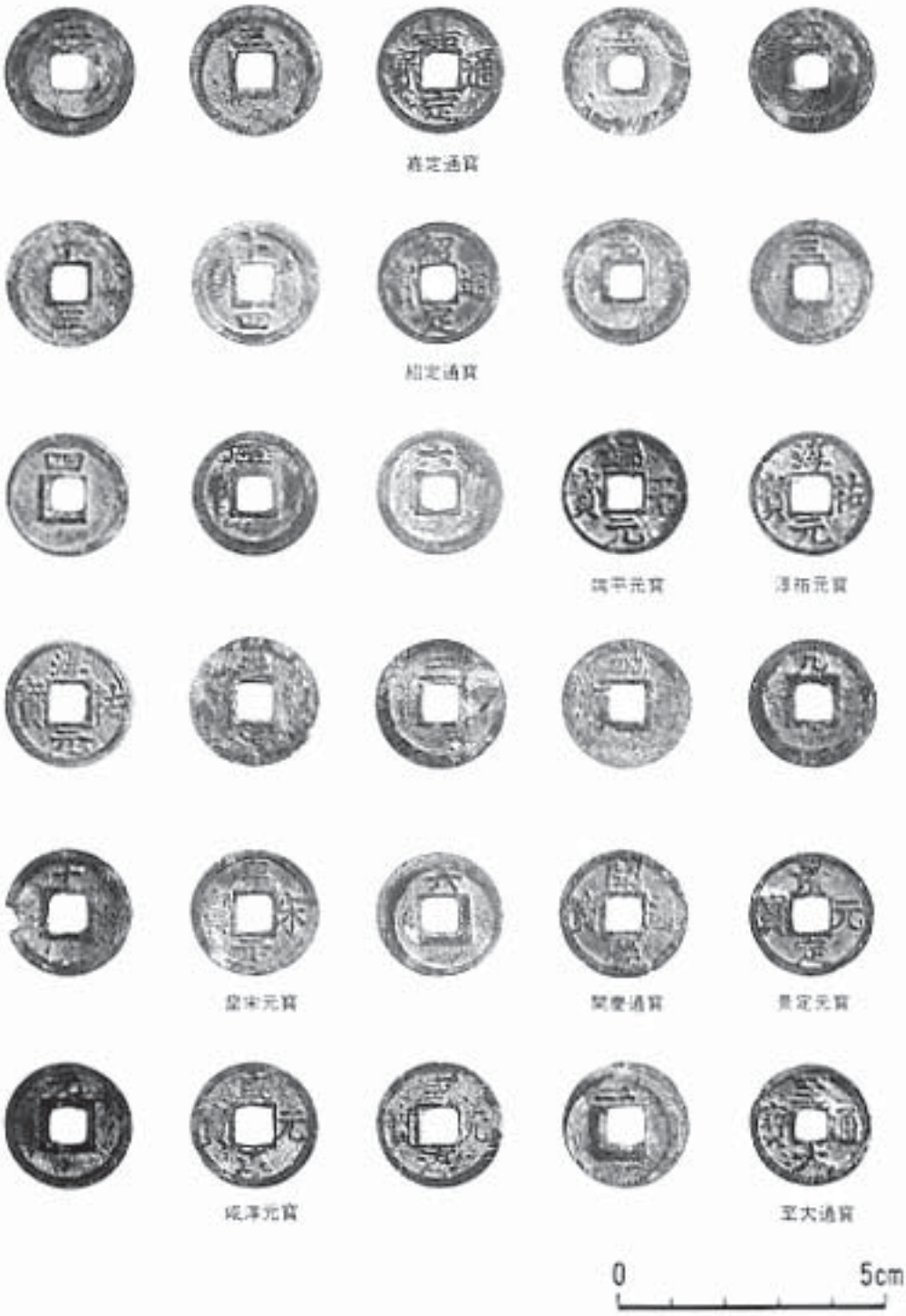
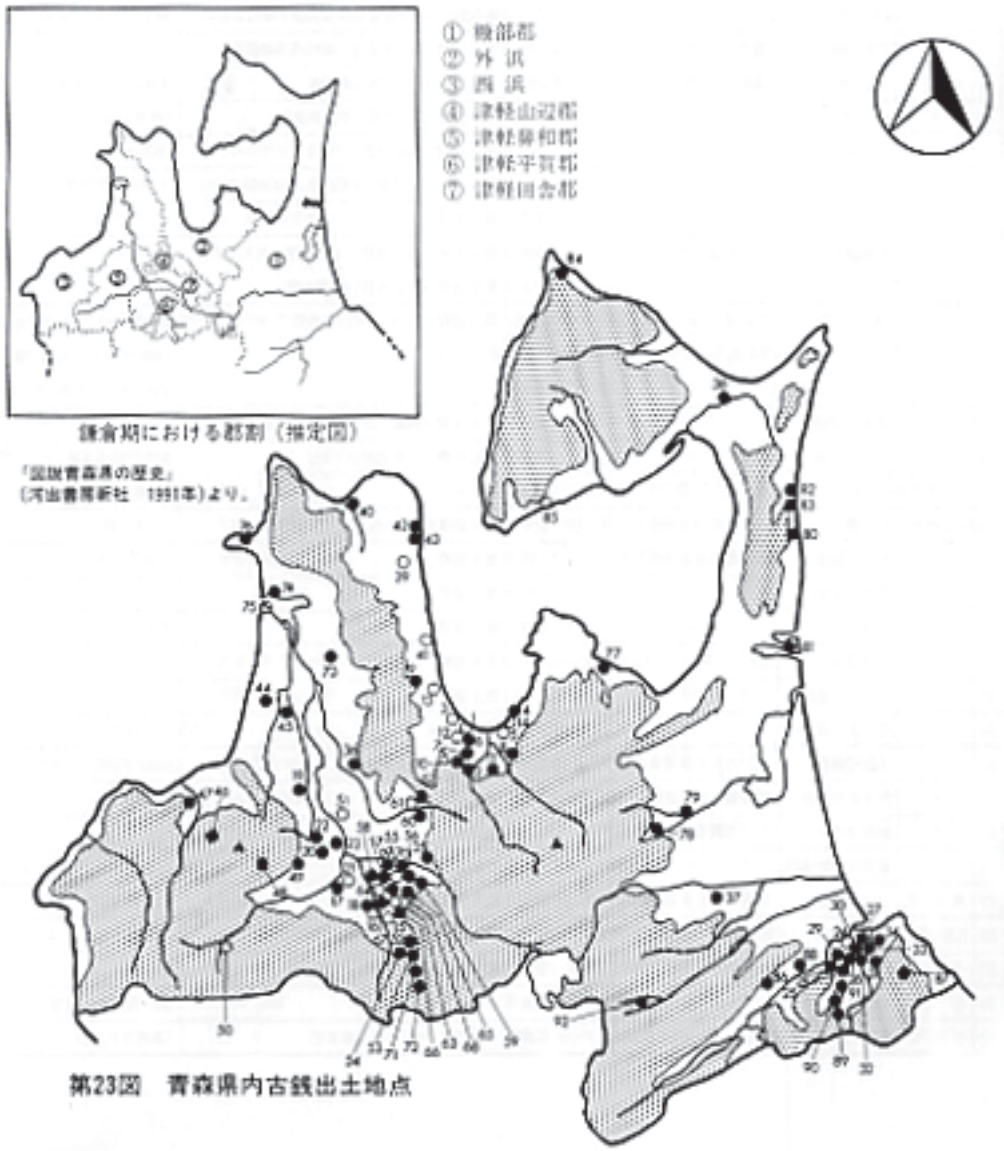


Fig 16 原別古銭 (4)

第Ⅳ章　青森県内の古銭

第１節　県内出土古銭の概要

青森県における備蓄銭の研究は、成田末五郎氏らの業績により、古くから行われてきている。昭和13年に成田氏は『青森県郷土誌料集』に「津軽地方発掘古銭の研究」を発表し、27箇所の出土例を紹介している。その後、昭和30年代を中心とした時期には、弘前市・南津軽郡を中心とした内陸部と日本海・陸奥湾の海岸線沿いに多数の出土例が報告されている。しかし、近年は古銭に関する報告が減少しているのが現状である。そこで、資料提起という意味で、今回の４箇所にわたる出土古銭の報告を機に、県内の古銭出土状況をまとめてみることにした。



第23図　青森県内古銭出土地点

第11表　古銭出土記載文献一覧

番号	市町村名	遺　跡　名	報告書刊行委員会・著者名	報告書刊行年度	出　土　古　銭　名	備　　考
1	青森市	（千刈地区）	成田　末五郎	S13	開元通賓他614枚　第12表参照	木製容器の中より出土『青森県郷土誌料集』2
2	〃	（高用地区）	青森市教育委員会	S32	開元通賓2・紹聖元賓1・洪武通賛1・永樂通賛1	人骨と共伴『青森市の歴史』
3	〃	（油川地区）	〃	S33	開元通賓他958枚　第12表参照	『日本考古学辞典』
4	〃	大浦遺跡		S47	元祐通賓	
5	〃	（原別地区）	小笠原　二郎・葛西　励	S47・H3	五銖他4592杖　第12表参照	『原別小笠原家に関する一考察』
6	〃	近野遺跡	青森県教育委員会	S49	寛永通賓1	溝状遺構より出土
7	〃	細越遺跡	〃	S54	熈寧元賓1・洪武通賓1	
8	〃	蛍沢遺跡	青森市教育委員会	〃	寛永通賓1	
9	〃	尻八館遺跡	青森県立郷土館	S56	和同開珎他193枚　第12表参照	土壙より99枚一括出土
10	〃	朝日山道跡	青森県教育委員会	S59	治平元賓1・寛永通賓1・不明1	住居跡より1枚出土
11	〃	構内城跡	青森市教育委員会	S62	至道元賓1・元豊通賓1・不明9	
12	〃	（新城地区）	〃	H3	開元通賓他8，160枚　第12表参照	曲げ物より出土
13	〃	（奥内地区）	〃	〃	和同開珎・神功開賓他10，432枚　第12表参照	甕より出土
14	〃	（野内地区）	葛西　励	〃	開元通賓・軋封泉賓他3，000～5，000枚	
15	弘前市	（乳井地区）	成田　末五郎	S33	五銖他5，464校　第12表参照	木箱より比土『東奥文化』11
16	〃	（石川地区）	〃	S36	開元通賓他1，752枚　第12表参照	『陸奥史談』31
17	〃	弘前城跡	弘前市教育委員会	S52～57	元祐通賓1・寛永通賓4・不明1	
18	〃	堀越城跡	〃	S53	元祐通賓2・洪武通賓1・永樂通賓1・寛永通賓5・不明3	人骨と一部共伴
19	〃	小友遺跡	〃	S55	寛永通賓2	
20	〃	独狐遺跡	青森県教育委員会	S61	開元通賓1・祥符通賓1・太平通賓1・至和元賓1 元豊通賓2・政和通賓1・淳熈元賓1	
21	〃	境関館遺跡	〃	S62	開元通賓他683枚　第12表参照	竪穴遺構28・土壙26・井戸跡376（363杖一括出土）・かまど遺構9溝跡3・柱穴37・堀跡40枚出土
22	〃	茶毘館遺跡	〃	S63	治平元賓1・熈寧元賓2・不明1	溝状遺構より1枚出土
23	〃	中崎館遺跡	〃	H1	景祐元賓1・元豊通賓2・不明2	柱穴より2・住居跡より1・井戸跡より1枚出土
24	八戸市	根城跡	八戸市教育委員会	S55～H2	開元通賓他3，027枚　第12表参照	
25	〃	鴨平（1）遺跡	青森県教育委員会	S58	寛永通賓2	
26	〃	長者森遺跡	〃	〃	寛泳通賓2	
27	〃	鶉窪遺跡	〃	S59	寛永適賓7	
28	〃	韮窪遺跡	〃	〃	寛永通賓5・不明1	
29	〃	白山平（2）遺跡	〃	〃	寛永通賓7	
30	〃	牛ヶ沢（3）遺跡	〃	〃	寛永通賓5	
31	〃	赤御堂遺跡	八戸市教育委員会	S63	至道元賓1・洪武通賓1・寛永通賓22・鉄銭2	墓場より22枚出土
32	〃	弥次郎窪遺跡	青森県教育委員会	H1	寛永通賓3	
33	〃	田面木遺跡	八戸市教育委員会	H2	寛永通賓1	
34	〃	新井田古館遺跡	〃	〃	皇宋通賓1	
35	黒石市	一ノ渡遺跡	青森県教育委員会	S59	寛永通賓10	
36	五所川原市	観音林遺跡	五所川原市教育委員会	H1	寛永通賓11	
37	十和田市	切田前谷地遺跡	十和田市教育委員会	S59	熈寧元賓1・宣徳通賓1・不明1	
38	むつ市	最花南遺跡	むつ市教育委員会	S58	不明1	溝状遺構より出土
39	蟹田町	（南沢地区）	成田　末五郎	S38	半両他2，188枚　第12表参照	『東奥文化』24

番号	市町村名	遺　跡　名	報告書刊行委員会・著者名	報告書刊行年度	出　土　古　銭　名	備　考
40	今別町	山崎遺跡	青森県教育委員会	S57	寛永通賓2	
41	蓬田村	蓬田大館遺跡	櫻井清彦・菊地徹夫	S62	開元通賓他800枚	曲げ物より出土
42	平館村	今津遺跡	青森県教育委員会	S61	寛永通賓1	
43	〃	間沢遺跡	〃	S61	寛永通賓3	
44	木造町	亀ヶ岡遺跡	〃	S49	寛永通賓2	
45	〃	石神神社遺跡	〃	S51	寛永通資1・不明1	
46	鰺ヶ沢町	大野平過跡	岩木山刊行会	S43	開元通賓他290枚　第12表参照	マウンドより出土『岩木山』
47	〃	種里城跡	鰺ヶ沢町教育委員会	H1	不明7	
48	岩木町	岩木山神社元宮址	岩木山刊行会	S43	寛永通賓1	『岩木山』
49	〃	荒神山遺跡	岩木町教育委員会	S56	開元通寶1・太平通賓2・淳化元寶・咸平元寶1・天聖元賓1・景祐元寶2・皇宋元寶6・治平元賓1・熙寧元賓1・元豊通寶5・元祐通賓2・聖宋元賓3・政和通賓2・洪武通賓2・永樂通賓9	マウンドより出土
50	西目屋村	（砂子瀬地区）	成田　末五郎	S13	開元通賓他1，027枚　第12表参照	茶釜の蓋と共伴『青森県郷土誌料集』2
51	藤崎町	（岡本地区）	八幡　一郎	S43	開元通賓他4，421枚　第12表参照	甕より出土『新版　考古学講座』1
52	大鰐町	砂沢平遺跡	青森県教育委員会	S55	嘉祐通賓1・元豊通賓1・寛永通賓5・不明1	住居跡より1枚出土
53	〃	唐牛城跡	大鰐町教育委員会	S61	開元通賓2・景徳元賓1・祥符元賓1・天聖元賓2・皇宋通寶1・熙寧元賓1・元豊通賓1・紹聖元寶1・大觀通賓2・慶元通賓1・洪武通賓2・永樂通賓1・不明9	住居跡より16・柱穴より1枚出土
54	〃	鶴ヶ鼻遺跡	青森県教育委員会	H1	寛永通賓7	
55	尾上町	（猿賀地区）	八木沢誠次・工藤　正	S36	和同開珎他10，507枚　第12表参照	『猿賀出土古銭について』
1	〃	高木遺跡	尾上町教育委員会	S56	寛永通賓4	
57	〃	五輪野遺跡	〃	S58	寛永通賓1	
58	〃	八幡崎遺跡（1）	〃	S63	寛永通賓2	
59	〃	李平下安原遺跡	青森県教育委員会	S63	開元通寶2・天聖元賓1・熙寧元寶1・元祐通寶1・寛永通賓3	
68	浪岡町	杉の沢遺跡	〃	S54	景徳元賓1・熙寧元賓1・皇宋通寶1・洪武通寶1・永樂通賓2・寛永通賓8・無文1・不明3	柱穴より出土
61	〃	浪岡城跡	浪岡町教育委員会	S55～H1	開元通賓他10，252枚　第12表参照	昭和59年に5，971枚の一括出土
62	〃	羽黒平遺跡	〃	S55	寛永通賓1	
63	平賀町	（柏木地区）	成田　末五郎	S13	開元通賓他799枚　第12表参照	『青森県郷土誌料集』2
64	〃	（館山地区）	工藤　正	S43	五銖他5，612枚　第12表参照	曲げ物より出土『平賀町館山出土古銭』
65	〃	富山遺跡	青森県教育委員会	S49	天禧通賓・元豊通賓・大觀通賓・洪武通寶・永樂通賓・宣徳通賓等13	
66	〃	鳥海山遺跡	〃	S52	嘉祐通賓1・治平元賓1・寛永通賓1	
67	〃	五輪堂遺跡	青森県教育委員会 平賀町教育委員会	S55S58	天聖元賓4・嘉祐通賓4・至道元賓1・熙寧元賓2・元祐通賓4・聖宋元賓・皇宋通賓2・洪武通賓3・永樂通賓4・不明7	
68	〃	大光寺新城跡遺跡	〃	H1・2	開元通賓他219杖　第12表参照	
69	田舎館村	（八反田地区）	工藤　正	S36	開元通賓他110枚　第12表参照	『館城文化』3
70		垂柳遺跡	青森県教育委員会	S60	開元通賓2・熙寧元賓1・元祐通賓1・永樂通晋1・寛永通賓19・文久通賓1・鉄銭1・不明1	
71	碇ヶ関村	古館遺跡	〃	S55	元豊通賓1・寛永通賓2・不明1	
72	〃	永野遺跡	〃	〃	洪武通賓1・寛永通賓5	
73	中里町	中里城跡	中里町教育委員会	H1・2	開元通賓2・景祐元賓1・嘉祐通賓1・元豊通賓1・洪武通賓1・寛永通賓3・不明2	
74	市浦村	二ツ沼遺跡	桜井清彦	S28・29	天聖元晋・永樂通賓	
75	〃	（十三地区）	裕　光	S37	五銖他23，442枚　第12表参照	木箱より出土『東奥文化』21

番号	市町村名	遺　跡　名	報告書刊行委員会・著者名	報告書刊行年度	出　土　古　銭　名	備　　考
76	小泊村	弁天島遺跡	小泊村教育委員会	S60	祥符元寶1・治平元寶1	
77	野辺地町	槻ノ木遺跡	青森県教育委員会	S58	寛永通寶4	
78	七戸町	山館遺跡（経塚）	七戸町教育委員会	S53	寛永通寶1	
79	〃	矢館跡	〃	H1	皇宋通寶1・洪武通寶2・寛永通寶1・無文2・不明18	土壙より20枚出土
80	六ヶ所村	大穴洞窟	青森県教育委員会	S48	永樂通寶・寛永通寶	
81	〃	発茶沢遺跡	〃	S57・61	寛永通寶28・不明1	
82	東通村	浜通遺跡	〃	S57・59	淳化元寶3・祥符通寶2・祥符元寶1・天禧通寶2 熈寧元寶1・元豊通寶4・政和通寶3・洪武通寶1 永樂通寶59・無文11・不明60	墓壙より98・柱穴より15枚出土
83	〃	前坂下（13）遺跡	〃	S58	寛永通寶1・不明2	
84	風間浦村	（折戸坂地区）	堺　正義・奈良　仁 熊谷正之・橘　善光	S53	開元通寶4・太平通寶2・淳化元寶1・至道元寶1 景徳元寶1・祥符元寶1・天禧通寶1・天聖元寶1 景祐元寶1・皇宋通寶5・至和元寶1・治平元寶1 熈寧元寶3・元豊通寶8・元祐通寶3・紹聖元寶1 大觀通寶1・政和通寶4・嘉定通寶1・景定通寶1	
85	脇野沢村	（小沢地区）	奈良　仁	S51	開元通寶他5，205枚　第12表参照	『うそり　9』
86	名川町	剣吉荒町遺跡	青森県立郷土館	S63	永樂通寶1・不明1	
87	階上町	志民（2）遺跡	青森県教育委員会	S56	寛永通寶16・不明2	墓壙より3枚出土
88	福地村	雷遺跡	〃	H2	寛永通寶2・不明1	
89	南郷村	石ノ窪遺跡	〃	S57	寛永通寶1	
90	〃	馬場瀬（1）遺跡	〃	S57	寛永通寶1	
91	〃	馬場瀬（2）遺跡	〃	S57	政和通寶1・寛永通寶6・鉄銭13	
92	新郷村	（戸来地区）	鈴木　克彦	S59	開元通寶他396枚　第12表参照	

第 12 表　県内出土古銭一覧表（1）

	鋳造国	初鋳年	千　刈	油　川	原　別	尻八館	新　城	奥　内	乳　井	石　川	大野平	境関館	根城跡	南　沢	砂子瀬	岡　本	猿　賀	浪岡城跡	柏　木	館山	大光寺	八反田	十　三	小　沢	戸　来
中　国																									
半　両	秦	B. C. 175												1			1								
五　銖	漢	B. C. 118			3			2	4								7			2			3		
貨　泉	新	A. D. 14							3								1								
開元通寶	唐	621	52	84	398	6	235	939	466	75	16	49	48	143	38	227	922	41 (367)	86	96	8	6	1, 599	315	20
軋元重寶	〃	760	2	2	18	1	8	54	21	3	1		2	8	1	10	41	29 (23)	3	20	1		70	11	
天漢元寶	前蜀	917			1																				
光天元寶	〃	918			1		1	1				1					1	1 (1)							
軋德元寶	〃	919	2		1				1					1				1　1		2			9		
咸康元寶	〃	925															1			1					
漢元通寶	後漢	948																2					1		
周通元寶	後周	955		1	1		1	5	5							3	4			5			4		
唐國通寶	南唐	959		2	2	1		5	8					5	1	4	11	9 (6)	2	7			16	2	
大唐通寶	〃	960															1								
宋通元寶	宋	960	3	3	20		1	38	12	6	1	4	3	11		12	30	16 (15)	1	28	2		51	11	
太平通寶	〃	976	6	12	36		15	117	58	5	1	2	5	13	2	24	90	56 (39)	3	50	3		178	28	1
淳化元寶	〃	990	4	6	31	2	5	88	50	11	1	2	4	19	4	20	72	43 (33)	4	70	1	1	147	33	3
至道元寶	〃	995	12	16	74	2	37	210	102	16	7	10	21	35	4	34	170	95 (67)	15	81		2	252	76	2
咸平元寶	〃	998	6	9	59	6	29	177	99	18	3	3	10	27	15	43	194	97 (71)	4	83	2	4	196	58	3
景德元寶	〃	1, 004	13	19	94	2	21	147	143	33	4	7	13	36	24	73	203	125 (93)	30	130	2	4	376	88	2
景德通寶	〃	〃																1							
祥符元寶	〃	1, 008	20	24	117	1	172	291	141	26	6	17	17	44	19	72	289	99 (107)	32	135	3	8	403	126	6
祥符通寶	〃	〃	13	17	73	3	158	118	66	11	4	5	17	20	12	34	152	126 (52)		66	2		261	62	4
天禧通寶	〃	1, 017	13	20	95		108	237	117	32	2	19	11	51	13	61	237	159 (91)	11	112	2		333	86	8
天聖元寶	〃	1, 023	38	31	208	5	92	558	279	51	17	20	23	61	33	114	516	79 (225)	47	254	2	6	802	214	5
天聖通寶	〃	〃																14							
明道元寶	〃	1, 032	1	5	21	1	2	44	12	7	1		2	8	3	6	46	32 (28)		29	1		117	65	1
景祐元寶	〃	1, 034	12	11	67		23	191	86	9	4	10	6	26	15	33	158	84 (71)	12	104		2	218	50	4
皇宋通寶	〃	1, 037	69	95	650	11	90	1, 369	644	126	35	48	56	218	62	354	1, 440	03 (546)	110	724	9	4	2, 302	490	17
至和元寶	〃	1, 054	8	9	39		11	114	59	1	2	5	7	17	5	29	104	58 (45)	6	65		4	202	38	5
至和通寶	〃	〃	1	2	12		1	12	15	6	2			7	2	13	37	12 (11)		22			90	18	
嘉祐元寶	〃	1, 056	13	13	58	1	23	143	59	11	6	6		28	2	36	133	65 (51)	4	70	1	2	230	63	4
嘉祐通寶	〃	〃	14	20	108	3	28	188	136	23	4	16	6	43	11	62	247	31 (107)	17	138	2	2	382	72	2
治平元寶	〃	1, 064	12		88	2	19	180	113	28	4	10	7	23	9	66	175	109 (79)	3	111	1	2	397	84	5
治平通寶	〃	〃	2	20	10		8	44	21	5	4	3	2	19	1	9	28	22 (18)	7	21			38	4	
咸雍通寶	遼	1, 065		90												1									
熙寧元寶	宋	1, 068	53		471	9	73	1, 034	449	122	15	76	40	156	69	268	1, 031	25 (407)	74	559	5	5	1, 805	341	12
熙寧通寶	〃	〃																1							
元豐通寶	〃	1, 078	84	117	544	11	146	1, 274	625	117	36	76	69	201	85	376	1, 276	27 (500)	119	623	12	4	1, 919	494	16
大安通寶	遼	1, 085																					1		
元祐通寶	宋	1, 086	45	86	398	6	106	941	481	96	36	61	36	146	72	292	1, 005	29 (401)	53	536	9	13	1, 465	384	12
紹聖元寶	〃	1, 094	23	45	211	3	46	376	240	51	19	24	15	64	33	130	437	58 (194)	35	238	2		796	153	5
紹聖通寶	〃	〃						1	1									3 (1)		1					
元符通寶	〃	1, 098	15	13	52		38	134	71	19	4	8	6	31	10	49	197	99 (73)	16	89	2	3	249	57	
聖宋元寶	〃	1, 101	23	34	186	7	43	425	202	38	11	20	6	70	27	95	362	53 (200)	22	206	3	3	708	187	7
崇寧重寶	〃	1, 104															1								
大觀通寶	〃	1, 107	6	7	42	3	12	128	51	10	1	5	10	24	12	21	127	67 (50)	8	73	2	2	216	42	3
政和通寶	〃	1, 111	21	33	188	3	49	415	201	34	7	20	21	61	23	111	425	36 (179)	31	214	4	3	711	113	4
宣和通寶	〃	1, 119	1	2	12		6	43	14	1	1	1	7	7	3	10	26	28 (22)	4	14			81	13	
建炎通寶	南宋	1, 127	1	1	1			2	2							1	3	1 (1)		2			6	1	
紹興元寶	〃	1, 131			1			3	1	1							3	2 (1)		5		1	16		
紹興通寶	〃	〃	1				1																1		
正隆元寶	金	1, 158	2	1	6		5	16	10	1			2	6	2	2	8	12 (7)		4	1		35	4	1
天盛元寶	西夏	〃								1															

県内出土古銭一覧表（(2)

	鋳造国	初鋳年	千　刈	油　川	原　別	尻八館	新　城	奥　内	乳　井	石　川	大野平	境関館	根城跡	南　沢	砂子瀬	岡本	猿賀	浪岡城跡	柏木	館山	大光寺	八反田	十三	小　沢	戸　来
淳熙元寳	南宋	1174	5	3	26	1	1	56	41	2	3	1		7	7	14	62	29（21）	3	32			101	23	3
大定通寳	金	1178						2	1	1			3	1	2	3	1	□ 6（□ 4）					27	1	
紹熙元寳	南宋	1190		7	7	1	4	14	14				1	1	2		17	11（□ 7）		12			29	6	
慶元通寳	〃	1195	4		15			14	13	1			1		1	4	27	13（□ 9）	2	15		1	29	7	
嘉泰通寳	〃	1201	2	5	7			15	10					1	1	4	8	10（□ 8）		12			21	2	
泰和通寳	金	1204													1										
開禧通寳	南宋	1205	1	2	6			10	6					1		1	7	□ 4（□ 4）		5	1		10		
嘉定通寳	〃	1208	2	8	20		2	58	27	2	1	2	2	3	1	10	55	12（11）	1	29	1		66	12	1
大宋元寳	〃	1225						1	1			1		1			1	□ 3（□ 2）		2			2	1	
紹定通寳	〃	1228	2	1	12			16	11	2				2	1	3	16	□ 8（□ 7）		12			33		5
端平元寳	〃	1234			1			1	1			1											1	2	
嘉熙通寳	〃	1237			1		2	5	2					1			2	□ 6（□ 6）		1		1	5	4	
淳祐元寳	〃	1241	1	3	6			9	11	1			5	8	1	5	17	18（□ 9）	2	8			29	8	
皇宋元寳	〃	1253	1		3			4	3			4				1	5	□ 9（□ 4）		10			21	4	1
開慶通寳	〃	1259			1			9						1			1			1					
景定元寳	〃	1260		3	1	1	1	15	8			1	1	2	4	4	17	12（□ 9）	2	15			24	4	1
咸淳元寳	〃	1265	1	3	7	1	1	17	7			2		2	2	1	21	□ 7（□ 5）		3	14			36	5
大元通寳	元	1309								1															
至大通寳	〃	1310		1	1		1	2	1				2	1			3	19（□ 8）			1		29	3	
至正通寳	〃	1351																					1		
天定通寳	〃	1360																					1		
大中通寳	明	1361								1		1		3	1			□ 7（□ 4）						21	
洪武通寳	〃	1368	4			13	1，330			114		34	275	203	127	298		1，193（533）			16	10	2，831	302	70
永樂通寳	〃	1408		1		12	64			134		42	458	183	189	240		606（483）			14	9	1，805	498	1
宣德通寳	〃	1433											5		7			3			1				
朝　鮮																									
海東通寳	高麗	1，097			1												1			1			1		
海東重寳	〃	〃							1											1					
東國通寳	〃	〃																							
東國重寳	〃	〃																							
朝鮮通寳	李	1，423					6						2		27			22							1
琉　球																									
大世通寳	琉球	1，454					1																		
世高通寳	〃	1，461											1		1										
安　南																									
天福鎮寳	安南	984							1								1			1					
紹豊通寳	〃	1，341																					1		
紹平通寳	〃	1，434																1							
大和通寳	〃	1，443																							1
光順通寳	〃	1，460					2																		
洪德通寳	〃	1，470					2											3							
日　本																									
和同開珎	飛鳥	708				1		1									1								
神功開寳	奈良	765						1																	
寛永通寳	江戸	1，636										1	235					32							
仙台通寳	〃	1，784											2												
文久通寳	〃	1，863											1												
無文銭				71	80	74	1，851	1		150				77				1，279（378）		3	22		742		85
判読不能							3，301	117	236	350	31	65	1，561	60	38	1，138	29	1，110（276）	27	48	80	7	889	540	78
そ□ の□ 他									1						2		3	341			1		1		
合　計			614	958	4，592	193	8，182	10，432	5，464	1，753	290	683	3，027	2，188	1，027	4，421	10，507	10，414（5，971）	799	5，612	219	109	23，442	5，205	396

第2節　小　　結

古銭の出土地分布状況を見ると、岩木川・馬淵川といった河川流域と海岸線沿いの大きく二通りに分けられる。しかし、馬淵川流域からの出土古銭の大半は寛永通寶であり、渡来銭の出土例は少ない。さらに、500枚以上の一括出土例は報告されていない。このことは、当時の津軽と南部の貨幣流通及び貨幣に対する意識の違い、また、備蓄という行為に地域差があることを推察することができる。　何をもって備蓄銭とするかは、定義づけがなされていない。単純に多量の一括出土を備蓄銭とするのであれば、備蓄銭の多くは、緡の状態で直接土中に、または容器に封入し埋納されるのが通例である。容器としては、甕・曲げ物・木箱等が実例として知られている。

便宜上、500枚以上の一括出土例を挙げると、青森市千刈・同市油川・同市原別・同市新城・同市奥内・弘前市乳井・同市石川・蟹田町南沢・西目屋村砂子瀬・藤崎町岡本・尾上町猿賀・浪岡町浪岡城跡・平賀町柏木・同町館山・市浦村十三・脇野沢小沢の16箇所が知られている。これら16箇所について、第13表を用いて概観していきたい。

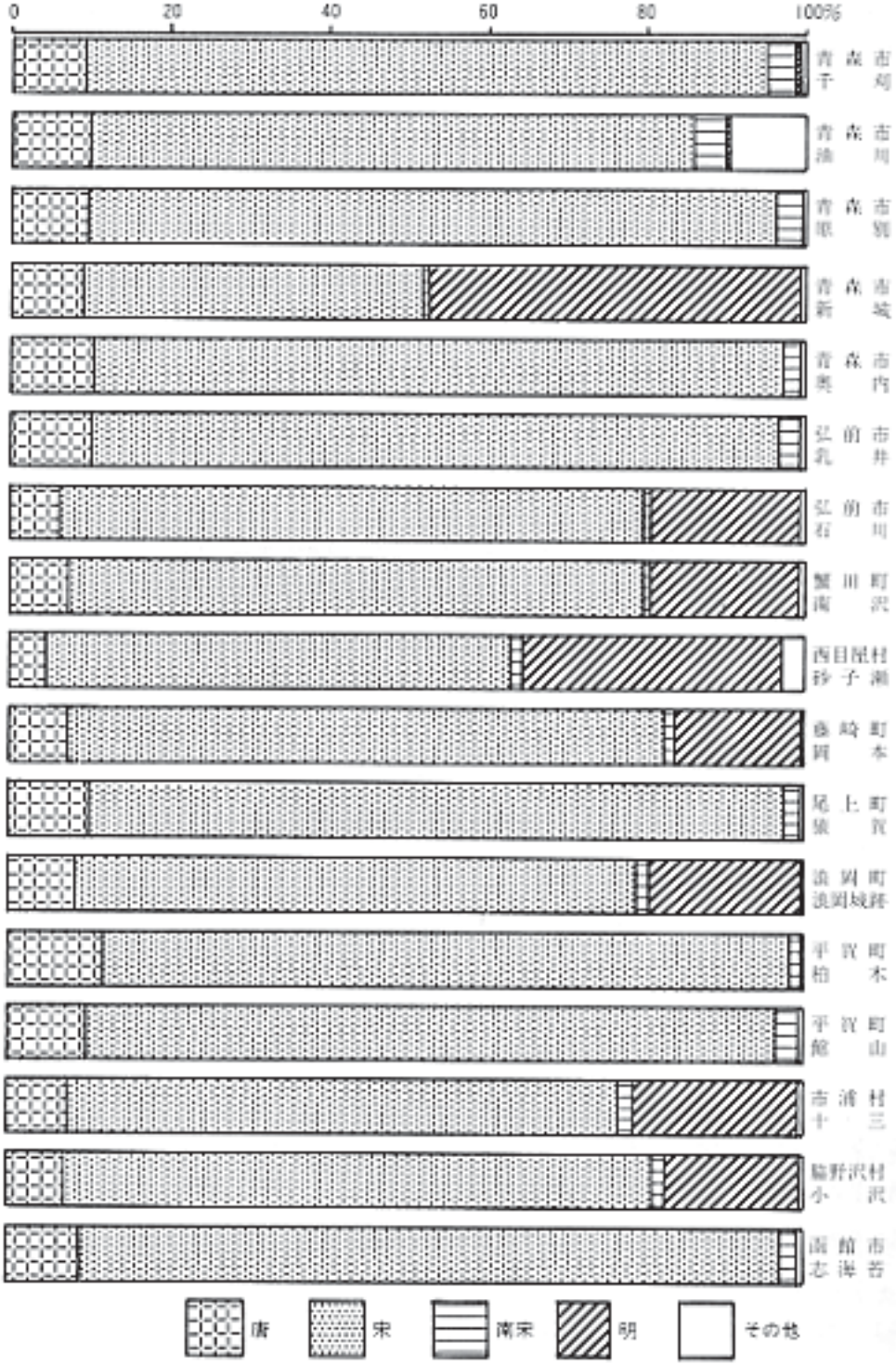
16箇所の下限銭貨を見ると、1．咸淳元寶（初鋳1265年）、2．至大通寶（初鋳1310年）、3．洪武通寶（初鋳1368年）、4．永樂通寶（初鋳1408年）、5．世高通寶（初鋳1461年）、6．洪徳通寶（初鋳1470年）の6種認められる。しかし、至大銭は輸入量は少量であると思われ、咸淳銭で終るものでも偶然含まれなかったものもあると考えられるので、本稿では一つにまとめ1期とし、永樂銭までを2期、それ以後を3期と分類した。ただし、鋳造国別比率に関しては、無文銭・不明銭を外した比率である。

1期には、青森市原別・同市奥内・弘前市乳井・尾上町猿賀・平賀町柏木・同町館山の6箇所が該当する。埋納時期は13世紀末から14世紀後半までの時期と考えられる。この時期は、かなりの数の荘園が現物年貢から代銭納化する時期である。鋳造国別比率を見ると、唐9～11%、宋87%前後、南宋2～3%にすべて収まる。比率から宋銭が貨幣流通の主体であったことがわかる。館山に関しては、143貫余りの代銭納の記録が残されており、津軽でも盛んな貨幣流通が行われていたことを示している。埋納容器は、奥内が信楽と思われる甕、乳井が木箱、館山が曲げ物である。原別は板片が残っていたそうであるが、猿賀・柏木と共に詳細は不明である。

2期には、青森市千刈・同市油川・弘前市石川・蟹田町南沢・藤崎町岡本・浪岡町浪岡城跡・市浦村十三・脇野沢小沢の8箇所が該当する。埋納時期は14世紀末から15世紀中頃までの時期と考えられる。この時期は、日明貿易により洪武銭・永樂銭が流通し始め、商業活動が盛んになった時期である。鋳造国別比率を見ると、千刈・油川を除き、唐6～8%、宋68～75%、南宋1～2%、明16～21%である。比率から貨幣流通の主体が、宋銭から明銭へ移り始めたと思

第 13 表　鋳造国別比率

	泰	漢	新	唐	前蜀	後漢	後周	南唐	宋	遼	南宋	西夏	金	元	明	高麗	李	安南	琉球	飛鳥	奈良	平安	下限銭貨（初鋳年）
青森市　千　刈				8．79 (54)	0．33 (2)				86．48 (531)		3．42 (21)		0．33 (2)		0．65 (4)								洪武通寶 (1368年)
〃　油　川				9．70 (86)			0．11 (1)	0．23 (2)	75．42 (669)	10．15 (90)	4．06 (36)		0．11 (1)	0．11 (1)	0．11 (1)								永樂通寶 (1408年)
〃　原　別		0．07 (3)		9．20 (415)	0．07 (3)		0．02 (1)		87．85 (3964)		2．55 (115)		0．13 (6)	0．02 (1)		0．02 (1)							至大通寶 (1310年)
〃　新　城				8．02 (243)	0．03 (1)		0．03 (1)		44．95 (1362)		0．40 (12)		0．17 (5)	0．03 (1)	46．01 (1394)		0．20 (6)	0．13 (4)	0．03 (1)				洪徳通寶 (1470年)
〃　奥　内		0．02 (2)		9．63 (993)	0．01 (1)		0．05 (5)	0．05 (5)	87．62 (9037)		2．41 (249)		0．17 (18)	0．02 (2)						0．01 (1)	0．01 (1)		至大通寶 (1310年)
弘前市　乳　井		0．08 (4)	0．06 (3)	9．32 (487)	0．02 (1)		0．10 (5)	0．15 (8)	86．99 (4547)		3．02 (158)		0．21 (11)	0．02 (1)		0．02 (1)		0．02 (1)					至大通寶 (1310年)
〃　石　川				6．23 (78)					72．87 (913)		0．72 (9)	0．08 (1)	0．16 (2)	0．08 (1)	19．87 (249)								永樂通寶 (1408年)
蟹田町　南　沢	0．05 (1)			7．36 (151)	0．05 (1)			0．24 (5)	71．48 (1466)		1．46 (30)		0．34 (7)	0．05 (1)	18．97 (389)								永樂通寶 (1408年)
西目屋村　砂子瀬				3．95 (39)				0．10 (1)	57．75 (570)		2．03 (20)		0．51 (5)		32．84 (324)		2．74 (27)		0．10 (1)				世高通寶 (1461年)
藤崎町　岡　本				7．22 (237)			0．09 (3)	0．12 (4)	74．54 (2447)	0．03 (1)	1．46 (48)		0．15 (5)		16．39 (538)								永樂通寶 (1408年)
尾上町　猿　賀	0．01 (1)	0．07 (7)	0．01 (1)	9．19 (963)	0．02 (2)		0．04 (4)	0．11 (12)	87．90 (9208)		2．50 (262)		0．09 (9)	0．03 (3)		0．01 (1)		0．01 (1)		0．01 (1)			至大通寶 (1310年)
浪岡町　浜岡城跡				7．33 (390)	0．04 (2)			0．11 (6)	71．02 (3776)		1．96 (104)		0．21 (11)	0．15 (8)	19．18 (1020)								永樂通寶 (1408年)
平賀町　柏　木				11．53 (89)				0．26 (2)	86．53 (668)		1．68 (13)												咸淳元寶 (1265年)
〃　館　山		0．04 (2)		9．28 (516)	0．05 (3)		0．09 (5)	0．13 (7)	87．14 (4846)		3．15 (175)		0．07 (4)			0．04 (2)		0．02 (1)					咸淳元寶 (1265年)
市浦村　十　三		0．01 (3)		7．65 (1669)	0．04 (9)	0．005 (1)	0．02 (4)	0．07 (16)	68．43 (14925)	0．005 (1)	1．97 (430)		0．28 (62)	0．14 (31)	21．35 (4657)	0．005 (1)		0．005 (1)					永樂通寶 (1408年)
脇野沢村　小　沢				6．99 (326)	0．04 (2)				73．97 (450)		1．69 (79)		0．11 (5)	0．06 (3)	17．15 (800)								永樂通寶 (1408年)
函館市　志海苔	0．002 (7)	0．01 (39)	0．002 (6)	8．46 (30596)	0．04 (140)	0．004 (15)	0．02 (87)	0．56 (2037)	87．99 (318130)	0．001 (5)	2．70 (9775)	0．001 (3)	0．14 (501)	0．03 (113)	0．004 (13)	0．008 (31)				0．0003 (1)	0．001 (5)	0．002 (9)	洪武通寶 (1368年)



第24図　主要鋳造国別比率

われる。ただし、千刈は洪武銭が4枚と、洪武銭が流通し始めた頃の埋納と考えられ、埋納時期は他よりも大分早いと推測される。そのため、比率は1期に類似した比率である。また、37万枚以上出土した函館市志海苔も同じ状態であり、比率も類似している。油川に関しては、永樂銭が1枚の出土であり、洪武銭がないことは、前後関係から考えると疑問が残り、遼銭である咸雍通寶の90枚の出土は、全国的にも例がない。このことから、油川に関しては不確実要素が強いとして考察から除いた。埋納容器は、千刈が木製の樽、岡本が甕、十三と脇野沢が木箱であり、石川・南沢・浪岡城跡が直接土中に埋納されたと思われる。油川は不明である。また、備蓄銭は緡の状態で埋納されることは前述したが、浪岡城跡では完全な緡の状態で出土している。(註1) そのときの一緡の枚数は、100枚のものが最も多く、次いで99枚、101枚の順であった。一緡の枚数は、各時代異なっており、枚数を把握することで、ある程度の時代決定ができるものと思われる。

3期には、青森市新城・西目屋村砂子瀬が該当する。埋納時期は、15世紀末から16世紀中頃と思われる。この時期は明銭の多量輸入に伴い、私鋳銭の増大、撰銭の激増、関東を中心、とした永樂銭のみの使用が行われた時期である。鋳造国別比率を見ると、新城は宋44.9%、明46.0%であり、砂子瀬は宋57.7%、明32.8%である。宋銭の比率が落ち、明銭の比率が高くなる。新城に至っては、明銭が宋銭を上回っている。このことは、明銭が貨幣流通の主体になったことを物語っている。また、中国銭以外の李・琉球・安南銭の含有率が高くなる。室町幕府が明との貿易にとどまらず、隣接国との外交を始めたのが推察される。埋納容器は、新城が曲げ物、砂子瀬は不明である。

貨幣を備蓄するという行為は、ある特定の時期に限られて行われており、各時代ごとの備蓄銭の性格は、時代背景等により異なっているものと思われる。多量の一括出土例は、土木工事等による偶然の発見が大半であり、周辺の遺構確認、伴出遺物等の調査には及んでいない。

備蓄銭の性格及び埋納時期を把握するためには、銭種・枚数の分類だけにとどまらず、精銭・悪銭・私鋳銭の分類、一緡の枚数及び重量の調査、出土状況と周辺遺構の確認、城館・神社仏閣・集落・陸路・水路との相関関係、貨幣流通経路把握のための陶磁器類の分類、荘園の代銭納化等の年代背景把握のための文献等の調査などの幾つかの問題点を照合する必要があり、そこから何らかの備蓄銭のかたちが見えてくるものと思われる。 (上野隆博)

註1『浪岡城跡Ⅷ』(浪岡町教育委員会 1986)

ま　と　め

本書は、青森市内出土遺物調査報告書として、青森市新城・奥内・原別・野内各地区出土の古銭についてまとめたものである。ここで、各章ごとに記述してきた内容を要約すると以下のとおりである。

新城地区出土古銭は、青森市西部を流れる沖館川と新城川に挟まれた河岸段丘上、標高約20mの地点より曲げ物に入って出土した。出土枚数は8,182枚、銭種数は47種である。上限銭貨は開元通寶、下限銭貨は洪徳通寶である。明銭の比率が宋銭を上回っており、県内では、まれな例である。また、李・琉球・安南銭が含まれており、日明貿易とともに、隣接国との外交が行われていたことを推察できる。埋納時期は、15世紀末から16世紀前半と考えられる。この時期は、明銭の大量輸入とともに、粗悪な私鋳銭が多量に作られ、撰銭が盛んに行われた時期である。本古銭における永樂通寶の比率の低さは、撰銭によるものと考えることができる。

奥内地区出土古銭は、青森市北西部水田地帯に所在する神社付近より甕に入って出土したとのことである。出土枚数は10,432枚、銭種数は57種である。上限銭貨は五銖（後漢と隋と思われる）、下限銭貨は至大通寶である。皇朝十二銭である和同開珎・神功開寶が含まれており、和同銭は県内3例目、神功銭は県内初例と思われる。埋納時期は、14世紀中頃から15世紀にかけてと思われる。この時期は「津軽の大乱」と呼ばれる時期であり、本古銭との何らかの関係を推察できる。

原別地区出土古銭は、青森市東部を流れる原別川河口付近から出土した。出土枚数は、若干の散逸があるが、現存4,592枚であり、銭種数は55種である。上限貨銭は五銖（後漢と思われる）、下限銭貨は至大通寶である。古銭とともに、板切れが残っていたが詳細は不明である。埋納時期は、14世期後半と思われる。

野内出土古銭は、原別川東方を流れる貴船川河口付近から出土した。正確な枚数は不明であるが、およそ3000から5000枚とのことであり、銭種数は46種である。上限銭貨は開元通寶、下限銭貨は宣徳通寶（明）である。埋納時期は、15世紀後半から16世紀前半と思われる。

原別・野内古銭とも、海岸線付近からの出土であり、海運の発展に伴っての備蓄と思われる。

今回、青森市内4箇所から出土した古銭については、前述のとおり、資料提起を目的として報告した。今後は、これらの分類結果を基礎資料とし、出土地点周辺の歴史的環境や文献資料等を加味して古銭の一括埋蔵の目的・時期などの不明項目を考察していきたいと考えている。

今回、本書を刊行することができたのも、発見者及び土地所有者をはじめ、玉稿をいただいた葛西励氏、さらに資料提供を快諾された古銭所蔵者の方々、さらには有益な御教示をいただいた研究者の方々と、多くの関係機関と各位の御協力と御指導の賜ものによるものと深く感謝を申し上げます。本書がいささかでも歴史研究のうえで一翼を担うことができれば担当者一同、望外の喜びであります。

（担当者一同）

参考文献

1938年　成田　末五郎　「津軽地方発掘古銭の研究」『青森県郷土誌料集』2
1958年　成田　末五郎　「乳井出土古銭について」『東奥文化』11
1958年　中橋　掬泉編　『新撰古銭大鑑』
1961年　成田　末五郎　「石川町出土古銭について」『陸奥史談』31
1961年　工藤　正・八木沢　誠次　『猿賀出土古銭について』
1962年　裕　光　「市浦村十三出土古銭調査」『東奥文化』21
1962年　日本考古学協会編　『日本考古学辞典』
1963年　成田　末五郎　「蟹田町南沢出土の古銭を訪ねて」『東奥文化』24
1967年　矢島　恭介　「物資の交易と貨幣」『日本の考古学』7
1968年　平賀町教育委員会　『平賀町館山出土古銭』
1968年　八幡　一郎　「一括遺物」『新版　考古学講座』1
1971年　日比野　丈夫　「古銭」『新版　考古学講座』9
1972年　日本銀行調査局編　『図録日本の貨幣』1
1972年　市立函館博物館　『函館志海苔古銭』
1972年　奈良　仁　「脇野沢村小沢出土古銭の研究」『うそり』9
1976年　奈良　仁　「中世の下北地方と蠣崎氏」『考古風土記』1
1979年　堺　正義・熊谷　政之・奈良　仁・橘　善光　「風間浦村折戸坂の渡来銭について」『うそり』15
1981年　青森県立郷土館　『尻八館調査報告書』
1981年　佐々木　達夫　「日本海の陶磁貿易」『日本海文化』8
1981年　沼舘　愛三　『津軽諸城の研究』
1982年　青森県教育委員会　『青森県の中世城館』
1984年　鈴木　克彦　「青森県南郷村女ヶ崎から出土した古銭」『考古風土記』9
1985年　是光　吉基　「出土渡来銭の埋没年代」『考古学ジャーナル』249
1986年　坂詰　秀一編　『考古学ライブラリー　出土渡来銭』
1986年　坂詰　秀一　「出土渡来銭研究の視角」『日本考古学論集』5
1986年　神木　哲男　「出土銭から見た日本の中世経済」『日本考古学論集』5
1986年　浪岡町教育委員会　『浪岡城跡□』
1987年　櫻井　清彦・菊地　徹夫編　『蓬田大館遺跡』
1987年　青森県教育委員会　『境開館遺跡発掘調査報告書』
1990年　小笠原　二郎　「原別小笠原家伝承に関する一考察」『原別百年のあゆみ』

本報告書の埋蔵文化財関係図書としての取り扱い。

青森市教育委員では、これまで、昭和37年度に『三内霊園遺跡調査概報』を埋蔵文化財関係の発掘調査報告書の第1号として刊行し、以後以下のとおり今日まで15冊の発掘調査報告書を順次刊行してきた。本報告書は、第1号の刊行から数え16冊目となる。

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	□ 1962『三内霊園遺跡調査枚報』
〃	2	□ 1965『四ッ石遺跡調査概報』
〃	3	□ 1967『玉清水遺跡調査概報』
〃	4	□ 1970『三内丸山遺跡調査概報』
〃	5	□ 1971『野木和遺跡調査報告書』
〃	6	□ 1971『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』
〃	7	□ 1971『大浦遺跡調査報告書』
〃	8	□ 1973『孫内遺跡発掘調査報告書』
		□□ 1979『蛍沢遺跡』
		□□ 1983『四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983『山野峠遺跡』
〃		1985『長森遺跡発掘調査報告書』
〃		1986『田茂木野遺跡発掘調査報告書』
〃		1986『横内城跡発掘調査報告書』
〃		1988『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書第16集　山吹（1）遺跡発掘調査報告書		

青森市埋蔵文化財調査報告書第17集

埋蔵文化財出土遺物調査報告書

発行年月日　平成4年3月30日

発　　行　青森市教育委員会

〒030　青森市中央一丁目22－5

TEL　0177－34－1111

印　　刷　青森オフセット印刷株式会社

〒030　青森市本町二丁目11－16

□TEL　0177－75－1431